

# 平成27年度 昼間・土曜スクーリング(後期)の手引

## スクーリング受講手続日程

① 受講手続説明会	9 / 19 (土)	在学生 <sup>※1</sup> 新入生 <sup>※2</sup>
② 受講届提出締切	10 / 1 (木)	web の場合【締切日 24 時 00 分まで】 窓口提出の場合【事務取扱時間内厳守】 郵送の場合【締切日消印有効】
③ 受講許可・不許可通知発送予定日	10 / 16 (金)	※受講届提出者のみ
④ 振込用紙発送予定日	10 / 16 (金)	※発送予定日から5日経過しても振込用紙が届かない場合は、会計課へ連絡してください。
⑤ 受講料振込期限	10 / 30 (金)	銀行窓口にて【締切日厳守】
⑥ 結果通知	平成 28 年 2 月中旬	発送予定
※1 在学生…平成 26 年度以前に入学した <b>在学生</b> 及び、 平成 26 年度の <b>科目履修生</b> で平成 27 年度継続者		
※2 新入生…平成 27 年度 <b>1 学年入学生</b> 及び <b>編入学生</b> 、 <b>教職生</b> 、 <b>科目履修生</b>		

## 開講日程

昼間開講日程	9 / 24 (木) ~ 1 / 27 (水)
土曜開講日程	【10月】3・10・24 【11月】7・14・21・28 【12月】19
補講予定日	平成 28 年 1 月 9 日 (土), 21 日 (木), 22 日 (金)



日本大学通信教育部

# 開 講 日 程

## 開講日程

年	月	日	月	火	水	木	金	土
平成27年		2	3	4	5	6	7	8
		夏 休 み						
		29	30	31	1	2	3	4
	9月	6	7	8	9	10	11	12
		13	14	15	16	17	18	19
		20	21 敬老の日	22 国民の休日	23 秋分の日	24 後期 昼 1	25 後期 昼 1	26
		27	28	29 後期 昼 1	30 後期 昼 1	1 後期 昼 2	2 後期 昼 2	3 後期 土曜 昼 1・2
	10月	4 創立記念日	5	6 後期 昼 2	7 後期 昼 2	8 後期 昼 3	9 後期 昼 3	10 後期 土曜 昼 3・4
		11	12 体育の日	13 後期 昼 3	14 後期 昼 3	15 後期 昼 4	16 後期 昼 4	17
		18	19	20 後期 昼 4	21 後期 昼 4	22 後期 昼 5	23 後期 昼 5	24 後期 土曜 昼 5・6
		25	26	27 後期 昼 5	28 後期 昼 5	29 後期 昼 6	30 後期 昼 6	31
	11月	1	2	3 文化の日	4 後期 昼 6	5 後期 昼 7	6 後期 昼 7	7 後期 土曜 昼 7・8
		8	9	10 後期 昼 6	11 後期 昼 7	12 後期 昼 8	13 後期 昼 8	14 後期 土曜 昼 9・10
		15	16	17 後期 昼 7	18 後期 昼 8	19 後期 昼 9	20 後期 昼 9	21 後期 土曜 昼 11・12
		22	23 勤労感謝の日	24 後期 昼 8	25 後期 昼 9	26 後期 昼 10	27 後期 昼 10	28 後期 土曜 昼 13・14
		29	30	1 後期 昼 9	2 後期 昼 10	3 後期 昼 11	4 後期 昼 11	5
	12月	6	7	8 後期 昼 10	9 後期 昼 11	10 後期 昼 12	11 後期 昼 12	12
		13	14	15 後期 昼 11	16 後期 昼 12	17 後期 昼 13	18 後期 昼 13	19 後期 土曜 昼 15・試験
		20	21	22 後期 昼 12	23 天皇誕生日	24 後期 昼 14	25 後期 昼 14	26
		27	28	29	30	31	1 元日	2
平成28年	1月	3	4	5	6	7	8	9 後期 土曜補講日
		10	11 成人の日	12 後期 昼 13	13 後期 昼 13	14 後期 昼 15	15 後期 昼 15	16
		17	18	19 後期 昼 14	20 後期 昼 14	21 補講日	22 補講日	23
		24	25	26 後期 昼 15	27 後期 昼 15	28	29	30
		31	1	2	3	4	5	6

…授業日及び補講日

後期補講は1月9日(土)、1月21日(木)、1月22日(金)の3日間だけでなく、その他の月曜日・土曜日にも実施することがあります。補講が行われる場合、指定された補講日に出席する必要があります。

また、補講を行う時限は他講座の補講日程の関係上、必ずしも通常と同じ時限で開講されるものとは限りません。以上のことを承知した上で申込みをしてください。

# はじめに

面接授業（スクーリング）とは、教員による直接の講義・演習・実技を受講することをいいます。その目的は、教材による在宅学習では十分に学修効果を上げることが困難な科目の一面を補い、教育効果を高めることにあります。このような主旨・目的から、スクーリングは卒業のための必修となっています。

本学の通信教育部では、学生に多くの受講機会が得られるよう、多種多様なスクーリングを開講しています。この『手引』は、その実施要領などをとりまとめて掲載しています。

スクーリングを受講希望する場合には、手続きの前にこの『手引』をよく読み、その指示に従って受講してください。

## 昼間・土曜スクーリングの特色

昼間・土曜スクーリングが他のスクーリングと異なる点は、学期を通して一貫した内容の授業を行うことにあります。

また、大学では適正規模の授業を実施し、かつ多くの学生が等しく受講機会を得られるように一人（受講者）当たりの受講制限を設けていますが、このスクーリングもその例外ではありません。

さらにこのスクーリングでは、2年生以上の学生を対象に卒業論文指導講座を設け、その指導の強化充実を図り、より優れた卒業論文を期待しています。

## 【受講の調整について】

スクーリングには、十分な教育効果を得るための適正な受講者数の基準が設定されています。受講申込者数が、適正受講者数でない場合、大学側で受講の調整を行うことがあります。

調整にあたっては、「受講機会の均等」の観点から、各申込者の受講調整履歴、スクーリング受講状況、単位修得状況、在学年数等を総合的に判断し、対象者を確定しますので、あらかじめご了承ください。

なお、講座の適正人数は、おおよそ下表の人数を目安としますが、講座の特性、スクーリングの形態、スクーリング会場の試験時定員数、パソコン台数及び受講学生の履修要件等により、下表によらない場合もあります。

講 座	受講者数の上限	受講者数の下限
外国語科目講座	65 名	5 名
演 習 講 座	30 名	5 名
上記以外の講座	100 名	10 名

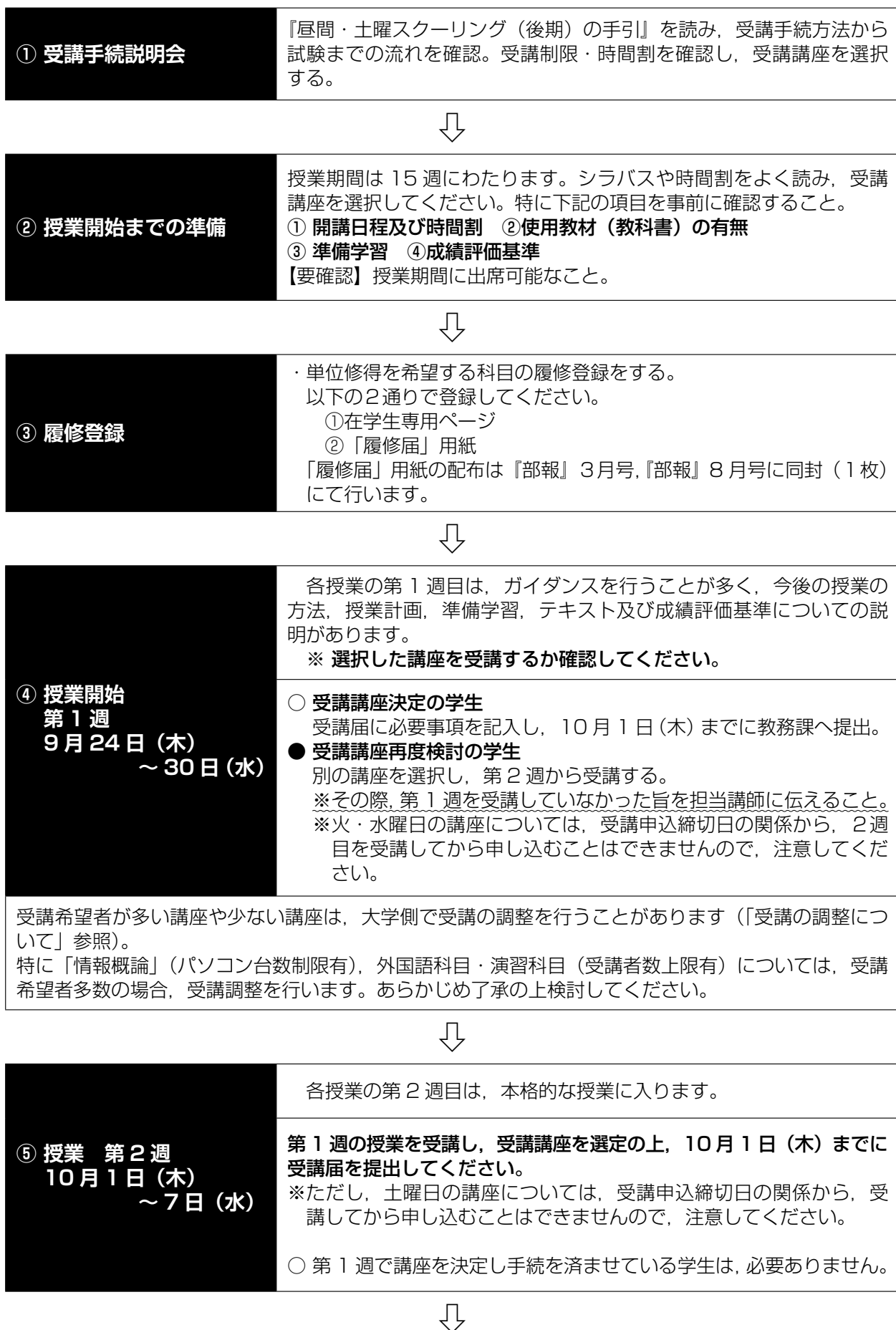
〔調整方法等〕

- 希望した講座が受講者数の上限を超えた場合、同じ曜日に開講されている同じ科目の講座に振り分けることがあります。
- 超過人数の状況により新たに講座を増設（分割）して開講する場合があります。
- 上記①・②の方法で対応できない場合、調整対象者は当該講座の受講ができません。
- 受講申込者数が下限に満たない場合、開講を取りやめることがあります。
- 「受講許可講座」及び「講師」の決定は、受講許可通知書にて通知します。したがって、受講許可講座以外の講座の受講は、認められません。また、一度決定した受講許可講座の追加・変更はできません。



# 目 次

<b>I</b>	受講申込から受講料納入までの流れ	2
<b>II</b>	時間割	4
	1 2 学年以上の時間割	4
	2 1 学年学部学科別の時間割	6
	3 卒業論文指導時間割	10
<b>III</b>	開講講座表	12
	1 「開講講座表」の見方	12
	2 開講講座表	13
<b>IV</b>	受講講座の選定	20
	1 受講申込対象者	20
	2 受講講座数	20
	3 受講制限	20
<b>V</b>	受講手続	22
	1 講座を申し込む	22
	2 受講届を提出する	26
	3 申込講座の変更・追加	26
	4 受講許可通知書を確認する	27
	5 受講料等の納入	28
	6 使用教材の購入	29
<b>VI</b>	受講及び試験	32
	1 講座受講時の注意点	32
	2 スクーリング結果の確認	33
<b>VII</b>	シラバスと使用教材	34
<b>VIII</b>	通学定期券の購入手続	92
<b>IX</b>	各種用紙	95
	「為替」送付時の注意事項	96
	教材購入用紙（丸沼書店用）	97
	教材購入願（通信教育教材購入用）	99
	平成 27 年度 昼間スクーリング受講届	



## ⑥ 受講届提出

提出締切：10月1日（木）  
18：00（事務取扱時間）まで  
（web）締切日 24 時 00 分まで

提出先：（郵送）提出締切日 消印有効  
（窓口）教務課窓口提出のみ 事務取扱時間内厳守  
1号館ポストの提出は不可  
（教務課で確認し受付をするため）

※1 受講届で申し込んだ講座がわかるように必ず申込内容の控えを取り各自で保管してください。

※2 提出期限を過ぎてからの講座変更及び辞退はできません。また受講講座の追加募集は行いませんので、10月1日（木）までに受講する全ての講座を決定した上で提出してください。

⑦ 受講許可・不許可通知書の  
発送

提出された「受講届」に基づき、大学が受講審査を行い、「スクーリング受講許可・不許可通知書」を送付します。

**発送予定日：10月16日（金）**

届き次第、必ず以下の記載内容を確認してください。

- ※1 申込講座・時間割の確認及び担当講師
- ※2 充当科目コード  
特に外国語科目、各種演習科目は注意（後掲 25 ページ参照）。



## ⑧ 受講料の振込用紙発送

受講許可者には、スクーリング受講料の振込用紙を郵送します。

**発送予定日：10月16日（金）**

発送予定日から5日経過しても振込用紙が届かない場合は会計課へ連絡してください。



## ⑨ 受講料の納入

「スクーリング受講許可・不許可通知書」及び「振込用紙」に記載された事項を確認の上、受講料を下記の納入期限までに納入してください。

**受講料納入期限：10月30日（金）**

銀行窓口のみ ※当日取扱時間まで

- ※ 受講料（1 講座 10,000 円、情報概論は 13,000 円）

⑩ 昼間・土曜スクーリングの  
手続完了

昼間・土曜スクーリング（後期）の手続は完了しました。  
「スクーリング受講許可・不許可通知書」は、スクーリング受講中は必ず携行してください。

# Ⅱ 時間割

## 1 2 学年以上の時間割

時限	火曜日		水曜日	
	講座名	担当講師名	講座名	担当講師名
1 時限目 9:00 } 10:30	政治学	関根 二三夫	商法Ⅱ	大久保 拓也
	西洋史入門	高草木 邦人	経済地理学	田村 和彦
	経営学	山田 敏之	英語 K	小澤 賢司
2 時限目 10:40 } 12:10	文学	野口 恵子	英語 C	飯野 朝世
	英語基礎 A	八木 茂那子	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	中島 伸
	民法Ⅲ	根本 晋一	憲法	名雪 健二
	日本史特講Ⅱ	鍋本 由徳	英語音声学	森 晴代
	マーケティング	佐藤 稔	考古学概説	野中 和夫
			商学総論	佐藤 稔
3 時限目 13:00 } 14:30	英語 A	アレックス ブラウン	歴史学 A	堀井 弘一郎
	民法Ⅰ	根本 晋一	心理学 A	野村 康治
	国際政治学	大八木 時広	英語 D	北原 安治
	金融論	谷川 孝美	国文学基礎講義	木村 一
	商業政策	佐藤 稔	英語学概説	青木 克憲
			日本思想史Ⅰ	島田 健太郎
	【卒業論文指導】	近藤 健史		
	【卒業論文指導】	小澤 賢司		
4 時限目 14:40 } 16:10	法学 A	根本 晋一	歴史学 B	渡邊 浩史
	中国語Ⅰ・Ⅱ	稲葉 明子	法学 B	高須 則行
	国文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	近藤 健史	心理学 B	野村 康治
	スピーチコミュニケーションⅠ	アレックス ブラウン	国文学講義Ⅴ（近代）	永岡 健右
	科学哲学	江川 晃	日本史概説	横山 則孝
	史学概論	高綱 博文	経済原論	片平 光昭
	法学 C	高澤 弘明		
	【卒業論文指導】	佐藤 稔		
	【卒業論文指導】	猪野 恵也		
5 時限目 16:20 } 17:50	哲学 A	江川 晃	文化史	渡邊 浩史
	英語 B	小山 誠子	英語 E	石川 勝
	日本政治史	瀧川 修吾	法哲学	高須 則行
	イギリス文学史Ⅱ	猪野 恵也	国語学概論	保科 恵
	日本経済史	飯島 正義	国文学基礎演習	木村 一
			東洋史特講Ⅱ	堀井 弘一郎
	【卒業論文指導】	根本 晋一		
	【卒業論文指導】	中澤 瞳		
	【卒業論文指導】	高綱 博文		

後期期間：平成 27 年 9 月 24 日～平成 28 年 1 月 27 日  
土曜日のスクーリングの名称は、「土曜スクーリング」とする。

開講日程

後	期	9 / 24 ~ 1 / 27	補 講 予 定 日	1 / 9, 1 / 21, 22
---	---	-----------------	-----------	-------------------



木曜日		金曜日		土曜日	
講座名	担当講師名	講座名	担当講師名	講座名	担当講師名
英語 F	鈴木 ふさ子	刑事訴訟法	船山 泰範	経済学	田村 和彦
行政学	関根 二三夫	東洋思想史 I	本間 直人	TOEIC B	町田 純子
東洋史入門	綿貫 哲郎			国文学講義 II (中古)	笹生 美貴子
情報概論 A	中村 典裕			中国経済論	斉 中凌
情報概論 C	久東 義典			簿記論 I	遠藤 洋介
				教育の方法・技術論 (後期)	古賀 徹
				<b>土曜スクーリング日程</b>  授業時間 9:00~12:10  <b>【後期】</b> 9月: なし 10月 3日・10日・24日 11月 7日・14日・21日・28日 12月 19日  試験日: 12/19	
英語 G	岡田 善明	哲学 B	中澤 瞳		
TOEIC A	鈴木 ふさ子	フランス語 I・II	大庭 克夫		
国文学演習	近藤 健史	西洋史特講 I	池本 今日子		
英語史	真野 一雄	広告論	樋口 紀男		
哲学基礎講読	瀧田 寧				
<b>【卒業論文指導】</b>	関根 二三夫				
英米文学演習	猪野 恵也	英語 J	中村 則子		
東洋史概説 (後期)	菊池 敏夫	政治学原論	吉野 篤		
日本史演習	鍋本 由徳	アメリカ経済論	小林 通		
経済学概論	陸 亦群	市場調査論	最上 健児		
商業史	横山 則孝				
現代教職論 (後期)	古賀 徹				
<b>【卒業論文指導】</b>	真野 一雄				
英語 H	大住 有里子	社会学	服部 慶巨		
英文法	真野 一雄	英語基礎 B	中村 則子		
哲学演習	中澤 瞳	政治学特殊講義	秋山 和宏		
		国文学概論	山崎 泉		
		宗教学概論	合田 秀行		
<b>【卒業論文指導】</b>	鍋本 由徳				
<b>【卒業論文指導】</b>	陸 亦群				
西洋思想史 II	中澤 瞳	英語学演習	青木 克憲		
東洋史演習	高綱 博文	西洋史演習	藤井 信行		
国際経済論	陸 亦群	情報概論 B	一島 力男		
社会科・公民科教育 法 I (後期)	古賀 徹	社会学 B	服部 慶巨		

後期: 9 / 24 ~ 1 / 27	
曜日・時限	講座名
木曜 3 時限	生徒指導・進路指導論
木曜 5 時限	社会科・地理歴史科教育法 I
土曜	教育原論／教育の思想

## 2 1 学年の時間割

### ① 1 年生が昼間・土曜スクーリングにおいて修得可能な科目

授業科目区分	総合教育科目	外国語科目	保健体育科目	専門教育科目	自由選択科目
① 卒業所定単位	20 単位	8 単位 ・文学専攻（英文学）のみ英語で10単位が必要。	2 単位	94 単位 ・文学専攻（英文学）のみ92単位 ・経済学部・商学部のみ82単位	経済学部・商学部のみ12単位
② 昼間スクーリングにおいて1 学年で修得可能な単位数	20 単位	8 単位 （英語を選択した場合） 2 単位 （英語以外を選択した場合）	2 単位	学部・専攻部門により異なるため、学修要覧にて確認してください。	
③ 昼間スクーリングにおいて1 学年で修得可能な科目	哲学	英語Ⅰ	保健体育講義Ⅰ	下表のとおり	総合教育科目、外国語科目又は、自学部の専門教育科目の中から選択
	歴史学	英語Ⅱ			
	文学	英語基礎※2			
	法学	TOEIC			
	社会学	ドイツ語Ⅰ	体育実技Ⅰ		
	政治学	フランス語Ⅰ			
	経済学※1	中国語Ⅰ			
	心理学				

	法律	政治経済	文学専攻 (国文学)	文学専攻 (英文学)	哲学専攻	史学専攻	経済	商業
③ 昼間スクーリングにおける開講科目	憲法	憲法	国文学基礎講義	英文法	哲学基礎講義	西洋史入門	経済学概論	簿記論 I
	民法 I	政治学原論	国文学概論		東洋思想史 I		経済原論	経営学
		経済学原論	国語学概論					商学総論

※ 1 経済学科では「経済学」を総合教育科目の20 単位の中に入めることができません。ただし、自由選択科目（12 単位）に入めることができます。

※ 2 文学専攻（英文学）は受講できません。

### 申込にあたって

#### ①講座名について

科目名の後ろにあるアルファベットは複数開講講座を識別するために与えています。複数開講講座の場合は、必ず「科目名」＋「アルファベット」を『講座名』として表記しています。

#### ②講座選択について

総合教育科目や外国語科目には、複数開講講座があります。その講座についてはどちらか1つを選択してください。

●総合教育科目 20 単位以上になるよう講座を選択してください。

※「哲学 A」「哲学 B」、「歴史学 A」「歴史学 B」、「法学 A」「法学 B」はそれぞれどちらか1つを選択してください。

#### ●外国語科目

外国語科目「英語」の場合：

・「英語」の講座は複数開講しています。この授業内容は「英語 I」「英語 II」を含んでおり、各自が申込む際はどちらで受けるか意思表示をする必要があります。必ず申告してください。

・「英語基礎」「TOEIC」講座は複数開講していますが、1つしか受講できません。

※文理学部文学専攻（英文学）受講可能科目：「英語 I」「英語 II」「TOEIC」

それ以外の学科専攻の受講可能科目：「英語 I」「英語 II」「TOEIC」「英語基礎」

外国語科目「ドイツ語」の場合：

「ドイツ語 I・II」を選択してください。科目としては「ドイツ語 I（D10100）」で登録されます。

外国語科目「フランス語」の場合：

「フランス語 I・II」を選択してください。科目としては「フランス語 I（E10100）」で登録されます。

外国語科目「中国語」場合：

「中国語 I・II」を選択してください。科目としては「中国語 I（F10100）」で登録されます。

#### ●専門教育科目

上記③専門教育科目に記載された科目が受講可能科目です。

## ② 学部・専攻部門の時間割

時限	火曜日			水曜日		
	講 座 名	担当講師名	備 考	講 座 名	担当講師名	備 考
1 時限目	政治学	関根 二三夫	全員可	英語 K (I・II)	小澤 賢司	全員可
9:00 }	西洋史入門	高草木 邦人	史学専攻のみ			
	経営学	山田 敏之	商業学科のみ			
2 時限目  10:40 }	文学	野口 恵子	全員可	英語 C (I・II)	飯野 朝世	全員可
	英語基礎 A	八木 茂那子	英文学専攻のみ不可	ドイツ語 I・II	中島 伸	全員可
				憲法	名雪 健二	法律学科のみ
				商学総論	佐藤 稔	商業学科
3 時限目  13:00 }	英語 A (I・II)	アレックス ブラウン	全員可	歴史学 A	堀井 弘一郎	全員可
	民法 I	根本 晋一	法律学科のみ	心理学 A	野村 康治	全員可
				英語 D (I・II)	北原 安治	全員可
				国文学基礎講義	木村 一	国文学専攻のみ
4 時限目  14:40 }	法学 A※	根本 晋一	法学部・文理学部	歴史学 B	渡邊 浩史	全員可
	中国語 I・II	稲葉 明子	全員可	法学 B	高須 則行	全員可
	法学 C※	高澤 弘明	経済学部・商学部	心理学 B	野村 康治	全員可
				経済原論	片平 光昭	経済学科のみ
5 時限目  16:20 }	哲学 A	江川 晃	全員可	文化史	渡邊 浩史	全員可
	英語 B (I・II)	小山 誠子	全員可	英語 E (I・II)	石川 勝	全員可
				国語学概論	保科 恵	国文学専攻のみ

※前期にて、定員超過のため、振分を行っている講座です。そのため、備考欄のとおり前期で受講した先生以外には申し込みできません。

時限	木曜日			金曜日		
	講 座 名	担当講師名	備 考	講 座 名	担当講師名	備 考
1 時限目  9 : 00 ) 10 : 30	英語 F ( I ・ II )	鈴木 ふさ子	全員可	東洋思想史 I	本間 直人	哲学専攻のみ
2 時限目  10 : 40 ) 12 : 10	英語 G ( I ・ II )	岡田 善明	全員可	哲学 B	中澤 瞳	全員可
	TOEIC A	鈴木 ふさ子	全員可	フランス語 I ・ II	大庭 克夫	全員可
	哲学基礎講読	瀧田 寧	哲学専攻のみ			
3 時限目  13 : 00 ) 14 : 30	経済学概論	陸 亦群	経済学科のみ	英語 J ( I ・ II )	中村 則子	全員可
				政治学原論	吉野 篤	政治経済学科のみ
4 時限目  14 : 40 ) 16 : 10	英語 H ( I ・ II )	大住 有里子	全員可	社会学 A	服部 慶亘	全員可
	英文法	真野 一雄	英文学専攻のみ	英語基礎 B	中村 則子	英文学専攻のみ不可
				国文学概論	山崎 泉	国文学専攻のみ
5 時限目  16 : 20 ) 17 : 50				社会学 B	服部 慶亘	全員可

時限	土曜日		
	講 座 名	担当講師名	備 考
1 時限目	経済学	田村 和彦	全員可
9 : 00 }	TOEIC	町田 純子	全員可
	簿記論 I	遠藤 洋介	商業学科のみ
10 : 30			
2 時限目	土曜日程		
	授業時間 9 : 00 ~ 12 : 10  【後期】 9 月 : なし 10 月 3 日・10 日・24 日 11 月 7 日・14 日・21 日・28 日 12 月 19 日		
10 : 40 }	試験日 : 12 / 19		
12 : 10			
3 時限目			
13 : 00 }			
14 : 30			
4 時限目			
14 : 40 }			
16 : 10			
5 時限目			
16 : 20 }			
17 : 50			

### 3 卒業論文指導時間割

- ① 昼間・土曜スクーリング開講期間中，下表の時間帯で開講されます。  
 なお，補講日及び試験期間中は開講しませんので注意してください。
- ② 実施場所等は，通信教育部1号館1階掲示板にてお知らせします。
- ③ 事前予約等は不要です。指導開始時間になりましたら，実施場所にて待機してください。  
 ※ 開始時間に希望学生がいない場合には，指導を取止める場合がありますので，ご了承ください。
- ④ 以下の担当教員の「個別」，「専門」指導は，当該担当教員の指導分野に限っての指導となります。

時限	火曜日			水曜日		木曜日			金曜日	土曜日
1 時間目 9:00 ～ 10:30										
2 時間目 10:40 ～ 12:10				講師 田村 和彦 〔経済学科〕	指導区分 一般 卒論作成に関する 一般事項 個別 経済地理学 地域経済 専門	講師 関根 二三夫 〔政治経済学科〕	指導区分 一般 卒論作成に関する 一般事項 個別 政治学 行政学 専門			
3 時間目 13:00 ～ 14:30	講師 近藤 健史 〔文学専攻（国文学）〕	指導区分 一般 卒論作成に関する 一般事項 個別 日本古典文学 専門 上代文学	講師 小澤 賢司 〔文学専攻（英文学）〕	指導区分 一般 卒論作成に関する 一般事項 個別 英語学 専門		講師 真野 一雄 〔文学専攻（英文学）〕	指導区分 一般 卒論作成に関する 一般事項 個別 英語学 専門			
4 時間目 14:40 ～ 16:10	講師 佐藤 稔 〔商業学科〕	指導区分 一般 卒論作成に関する 一般事項 個別 商業政策 専門	講師 猪野 恵也 〔文学専攻（英文学）〕	指導区分 一般 卒論作成に関する 一般事項 個別 イギリス文学 専門		講師 鍋本 由徳 〔史学専攻〕	指導区分 一般 卒論作成に関する 一般事項 個別 日本史 日本考古 専門 指導担当学生のみ	講師 陸 亦群 〔経済学科〕	指導区分 一般 卒論作成に関する 一般事項 個別 国際経済論 経済開発論 専門	
5 時間目 16:20 ～ 17:50	講師 根本 晋一 〔法律学科〕	指導区分 一般 卒論作成に関する 一般事項 個別 民法 専門	講師 中澤 瞳 〔哲学専攻〕	指導区分 一般 卒論作成に関する 一般事項 個別 哲学 専門						
	講師 高綱 博文 〔史学専攻〕	指導区分 一般 卒論作成に関する 一般事項 個別 外国史 専門 アジア近現代史								

*MEMO*

[illegible]

## 1 「開講講座表」の見方

(表は見やすいように網掛けが入っています)

### 【曜日】【時限】

各講座の開講される曜日・時限を記載しています。

### 【講座コード】

スクーリングで開講される講座のコード番号です。講座(担当講師)を識別するために設けられています。受講届の講座コード欄(4桁)にはこの講座コードを記入してください。

### 【開講講座名】

英語等は複数開講されていますので、講座名の後ろにアルファベット等を記載し各講座を識別しています。講座名の記入にあたっては必ず識別毎の講座名を記入してください。

### 【充当科目コード・充当科目名】

開講講座の単位修得により充当される科目名及びその科目のコード番号です。充当したい科目をこのコード番号によって申告してください。

受講届の充当科目コード欄(6桁)には、この充当科目コードを記入してください。

### 【制限・注意】

#### 【配当学年】

各講座を申し込むことができるようになる学年が記載されています。記載された学年に達していない学年は申し込むことができません。

#### 【受講条件】

その他の受講制限及び諸注意等を記載しています。



## 2 開講講座表【曜日・時限順】

※見やすいように1講座ごとに網掛けをしています。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意	
					科 目 コード	科 目 名	配当 学年	受 講 条 件
火	1	AB11	政 治 学	関根 二三夫	B11700	政 治 学	1 年	
火	1	AB12	西 洋 史 入 門	高草木 邦人	Q20300	西 洋 史 入 門	条件 参照	史学専攻のみ 1 学年以上申 込可。その他は 2 学年以上 申込可。
火	1	AB13	経 営 学	山田 敏之	S20200	経 営 学	条件 参照	商学部のみ 1 学年以上申 込可。その他は 2 学年以上申 込可。
火	2	AB21	文 学	野口 恵子	B11300	文 学	1 年	
火	2	AB22	英 語 基 礎 A	八木 茂那子	C10600	英 語 基 礎	1 年	英文学専攻は申込不可
火	2	AB23	民 法 III	根本 晋一	K30200	民 法 III	2 年	
火	2	AB24	日 本 史 特 講 II	鍋本 由徳	Q30900	日 本 史 特 講 II	2 年	
火	2	AB25	マーケティング	佐藤 稔	S30500	マーケティング	2 年	
火	3	AB31	英 語 A	アレックス ブラウン	C10100	英 語 I	1 年	I ～Ⅳのいずれに該当させ るのか充当科目コードを必 ず記入してください。
					C10200	英 語 II		
					C10300	英 語 III	2 年	
					C10400	英 語 IV		
火	3	AB32	民 法 I	根本 晋一	K20200	民 法 I	条件 参照	法律学科のみ 1 学年以上申 込可。その他は 2 学年以上 申込可。
火	3	AB33	国 際 政 治 学	大八木 時広	L30200	国 際 政 治 学	2 年	法・文理学部のみ申込可。
					R32700	国 際 政 治 論		経済学部のみ申込可。
					S33200	国際政治学概論		商学部のみ申込可。
火	3	AB34	金 融 論	谷川 孝美	R31800	金 融 論	2 年	
火	3	AB35	商 業 政 策	佐藤 稔	S31000	商 業 政 策	2 年	
火	4	AB41	法 学 A	根本 晋一	B11500	法 学 (日本国憲法2単位を含む)	1 年	
火	4	AB42	中 国 語 I・Ⅱ	稲葉 明子	F10100	中 国 語 I	1 年	Ⅰ・Ⅱのいずれに該当させ るのか充当科目コードを必 ず記入してください。
					F10200	中 国 語 II		
火	4	AB43	国文学特殊講義	近藤 健史	M311S0	国文学特殊講義Ⅰ	2 年	Ⅰ・Ⅱのいずれに該当させ るのか充当科目コードを必 ず記入してください。
					M312S0	国文学特殊講義Ⅱ		

### 注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。  
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意		
					科 目 コード	科 目 名	配当 学年	受 講 条 件	
火	4	AB44	スピーチコミュニケーションI	アレックス ブラウン	N30900	スピーチコミュニケーションI	2年	英文学専攻のみ申込可。	
火	4	AB45	科 学 哲 学	江川 晃	P31300	科 学 哲 学	2年		
火	4	AB46	史 学 概 論	高網 博文	Q30100	史 学 概 論	2年		
火	4	AB47	法 学 C	高澤 弘明	B11500	法 学 (日本国憲法2単位を含む)	1年		
火	5	AB51	哲 学 A	江川 晃	B10700	哲 学	1年		
火	5	AB52	英 語 B	小山 誠子	C10100	英 語 I	1年	I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II			
					C10300	英 語 III	2年		
					C10400	英 語 IV			
火	5	AB53	日 本 政 治 史	瀧川 修吾	L30400	日 本 政 治 史	2年		
火	5	AB54	イギリス文学史Ⅱ	猪野 恵也	N30100	イギリス文学史Ⅱ	条件参照		英文学専攻のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。
火	5	AB55	日 本 経 済 史	飯島 正義	R30500	日 本 経 済 史	2年		
水	1	AC11	商 法 II	大久保 拓也	K30600	商 法 II	2年		
水	1	AC12	経 済 地 理 学	田村 和彦	R32600	経 済 地 理 学	2年	法・文理・経済学部のみ申込可。	
					S32200	経 済 地 理		商学部のみ申込可。	
水	1	AC13	英 語 K	小澤 賢司	C10100	英 語 I	1年	I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					C10200	英 語 II			
					C10300	英 語 III	2年		
					C10400	英 語 IV			
水	2	AC21	英 語 C	飯野 朝世	C10100	英 語 I	1年		I～IVのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					C10200	英 語 II			
					C10300	英 語 III	2年		
					C10400	英 語 IV			
水	2	AC22	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	中島 伸	D10100	ド イ ツ 語 Ⅰ	1年	Ⅰ・Ⅱのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。	
					D10200	ド イ ツ 語 Ⅱ			
水	2	AC23	憲 法	名雪 健二	K20100	憲 法	条件参照	法学部のみ1学年以上申込可。その他は2学年以上申込可。	

**注 意**

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。  
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜 日	時 限	講 座 コ ー ド	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限 ・ 注 意	
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配当 学年	受 講 条 件
水	2	AC24	英 語 音 声 学	森 晴代	N30600	英 語 音 声 学	2 年	
水	2	AC25	考 古 学 概 説	野中 和夫	Q30500	考 古 学 概 説	2 年	
水	2	AC26	商 学 総 論	佐藤 稔	S20100	商 学 総 論	条件 参照	商学部のみ 1 学年以上申込 可。その他は 2 学年以上申 込可。
水	3	AC31	歴 史 学 A	堀井 弘一郎	B11100	歴 史 学	1 年	
水	3	AC32	心 理 学 A	野村 康治	B12100	心 理 学	1 年	
水	3	AC33	英 語 D	北原 安治	C10100	英 語 I	1 年	I ～Ⅳのいずれに該当させ るのか充当科目コードを必 ず記入してください。
					C10200	英 語 II		
					C10300	英 語 III	2 年	
					C10400	英 語 IV		
水	3	AC34	国文学基礎講義	木村 一	M20100	国文学基礎講義	条件 参照	国文学専攻のみ 1 学年以上 申込可。その他は 2 学年以 上申込可。
水	3	AC35	英 語 学 概 説	青木 克憲	N30700	英 語 学 概 説	2 年	
水	3	AC36	日 本 思 想 史 I	島田 健太郎	P30800	日 本 思 想 史 I	2 年	
水	4	AC41	歴 史 学 B	渡邊 浩史	B11100	歴 史 学	1 年	
水	4	AC42	法 学 B	高須 則行	B11500	法 学 (日本国憲法 2 単位を含む)	1 年	
水	4	AC43	心 理 学 B	野村 康治	B12100	心 理 学	1 年	
水	4	AC44	国文学講義Ⅴ (近代)	永岡 健右	M30900	国文学講義Ⅴ (近代)	2 年	
水	4	AC45	日 本 史 概 説	横山 則孝	K32200	日 本 史 概 論	2 年	法学部のみ申込可。
					Q30200	日 本 史 概 説		文理・経済・商学部のみ申 込可。
水	4	AC46	経 済 原 論	片平 光昭	R20100	経 済 原 論	条件 参照	経済学部のみ 1 学年以上申 込可。文理・商学部は 2 学 年以上申込可。
					L20200	経 済 学 原 論		法学部政治経済学科のみ 1 学年以上申込可。法律学科 は 2 学年以上申込可。
水	5	AC51	文 化 史	渡邊 浩史	B11200	文 化 史	1 年	
水	5	AC52	英 語 E	石川 勝	C10100	英 語 I	1 年	I ～Ⅳのいずれに該当させ るのか充当科目コードを必 ず記入してください。
					C10200	英 語 II		
					C10300	英 語 III	2 年	
					C10400	英 語 IV		

## 注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。  
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜 日	時 限	講 座 コ ー ド	開 講 講 座 名	担 当 講 師 名	充 当 科 目		制 限 ・ 注 意	
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配 当 学 年	受 講 条 件
水	5	AC53	法 哲 学	高 須 則 行	K318S0	法 哲 学	2 年	
水	5	AC54	国 語 学 概 論	保 科 恵	M20300	国 語 学 概 論	条件 参照	国文学専攻のみ1学年以上 申込可。その他は2学年以上 申込可。
水	5	AC55	国文学基礎演習	木 村 一	M317S0	国文学基礎演習		国文学専攻のみ申込可。
水	5	AC56	東 洋 史 特 講 II	堀 井 弘 一 郎	Q31100	東 洋 史 特 講 II	2 年	
木	1	AD11	英 語 F	鈴 木 ふ さ 子	C10100	英 語 I	1 年	I ～ IVのいずれに該当させる のか充当科目コードを必ず 記入してください。
					C10200	英 語 II		
					C10300	英 語 III	2 年	
					C10400	英 語 IV		
木	1	AD12	行 政 学	関 根 二 三 夫	L30100	行 政 学	2 年	
木	1	AD13	東 洋 史 入 門	綿 貫 哲 郎	Q202S0	東 洋 史 入 門	2 年	
木	1	AD14	情 報 概 論 A	中 村 典 裕	R32300	情 報 概 論	2 年	
木	1	AD15	情 報 概 論 C	久 東 義 典	R32300	情 報 概 論	2 年	
木	2	AD21	英 語 G	岡 田 善 明	C10100	英 語 I	1 年	I ～ IVのいずれに該当させる のか充当科目コードを必ず 記入してください。
					C10200	英 語 II		
					C10300	英 語 III	2 年	
					C10400	英 語 IV		
木	2	AD22	T O E I C A	鈴 木 ふ さ 子	C108S0	T O E I C	1 年	
木	2	AD23	国 文 学 演 習	近 藤 健 史	M404S0	国文学演習 I	3 年	国文学専攻のみ申込可。 I ～ VIのいずれに該当させる のか充当科目コードを必ず 記入してください。
					M405S0	国文学演習 II		
					M406S0	国文学演習 III		
					M407S0	国文学演習 IV		
					M408S0	国文学演習 V		
					M409S0	国文学演習 VI		
木	2	AD24	英 語 史	真 野 一 雄	N30300	英 語 史	2 年	
木	2	AD25	哲 学 基 礎 講 読	瀧 田 寧	P20100	哲学基礎講読	条件 参照	哲学専攻のみ1学年以上申 込可。その他は2学年以上 申込可。

注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。  
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限 ・ 注 意	
					科 目 コード	科 目 名	配当 学年	受 講 条 件
木	3	AD31	英 米 文 学 演 習	猪野 恵也	N404S0	英米文学演習Ⅰ	3年	英文学専攻のみ申込可。 Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。
					N405S0	英米文学演習Ⅱ		
					N406S0	英米文学演習Ⅲ		
木	3	AD32	東 洋 史 概 説	菊池 敏夫	K32300	東 洋 史 概 論	2年	法学部のみ申込可。 文理・経済・商学部のみ申込可。
					Q30300	東 洋 史 概 説		
木	3	AD33	日 本 史 演 習	鍋本 由徳	Q401S0	日本史演習Ⅰ	3年	史学専攻のみ申込可。 Ⅰ・Ⅱのどちらに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。
					Q402S0	日本史演習Ⅱ		
木	3	AD34	経 済 学 概 論	陸 亦群	R20300	経 済 学 概 論	条件参照	経済学部のみ1学年以上申込可。 その他は2学年以上申込可。
木	3	AD35	商 業 史	横山 則孝	S32100	商 業 史	2年	
木	3	AD37	現 代 教 職 論	古賀 徹	T10100	現 代 教 職 論	2年	
木	4	AD41	英 語 H	大住 有里子	C10100	英 語 I	1年	Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。
					C10200	英 語 II		
					C10300	英 語 III	2年	
					C10400	英 語 IV		
木	4	AD42	英 文 法	真野 一雄	N20200	英 文 法	条件参照	英文学専攻のみ1学年以上申込可。 その他は2学年以上申込可。
木	4	AD43	哲 学 演 習	中澤 瞳	P401S0	哲 学 演 習 Ⅰ	3年	哲学専攻のみ申込可。 Ⅰ・Ⅱのいずれに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。
					P402S0	哲 学 演 習 Ⅱ		
木	5	AD51	西 洋 思 想 史 Ⅱ	中澤 瞳	P30600	西 洋 思 想 史 Ⅱ	2年	
木	5	AD52	東 洋 史 演 習	高綱 博文	Q403S0	東洋史演習Ⅰ	3年	史学専攻のみ申込可。 Ⅰ・Ⅱのどちらに該当させるのか 充当科目コードを必ず記入してください。
					Q404S0	東洋史演習Ⅱ		
木	5	AD53	国 際 経 済 論	陸 亦群	R31100	国 際 経 済 論	2年	
木	5	AD55	社 会 科 ・ 公民科教育法Ⅰ	古賀 徹	T20700	社 会 科 ・ 公民科教育法Ⅰ	2年	法学部・哲学専攻・史学専攻・ 経済学部・商学部のみ申込可
金	1	AE11	刑 事 訴 訟 法	船山 泰範	K31700	刑 事 訴 訟 法	2年	
金	1	AE12	東 洋 思 想 史 Ⅰ	本間 直人	P20300	東 洋 思 想 史 Ⅰ	条件参照	哲学専攻のみ1学年以上申込可。 その他は2学年以上申込可。

## 注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。  
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講 座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意	
					科 目 コード	科 目 名	配当 学年	受 講 条 件
金	2	AE21	哲 学 B	中澤 瞳	B10700	哲 学	1 年	
金	2	AE22	フランス語Ⅰ・Ⅱ	大庭 克夫	E10100	フランス語Ⅰ	1 年	Ⅰ・Ⅱのどちらに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					E10200	フランス語Ⅱ		
金	2	AE23	西 洋 史 特 講 Ⅰ	池本 今日子	Q31200	西 洋 史 特 講 Ⅰ	2 年	
金	2	AE24	広 告 論	樋口 紀男	S30900	広 告 論	2 年	
金	3	AE31	英 語 J	中村 則子	C10100	英 語 Ⅰ	1 年	Ⅰ～Ⅳのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					C10200	英 語 Ⅱ		
					C10300	英 語 Ⅲ	2 年	
					C10400	英 語 Ⅳ		
金	3	AE32	政 治 学 原 論	吉野 篤	L20100	政 治 学 原 論	条件参照	政治経済学科のみ 1 学年以上申込可。その他は 2 学年以上申込可。
金	3	AE33	アメリカ経済論	小林 通	R312S0	アメリカ経済論	2 年	
金	3	AE34	市 場 調 査 論	最上 健児	S317S0	市 場 調 査 論	2 年	
金	4	AE41	社 会 学 A	服部 慶亘	B11600	社 会 学	1 年	
金	4	AE42	英 語 基 礎 B	中村 則子	C10600	英 語 基 礎	1 年	英文学専攻は申込不可
金	4	AE43	政治学特殊講義	秋山 和宏	L311S0	政治学特殊講義Ⅰ	2 年	Ⅰ・Ⅱのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					L312S0	政治学特殊講義Ⅱ		
金	4	AE44	国 文 学 概 論	山崎 泉	M20200	国 文 学 概 論	条件参照	国文学専攻のみ 1 学年以上申込可。その他は 2 学年以上申込可。
金	4	AE45	宗 教 学 概 論	合田 秀行	P30400	宗 教 学 概 論	2 年	
金	5	AE51	英 語 学 演 習	青木 克憲	N401S0	英語学演習Ⅰ	3 年	英文学専攻のみ申込可。 Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					N402S0	英語学演習Ⅱ		
					N403S0	英語学演習Ⅲ		
金	5	AE52	西 洋 史 演 習	藤井 信行	Q405S0	西 洋 史 演 習 Ⅰ	3 年	史学専攻のみ申込可。 Ⅰ～Ⅲのいずれに該当させるのか充当科目コードを必ず記入してください。
					Q406S0	西 洋 史 演 習 Ⅱ		
金	5	AE53	情 報 概 論 B	一島 力男	R32300	情 報 概 論	2 年	
金	5	AE54	社 会 学 B	服部 慶亘	B11600	社 会 学	1 年	
土	1・2	AF11	経 済 学	田村 和彦	B11800	経 済 学	1 年	

**注 意**

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。  
その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

曜日	時限	講座 コード	開 講 講 座 名	担当講師名	充 当 科 目		制 限・注 意	
					科 目 コ ー ド	科 目 名	配当 学年	受 講 条 件
土	1・2	AF12	T O E I C B	町田 純子	C108S0	T O E I C	1年	
土	1・2	AF13	国文学講義Ⅱ(中古)	笹生 美貴子	M306S0	国文学講義Ⅱ(中古)	2年	
土	1・2	AF14	中 国 経 済 論	斉 中凌	R313S0	中 国 経 済 論	2年	
土	1・2	AF15	簿 記 論 I	遠藤 洋介	S20300	簿 記 論 I	条件 参照	商学部のみ1学年以上申込 可。その他は2学年以上申 込可。
土	1・2	AF17	教 育 の 方 法・ 技 術 論	古賀 徹	T21700	教育の方法・ 技 術 論	2年	

- ※ 平成23年度 1学年入学生  
 平成24年度 1学年入学生, 2学年編入・再入学生, 科目履修生  
 平成25年度 1学年入学生, 2学年編入・再入学生, 3学年編入・再入学生, 科目履修生  
 平成26年度以降の全入学生

## 注 意

各講座には収容定員・適正定員があります。受講希望者がそれらを超えた場合、大学が任意に講座を分割したり他講師担当の同一科目講座へ振り分けるなどの、受講制限を行います。

その結果、必ずしも希望した担当者の講座を受講できない場合、受講をお断りする場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

# IV 受講講座の選定

## 受講対象者及び受講条件

昼間・土曜スクーリングの受講者は、下記の受講条件を必ず守り、申込みをしてください。

### 1 受講申込対象者 (申込時点において右記 の条件を満たすこと)

- ① 年度授業料を納入していること、または所定の締切日までに納入することができること。
- ② 昼間・土曜スクーリング受講料を納入期日までに納入することができること。
- ③ 昼間・土曜スクーリングの授業日程に出席できること。
- ④ 昼間・土曜スクーリングの試験日程に出席できること。

### 2 受講講座数

#### 【申込講座の上限】 14 講座まで

火曜日から土曜日までの各時限から 1 講座ずつ、最多で 14 講座まで申し込むことができます。  
※履修登録がされている科目のみ申し込みできます。

### 3 受講制限

上記 1, 2 の条件を満たしていても、全ての講座を申し込めるわけではありません。下記の制限により申し込めない講座がありますので、項目を確認し、受講講座を選定してください。

#### ① 学年・学科専攻による受講可能講座の制限について

このスクーリングは平成 27 年度のスクーリングであり、平成 27 年 10 月現在の学年で受講できる講座を選びます。

##### (1) 1 学年生

『学修要覧』『授業科目一覧』の表中で「面接配当学年」欄に「1」と記載されている総合教育科目・外国語科目・各自が指定配本されている専門教育科目が受講可能です。

このスクーリングでは「開講講座表」の「配当学年」が「1 年」とある講座です。また、科目によっては特定の専攻部門しか申し込めない科目もあります。『学修要覧』又は本誌 13 ページ「開講講座表」の「制限・注意」をよく参照してください。

また、1 学年の各学科ごとに時間割がありますので、そちらも参照してください。

##### (2) 2 学年生

『学修要覧』『授業科目一覧』の表中で「面接配当学年」欄に「1」「2」と記載されている科目が受講可能です。

このスクーリングでは「開講講座表」の「配当学年」が「1 年」「2 年」とある講座です。また、科目によっては特定の学科しか申し込めない科目もあります。『学修要覧』又は本誌 13 ページ「開講講座表」の「制限・注意」をよく参照してください。

##### (3) 3・4 学年生

『学修要覧』『授業科目一覧』の表中で「面接配当学年」欄に「1」「2」「3」と記載されている科目が受講可能です。



このスクーリングでは「開講講座表」の「配当学年」が「1 年」「2 年」「3 年」とある講座です。また、科目によっては特定の学科しか申し込めない科目もあります。『学修要覧』又は本誌 13 ページ「開講講座表」の「制限・注意」をよく参照してください。

#### (4) 科目履修生

入学時に申請登録した科目に該当する講座のみ受講できます。

#### ② その他の理由による受講可能講座の制限について

以下のいずれかに該当する場合、その講座は受講できません。

- (1) 既に所定単位を修得している科目及び単位修得方式が確定している講座
- (2) 通年スクーリングを受講する場合
- (3) 受講希望者が適正人員又は授業講堂の収容定員を超えた場合

#### ③ 他のスクーリングとの日程重複による受講可能講座の制限について

昼間・土曜スクーリングの火曜日の講座を申し込む場合、地方スクーリングが月曜日に終了した後、東京に移動し昼間・土曜スクーリングに出席する必要が生じます。

同じく、昼間・土曜スクーリングの金曜日の講座を申し込む場合、授業終了後、地方スクーリング会場に移動しなければなりません。

遅刻しなければ出席できないなど、出席が無理な場合は受講申込みができません。自己責任の元に判断し、申込みをしてください。

## 1 講座を申し込む

スクーリングを受講するためには、ポータルサイトから「スクーリング申請」もしくは、別添の「受講届」の提出が必要となります。受講届は本誌 13 ページ「開講講座表」を参照しながら作成してください。

### 申し込み上の注意事項



「在学生専用ページ」と「受講届」の両方で申し込みがあった場合は、「在学生専用ページ」の内容を有効とします。

#### ① 「在学生専用ページ」による申込み

##### ●申込みの前に

1	申込みには、ID とパスワードが必要です。 ID = 学生番号 初期パスワード = 自分の西暦生年月日（半角数字 8 桁）
2	申込みには、パソコンのメールアドレスの登録が必要です。 登録していない場合は、「在学生専用ページ」にある「NU-AppsG（在学生専用メールアドレス）」を参照して登録してください。

##### ●申込方法

1	通信教育部公式ホームページ (URL : <a href="http://www.dld.nihon-u.ac.jp/index.html">http://www.dld.nihon-u.ac.jp/index.html</a> ) の「在学生ログイン」をクリックしてください。	
2	「学生メニュー」を選択し、「スクーリング申請・取消」をクリックしてください。	
<b>【昼間・土曜スクーリング（後期）の Web 申込期間】</b> <div>2015 年 9 月 19 日（土）10:00～2015 年 10 月 1 日（木）24:00</div>		

3	「未申請スクーリング一覧」から申請したいスクーリングのチェックボックスを選択し、 <b>申請</b> ボタンをクリックしてください。	<p>スクーリング申請一覧</p> <p>※ 申請済みスクーリング一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>選択</th> <th>期間</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>コード</th> <th>スクーリング名</th> <th>受講希望方式</th> <th>申請期限</th> <th>開講日程</th> <th>開催場所</th> <th>申請年月日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>昼間</td> <td>84B6</td> <td>倫理字概論</td> <td>012D100120</td> <td>倫理字</td> <td></td> <td>2015/04/01</td> <td>04/09～01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> <td>2015/02/26</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>取消</b></p> <p>※ 未申請スクーリング一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>選択</th> <th>期間</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>コード</th> <th>スクーリング名</th> <th>受講希望方式</th> <th>申請期限</th> <th>開講日程</th> <th>開催場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>昼間</td> <td>84B6</td> <td>倫理字概論</td> <td>013D100130</td> <td>倫理字</td> <td></td> <td>2015/04/01</td> <td>04/09～01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>昼間</td> <td>01CE</td> <td>哲学 A</td> <td>01CEB10700</td> <td>哲学</td> <td></td> <td>2015/04/01</td> <td>04/09～01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>昼間</td> <td>01BN</td> <td>英語 B</td> <td>043D100430</td> <td>英語Ⅱ</td> <td></td> <td>2015/04/01</td> <td>04/09～01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>申請</b></p>	選択	期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	申請年月日	<input type="checkbox"/>	昼間	84B6	倫理字概論	012D100120	倫理字		2015/04/01	04/09～01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26	選択	期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	<input type="checkbox"/>	昼間	84B6	倫理字概論	013D100130	倫理字		2015/04/01	04/09～01/29	日本大学通信教育部	<input type="checkbox"/>	昼間	01CE	哲学 A	01CEB10700	哲学		2015/04/01	04/09～01/29	日本大学通信教育部	<input type="checkbox"/>	昼間	01BN	英語 B	043D100430	英語Ⅱ		2015/04/01	04/09～01/29	日本大学通信教育部
選択	期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	申請年月日																																																						
<input type="checkbox"/>	昼間	84B6	倫理字概論	012D100120	倫理字		2015/04/01	04/09～01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26																																																						
選択	期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所																																																							
<input type="checkbox"/>	昼間	84B6	倫理字概論	013D100130	倫理字		2015/04/01	04/09～01/29	日本大学通信教育部																																																							
<input type="checkbox"/>	昼間	01CE	哲学 A	01CEB10700	哲学		2015/04/01	04/09～01/29	日本大学通信教育部																																																							
<input type="checkbox"/>	昼間	01BN	英語 B	043D100430	英語Ⅱ		2015/04/01	04/09～01/29	日本大学通信教育部																																																							
4	併用を希望しない場合、 <b>申請実行</b> をクリックしてください。併用を希望する場合、「受講希望方式」の「併用」のチェックボックスを選択し、 <b>申請実行</b> をクリックしてください。	<p>スクーリング申請確認</p> <p>※ スクーリング申請確認</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>コード</th> <th>スクーリング名</th> <th>受講希望方式</th> <th>申請期限</th> <th>開講日程</th> <th>開催場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昼間</td> <td>84B6</td> <td>倫理字概論</td> <td>012D100120</td> <td>倫理字</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 併用</td> <td>2015/04/01</td> <td>04/09～01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>申請実行</b>   <b>戻る</b></p>	期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	昼間	84B6	倫理字概論	012D100120	倫理字	<input checked="" type="checkbox"/> 併用	2015/04/01	04/09～01/29	日本大学通信教育部																																												
期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所																																																								
昼間	84B6	倫理字概論	012D100120	倫理字	<input checked="" type="checkbox"/> 併用	2015/04/01	04/09～01/29	日本大学通信教育部																																																								

## ●受付完了

申請受付が完了すると、登録されているパソコンのメールアドレスに申請受付メールが配信されます。配信されない場合は、「スクーリング一覧」で申請受付が完了しているか確認してください。

## ●申込確認

申込期間に限り、「在学生専用ページ」で確認することができます。

1	申込方法の1～2の手順で、申請中のスクーリングの画面まで進んでください。																							
2	申込みをしたスクーリングの <b>確認</b> ボタンをクリックして、内容を確認してください。	<p>スクーリング申請一覧</p> <p>※ 申請済みスクーリング一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>選択</th> <th>期間</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>コード</th> <th>スクーリング名</th> <th>受講希望方式</th> <th>申請期限</th> <th>開講日程</th> <th>開催場所</th> <th>申請年月日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>昼間</td> <td>84B6</td> <td>倫理字概論</td> <td>012D100120</td> <td>倫理字</td> <td></td> <td>2015/04/01</td> <td>04/09～01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> <td>2015/02/26</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>取消</b></p>	選択	期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	申請年月日	<input type="checkbox"/>	昼間	84B6	倫理字概論	012D100120	倫理字		2015/04/01	04/09～01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26
選択	期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	申請年月日														
<input type="checkbox"/>	昼間	84B6	倫理字概論	012D100120	倫理字		2015/04/01	04/09～01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26														

## ●申込内容の変更・取りやめ

申込期間内に限り、「在学生専用ページ」で変更・取りやめをすることができます。

1	申込方法の1～2の手順で、申請中のスクーリングの画面まで進んでください。																							
2	「申請済みスクーリング一覧」より取消したいスクーリングのチェックボタンを選択し、 <b>取消</b> ボタンをクリックしてください。申込内容を変更する場合は、いったん取消後、再度申請してください。	<p>スクーリング申請一覧</p> <p>※ 申請済みスクーリング一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>選択</th> <th>期間</th> <th>講座コード</th> <th>講座名</th> <th>コード</th> <th>スクーリング名</th> <th>受講希望方式</th> <th>申請期限</th> <th>開講日程</th> <th>開催場所</th> <th>申請年月日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>昼間</td> <td>84B6</td> <td>倫理字概論</td> <td>012D100120</td> <td>倫理字</td> <td></td> <td>2015/04/01</td> <td>04/09～01/29</td> <td>日本大学通信教育部</td> <td>2015/02/26</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>取消</b></p>	選択	期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	申請年月日	<input type="checkbox"/>	昼間	84B6	倫理字概論	012D100120	倫理字		2015/04/01	04/09～01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26
選択	期間	講座コード	講座名	コード	スクーリング名	受講希望方式	申請期限	開講日程	開催場所	申請年月日														
<input type="checkbox"/>	昼間	84B6	倫理字概論	012D100120	倫理字		2015/04/01	04/09～01/29	日本大学通信教育部	2015/02/26														

※ 申込期限後に、スクーリング申込はできません。

## ② 「受講届」による申込み

### (1) 「受講届」記入欄の説明（記入例参照）

#### (ア) 曜日・時限

それぞれ「開講講座表」にあるとおり、記入してください。

#### (イ) 講座名について

「開講講座表」にあるとおり記入してください。  
間違えて「充当科目名」を記入しないよう注意してください。

#### (ウ) 講座コード

「開講講座表」の「講座コード」欄にあるとおり記入してください。

#### (エ) 充当科目コード

開講講座の単位修得により充当できる科目のコード番号です。「開講講座表」の「充当科目コード」欄及び以下の②を参照し、記入してください。

#### (オ) 学生番号・氏名・電話番号

電話番号は記載事項を確認する場合に使用します。確実に連絡のとれる電話番号を記載してください。

提出年月日 平成 年 月 日				
昼間スクーリング受講届				
学生番号	フリガナ 氏名			
□□□□□□□□				
種別コード	□□			
前記は「A」, 後記は「B」				
曜日	時限	講座コード	講座名	充当科目コード
1		□□□□		□□□□□□
2		□□□□		□□□□□□
3		□□□□		□□□□□□
4		□□□□		□□□□□□
5		□□□□		□□□□□□
6		□□□□		□□□□□□
7		□□□□		□□□□□□
8		□□□□		□□□□□□
9		□□□□		□□□□□□
10		□□□□		□□□□□□
11		□□□□		□□□□□□
12		□□□□		□□□□□□
13		□□□□		□□□□□□
14		□□□□		□□□□□□

記入例 0123456789 合計 講座 14 講座まで登録できます。

※ 保健体育講義 I 及び体育実技を申し込む場合、曜日時限の記入は不要です。  
※ 書き替えた場合は希望コース 希望年度で訂正してください。  
※ 本属で他のスクーリングの受講申込はできません。

### (2) 注意事項（「英語」等の外国語科目及び「各演習科目」など）

例えば、「英語」の講座は、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」及び「英語Ⅳ」という科目を含んで開講されます。今回のスクーリングで「英語Ⅰ～Ⅳ」のどの科目に充当させるかは、各自の履修状況・履修計画によって異なります。したがって、英語をスクーリングで受講する際には、「受講届」に記載する充当科目コードによって「英語Ⅰ～Ⅳ」のうちどの科目で受講するのか、各自が大学に申告しなければなりません。

「受講届」では4桁の講座コードと6桁の充当科目コードによって、受講講座(科目)を登録します。コードは「開講講座表」の「講座コード」欄、「科目コード」欄に記載されています。

「英語」の場合、「開講講座表」の「科目コード」欄に4つのコードが記載されていますが、各自の履修計画に合致する科目（「英語Ⅰ～Ⅳ」のいずれか）のコードを、1つ選択してください。

記入例（英語 C を英語Ⅲとして申込む場合）

曜日	時限	講座コード	開講講座名	充当科目コード	科目名（充当科目名）
火	1	●●●●	英 語 A	C10100 C10200 C10300 C10400	英 語 I 英 語 II 英 語 III 英 語 IV
水	2	●●●●	英 語 B	C10100 C10200 C10300 C10400	英 語 I 英 語 II 英 語 III 英 語 IV
木	4	●●●●	英 語 C	C10100 C10200 C10300 C10400	英 語 I 英 語 II 英 語 III 英 語 IV

(2) (1) (4) (3)

- (1) 希望する講座を選択……「英語 C」を選択
- (2) 「英語 C」を選択したことによって講座コード「●●●●」と記入
- (3) その講座でどの科目を充当したいのか選択する……「英語Ⅲ」を選択
- (4) 「英語Ⅲ」を選択したことによって充当科目コードは「C10300」を記入

※ 「……演習」という講座も同様で、例えば「英語学演習」の場合、「英語学演習Ⅰ」「英語学演習Ⅱ」「英語学演習Ⅲ」という科目全てを含んで開講されます。今回のスクーリングで「英語学演習Ⅰ～Ⅲ」のどの科目に充当させるかを「受講届」に記載する充当科目コードによって各自が大学に申告しなくてはなりません。

注 意 事 項
<p>記入上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 黒のボールペン（消せるタイプのペンは不可）を使用し、楷書で正確に記入してください。</li> <li>(2) 受講届提出締切後の追加、変更はできません。</li> <li>(3) 記入誤り、記入漏れによる追加変更は一切いたしません。</li> <li>(4) 下記の場合、大学の判断により事務的な処理を行い講座の決定をいたしますので、希望講座を受講できない可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乱雑な記入</li> <li>・ 記入誤り、記入漏れ</li> <li>・ 記入した講座コード、講座名、充当科目コードの不一致</li> </ul> </li> </ol>

## 2 受講届を提出する

受講届の記入が終わったら、受講届を教務課宛に提出しなければなりません。提出方法は以下の2つがあります。

### ① 教務課窓口へ直接提出

記載内容等を確認し、受け付けするため、必ず係員に提出してください。【締切日当日の受付は事務取扱時間までとします。】

### ② 郵送で提出する

受講届に切手貼付の上、郵送してください。【提出締切日までの消印有効】

#### 郵送提出における注意事項

天災や郵便の遅延・未着そのほかの事故については、いかなる配慮も行いません。

「受講届」が教務課に届かなかった場合、受講ができなくなりますので、特定記録郵便・簡易書留・書留を強くお勧めします。

特定記録郵便の場合、大学受領の記録が残らない取扱いとなりますので、「受講許可通知書」が届くまで、郵送した際の受領証を必ず大切に保管ください。紛失の場合、郵便追跡確認ができなくなります。

また、レポート等、他の書類と一緒に送付するとその間にはさまってしまい、事故の原因になります。受講届は単体で送付してください。

## 3 申込講座の変更・追加

いったん受講届を提出した後に、申込講座の変更、追加及び一部辞退が生じた場合には、以下の手続きを行ってください。

### ① 申込講座変更届用紙

申込講座の変更・追加をする場合は、市販の便箋を使用し、次ページの記入例を参考に変更届を作成してください。

※変更・追加のために、複数の「受講届」を使用した場合や他のスクーリングの「受講届」を使用した場合は、正しい申し込みが判別不能となり、申込が「無効」となりますので、決して使用しないでください。

### ② 記入事項

変更・追加する事項の記入を行うほかに、変更前の申込講座の「開講曜日・時限」「講座コード」「講座名」「充当科目コード」を明記してください。また、自身の所属学部・専攻部門・学生番号・氏名も忘れずに記入してください。

### ③ 提出先・提出方法

「受講届」提出と同様です。

### ④ 提出期間

**10月1日(木)(受講届提出締切日)まで**に提出してください。

※受講届提出期間内に到着した場合のみ有効となります。

## 《記入例》

平成○年○月○日

日本大学通信教育部教務課長 殿

平成 27 年度昼間・土曜スクーリング申込講座変更届

標記のことについて、既に「受講届」にて申し込んだ昼間スクーリングにおける申込講座を下記のとおり変更したく、書面をもってお願いいたします。

記

(当初の申込講座)

曜日・時限	講座コード	講座名	充当科目コード
火曜 1 時限	●●●●	政治学	B11700
火曜 2 時限	●●●●	文学	B11300
火曜 4 時限	●●●●	英語 A	C10100

(変更後の申込講座)

曜日・時限	講座コード	講座名	充当科目コード
火曜 1 時限	●●●●	政治学	B11700
火曜 4 時限	●●●●	英語 A	C10100
水曜 5 時限	●●●●	歴史学 A	B11100

上記のとおり相違ありません。

文理学部文学専攻（英文学）  
学生番号：24153999  
氏名：日大 太郎

## 4 受講許可・不許可通知書を確認する

提出された「受講届」に基づき大学が受講資格審査を行い、その結果を「スクーリング受講許可・不許可通知書」により送付します。

なお、「スクーリング受講許可・不許可通知書」の発送は、10月16日（金）を予定しております。左記予定日から数日経過しても通知が届かない場合は、至急教務課へ連絡してください。

「スクーリング受講許可・不許可通知書」が届いたら、以下の要領で、大学から許可された内容を確認してください。

**充当科目コードの確認**

必ず充当科目コード・単位を確認してください。

「充当科目コード」、及び「単位」欄に表記された内容が、申込み内容と同一であることを確認してください。

「英語」や「演習」などのように「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ…」の区別のあるものや、科目の名称がよく類似している科目がありますので十分注意してください。

### 講座コード・講座名・時間割の確認

必ず講座コード・講座名・時間割を確認してください。

「講座コード」欄に表記された内容が、申込み内容と同一であることを確認してください。受講申込者数により講座が分割されている場合や受講をお断りしている場合があります。

## 5 受講料等の納入

受講許可の下りた講座に対し、振込用紙を送付します。

申込講座の辞退がない場合、受講料を期限までに納入してください。

振込用紙の発送は、10月16日（金）を予定しています。

① 受講料：1 講座 10,000 円 × 受講講座数

「情報概論」のみ 13,000 円（コンピュータ等実習料を含むため）

② 納入期限：10月30日（金） 銀行窓口 ※当日取扱時間まで

③ 納入方法：必ず、大学から送付される振込用紙により銀行窓口から振り込んでください。

### 注 意 事 項

#### ① 納入に際しての注意事項

- (1) 銀行（ゆうちょ銀行を除く）窓口のみの取扱いとなります。会計課窓口及び郵送等での納入はできません。
- (2) 自動振込機（ATM）及びネットバンキングからの納入は受け付けできません。  
**銀行係員が勧めても使用しないでください。**
- (3) 振込用紙に記載された事項を訂正したものは受け付けできません。

#### ② その他の注意事項

- (1) 発送予定日から数日経過しても振込用紙が届かない場合は、至急会計課に連絡してください。  
また、期日までに納入できない事情が発生した場合は、至急、教務課に連絡してください。
- (2) 領収書は受講期間中、常に携帯してください。
- (3) 一度受講料等を納入したのちに受講申込辞退の意思表示があつたとしても、受講料等の返還は行いません。



## 6 使用教材の購入

スクーリングは集中講義形式の授業ですので予習なしでの受講は学修効果が期待できません。受講許可通知書を受け取った後、本誌のシラバス（教科書、参考書）で使用教材が、『通信教育教材』か『市販教材（市販本）』かを確認の上、以下の要領で教材を購入してください（教科書等の価格・送料はシラバスに記載されています）。

教材購入方法の見分け方は、後掲の「③教材購入方法の見分け方」を参照してください。

### 注 意 事 項

「配本申請」、「教材購入」による配本を受け、所持している『通信教育教材』であっても、教材改訂によりシラバスに記載されている「教科書」や「参考書」と異なる場合がありますので、科目名のみによらず、シラバスに掲載されている「教材コード」と所持する『通信教育教材』の教材コードとを照合し、不一致の場合は、教材を購入してください。

なお、教材購入後の変更・取消及び費用の返還はできませんので注意してください。

#### ① 使用教材が『通信教育教材』の場合

**通材**印が付されている教材は、本誌「各種用紙」の「教材購入願」を使用し購入してください。既に今回の使用教材を入手している場合は、改めて「教材購入願」によって購入する必要はありません。教材の送付先は、すべて大学に登録されている各自の住所への発送となります。教材が手元に届くまでは手続完了後、約 1 週間を要しますので、「受講許可通知書」を確認した後、速やかに手続を行ってください。

なお、『通信教育教材』について不明な点は、研究事務課（電話 03-5275-8890）に問い合わせください。

#### ② 使用教材が『市販教材（市販本）』の場合

『市販教材（市販本）』は、一般書店で購入してください。住居地周辺の書店で購入できない場合、

**丸沼**印のついている本については、丸沼書店で購入できます。

（書店名）（株）丸沼書店

（所在地）〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-8-12

（電 話）03-3261-4540

（FAX）03-3261-0118

（営業時間）9：00～20：00（日曜日は休み）

（購入方法）直接店頭（裏表紙案内地図を参照）で購入のほか以下（1）～（3）の方法で通信販売も可能です。

（1）代金引換払（手数料 250 円が別途かかります）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上、上記あてに郵送又は FAX をしてください。

（2）郵便為替（前納）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格＋送料の合計金額分の定額小為替又は郵便為替を同封して上記あてに郵送してください。

（3）現金書留（前納）

本誌「各種用紙」の「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格＋送料の合計金額を同封して上記あてに郵送してください。

不明な点は、丸沼書店に直接問い合わせてください。

『市販教材（市販本）』の価格・送料は『手引』作成時の金額です。改訂等により金額が変わる場合があります。あらかじめご了承ください。



*MEMO*

[illegible]

## 1 講座受講時の注意点

① 掲示板で最新情報の確認	<p>昼間・土曜スクーリングで登校の際は、通信教育部 1 号館 1 階学生ホールにある掲示版で最新情報を確認してから講義に出席してください。</p> <p>【掲示内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9 月 「時間割・講堂表」</li> <li>・ 10 月 「時間割・講堂表」(講堂変更後)</li> <li>・ 1 月 「後期試験講座一覧」</li> </ul> <p>また、「講堂変更」・「休講」等、日々の授業に関する情報についても随時、掲示板でお知らせします。</p>
② 受講上の注意 (出席・欠席・遅刻等)	<p>【出席について】</p> <p>スクーリングは、毎回出席することを原則としています。 交通機関の遅れや特別な事情がある場合以外での遅刻はしないよう心掛けてください。</p> <p>※授業を途中から受講することは、担当教員や周りの受講者に対しても迷惑な行為です。時間に余裕を持って行動してください。</p> <p>【欠席について】</p> <p>止むを得ぬ事情によりスクーリングを欠席した場合は、次回出席時に直接、担当教員へ欠席した旨を伝えてください。</p> <p>※事務局及び講師室では、欠席の連絡は受け付けられません。</p>
③ 受講上の注意 (休講・補講)	<p>【休講について】</p> <p>スクーリング期間中、担当教員の都合や天候により授業を休講する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 事前に情報を得ている場合は、掲示板にてお知らせします。</li> <li>② 当日、急きょ、担当教員の体調不良等の理由により休講する場合は、授業講堂において出席を取り、次回担当教員に出席していたことを伝えます。 (この場合は、掲示板には休講掲示を出しません。)</li> <li>③ その他、天候により急きょ、休講となる場合はホームページにてお知らせします。</li> </ol> <p>【補講について】</p> <p>スクーリング期間中に休講した場合、必ず補講を実施します。補講は、下記の①もしくは②の日程で実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 補講日程に実施 1月9日(土)、21日(木)、22日(金)</li> <li>② 学事日程上、空いている月曜日・土曜日に実施</li> </ol>

## 「スクーリング試験」受験上の注意

- ❶ 「学生証」及び「振込用紙」を机上通路側の監督者が見やすいところに置くこと。受講手続及び受講料納入がない場合、受験できない。
- ❷ 「学生証」を忘れた場合又は未更新の場合は、事前に教務課（講師室）に申し出て指示を受けること。
- ❸ 携帯電話等は、電源を切り、鞆等に収納し身体から離しておくこと。時計・電卓としての使用も禁止する。
- ❹ 持ち込みを許可されたもの以外は机の上に置かないこと。
- ❺ 解答用紙は、1人1枚とし、再交付はしない。
- ❻ 解答用紙の下段、太線枠内※印の事項については、必ずペン又はボールペンで記入すること。当該事項について記載がない場合又は誤記等は採点の対象にならない場合がある。
- ❼ 試験開始後20分以上遅刻した者は受験することができない。
- ❽ 途中退場は、試験監督者の指示がある場合に限り、試験開始30分後から認める。解答用紙を試験監督者に提出して退場すること。なお、用紙の持ち帰りは一切認めない。
- ❾ 試験場では、試験監督者の指示に従うこと。
- ❿ 不正行為（不正とみなされる行為含む）は絶対行わないこと。不正行為を行った場合は、学則により処分（停学・退学等）される。

※ 試験中の参照物等の貸し借りは不正行為とみなす。

## 2 スクーリング結果の確認 ※はがきによる受講届提出者のみ

スクーリングの結果は、教務課から平成27年度授業料及びスクーリング受講料を納入した学生に対し、ポータルサイトまたは郵送にて通知します。

電話・郵便による問合せには一切応じることができません。また、「スクーリング結果通知書」の再発行はいたしません。天災による郵便の遅延・未着や、その他の事故に対していかなる配慮も行えませんが、「スクーリング結果通知書」を紛失した場合などはポータルサイトの単位修得状況確認で確認、又は「単位照合票」等の交付を受け、確認してください。

結果発表時期	平成28年2月下旬
--------	-----------

### ① 結果の表示

結果は、「合格」、「不合格」、「未受講」で発表します。

受講許可のない講座を受験した場合には「無効」とし、単位は修得できません。

### ② 単位数

結果が「合格」の場合、シラバスに記載されている開講単位数を修得したことになり、また同時にスクーリング単位も修得したことになります。

# VII シラバスと使用教材

## 政治過程を基礎から学びましょう

〔政治学〕

火曜日 1 時限

開講単位 2 単位

担当者：関根 二三夫

◆**学修到達目標** 基礎教育としての講義を行います。前期の講義を踏まえ、選挙や政党、压力団体など、政策の立案や政策の決定に影響を及ぼす要因を、基礎から学んでみたいと思います。この講義においては、政治が我々の生活に大きな影響を及ぼすと同時に、我々に身近な現象であることを学びます。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、政治に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めていきます。講義で知り得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習や復習が必要になります。

◆**準備学修** 政治学は社会科学のカテゴリーに入り、人間社会を対象にする学問です。社会における問題点を把握し、あるべき社会を考える必要があります。学修の準備として、メディアの情報に関心を持ち、テキストを熟読するなど、それぞれの単元について2時間程度の予習をし、また同様に2時間程度の復習が必要になります。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 選挙制度 ※原則や選挙権について説明します。	9 回目 わが国の压力団体 ※特徴を中心に説明します。
2 回目 選挙区 ※画定や選挙区制について説明します。	10 回目 コミュニケーション ※機能・類型について説明します。
3 回目 代表選出の形態 ※少数、多数、比例代表などを説明します。	11 回目 コミュニケーション ※方向について説明します。
4 回目 政党 ※概念・特徴・発展過程を説明します。	12 回目 リーダーシップ ※リーダーの役割を中心に説明します。
5 回目 政党 ※形態・機能を説明します。	13 回目 地方自治 ※わが国における沿革を中心に説明します。
6 回目 政党 ※問題点を説明します。	14 回目 政治と行政 ※二分論・連続論・関連論を説明します。
7 回目 压力団体 ※概念・特徴を説明します。	15 回目 講義内容の総括
8 回目 压力団体 ※活動・問題点を説明します。	

◆**教科書** 〔教材〕『政治学 B11700』 通信教育教材（教材コード 000279） 1,800 円（送料込）

◆**参考書** 〔丸沼〕『教養政治学』 岩井奉信 黒川貢三郎 関根二三夫他 南窓社 3,132 円（税込）（送料 350 円）

◆**成績評価基準** 試験 70%，平常点 30% ※試験同様、小テストへの解答等、平常点も重視します。

◆**授業相談（連絡先）：**

## 西洋史を学ぶためのスタート地点

〔西洋史入門〕

火曜日 1 時限

開講単位 2 単位

担当者：高草木 邦人

◆**学修到達目標** 本講義では、西洋史を学ぶうえで必要とされている知識と技術の基礎を学習します。具体的には、文献収集の方法、概説書や専門書の読み方、研究テーマの設定、史料批判などです。また、西洋史において重要な研究・理論なども取り上げ、歴史を研究するうえで何が重要であるのかも学びます。本講義の学習により、受講生は自立的に西洋史を研究するためのスタート地点に立つことができます。

◆**授業方法** 基本的に講義形式をとりますが、文献・史料の講読や授業内レポートといった演習的な要素も盛り込んでいきます。また、講義で学習したことを自分自身で実践するために、数回の課題レポートを課する予定です。なお、受講者の人数とその理解度に応じて、下記の授業計画を若干修正することがあります。

◆**準備学修** 高等学校の教科書を受講前までに必ず読んでおいて下さい。本講義は古代史から近現代までを扱う通史ではないので、高等学校の世界史 A の教科書などを事前に読んで、歴史の知識を蓄えながら、世界史の大まかな流れを把握しておいて下さい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 前学期の復習と本講義のガイダンス	9 回目 史料を読む：言説研究と政治文化
2 回目 専門書を読む〔概要編〕	10 回目 史料を読む〔実践編〕
3 回目 専門書を読む：古代・中世史研究	11 回目 理論書を読む〔概要編〕
4 回目 専門書を読む：近現代史研究	12 回目 理論書を読む：近代世界システム論の把握
5 回目 専門書を読む〔実践編〕	13 回目 理論書を読む：言語論的展開からの問い
6 回目 史料を読む〔概要編〕	14 回目 理論書を読む〔実践編〕
7 回目 史料を読む：プロソポグラフィの調査	15 回目 後学期のまとめと確認
8 回目 史料を読む：ミクロヒストリアの世界	

◆**教科書** 〔丸沼〕『歴史学って何だ？』 小田中直樹 PHP 新書 PHP 研究所 2004 年 734 円（税込）（送料 215 円）

また、〔当日資料配布〕講義当日にプリントの配布も予定しています。

◆**参考書** 授業中に適時指示する。

◆**成績評価基準** 試験（40%）、課題レポート（20%）、平常点（40%）。平常点は、授業中に配布するリアクション・ペーパーや授業内レポート、そして授業態度などを参考に評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ◆経営学の基本を理論と事例で学ぶ

## 〔経営学〕

火曜日 1 時限

開講単位 2 単位

担当者：山田 敏之

◆**学修到達目標** 本講義では、現代企業の本質及び直面する諸問題を明らかにしつつ、経営学の基礎的な概念、考え方、手法について理解を深めることを目標とします。新聞、雑誌、テレビのニュース等で報道される企業の行動を、経営学の理論によって説明できるようになることが到達点となります。後期は経営組織、モチベーション、リーダーシップ、経営財務、企業の社会的責任といった問題を扱います。

◆**授業方法** 概ね指定したテキストに従い、黒板での板書を基本とした講義形式の授業を行います。具体的な企業経営のケース（事例）やグラフ等の関連資料については配布資料、パワーポイントを使用します。理論の説明とケース（事例）を組み合わせることで、より実践性の高い内容にしていきたいと思います。なお、講義の終了前に、その日の講義の内容あるいは企業経営に関する時事的な問題に関する小テストを毎回実施します。

◆**準備学修** 毎回の授業の課題に沿って指定したテキストの該当部分をあらかじめ読んでおいてください。授業計画で示された経営学の諸概念について、分からない言葉や用語等があれば事前に経営学辞典、経済学辞典あるいは参考書を用いて調べてください。経営学はきわめて現実性の高い学問領域ですので、日本経済新聞、日経産業新聞等の新聞や日経ビジネス、東洋経済、エコノミストといった経済雑誌にも絶えず目を通すようにしておいてください。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 イントロダクション	9 回目 リーダーシップの基礎的な概念と資質理論
2 回目 組織の定義と伝統的な組織原則	10 回目 リーダーシップの行動理論
3 回目 組織構造Ⅰ：職能別組織と事業部制組織	11 回目 リーダーシップのコンティンジェンシー理論
4 回目 組織構造Ⅱ：マトリックス組織	12 回目 経営財務Ⅰ：財務諸表の見方と分析
5 回目 組織構造Ⅲ：カンパニー制と持株会社	13 回目 経営財務Ⅱ：損益分岐点分析
6 回目 モチベーションの定義と理論の概要	14 回目 企業の社会的責任
7 回目 モチベーションのコンテンツ理論	15 回目 まとめ
8 回目 モチベーションのプロセス理論：期待理論	

◆**教科書** 〔丸〕『経営学イノベーションⅠ 経営学入門 第2版』十川廣國 中央経済社 2,592 円（税込）  
（送料 300 円）

◆**参考書** 〔丸〕『人と組織を活かす経営管理論』青木幹喜編著 八千代出版 3,024 円（税込）（送料 300 円）  
〔丸〕『経営学イノベーションⅢ 経営戦略論 第2版』十川廣國編著 中央経済社 2,592 円（税込）  
（送料 300 円）

◆**成績評価基準** 平常点（毎回の小テスト）（20%）、最終試験（80%）。毎回出席することを前提として評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## 文学の表現を考える

〔文学〕

火曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：野口 恵子

◆**学修到達目標** 21 世紀の我々からすると異文化の世界にある『万葉集』の表現を考察しながら、文学作品の表現史の展開の様相を把握し、古代文学の全体像への理解を深める。

◆**授業方法** 講義形式。板書も行うので、各自ノートを持参すること。もちろん自分の「ノート」を作成することを求める。

◆**準備学修** 歌の内容については説明するが、口語訳は行わない。各自で不十分な箇所を調べておくこと。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 額田王の歌を学ぶ①	9 回目 大伴坂上郎女の歌を学ぶ②
2 回目 額田王の歌を学ぶ②	10 回目 大伴坂上郎女の歌を学ぶ③
3 回目 額田王の歌を学ぶ③	11 回目 大伴家持の歌を学ぶ①
4 回目 柿本人麿の歌を学ぶ①	12 回目 大伴家持の歌を学ぶ②
5 回目 柿本人麿の歌を学ぶ②	13 回目 東歌を学ぶ
6 回目 大伴旅人の歌を学ぶ①	14 回目 防人歌を学ぶ
7 回目 大伴旅人の歌を学ぶ②	15 回目 まとめ
8 回目 大伴坂上郎女の歌を学ぶ①	

◆**教科書** 丸沼『訳文 万葉集』森淳司編 笠間書院 1,944 円（税込）（送料 350 円）

◆**参考書** 授業内で紹介する。

◆**成績評価基準** レポート試験（80%）、平常点（20%）。遅刻は認めません。

◆**授業相談（連絡先）：**

## 楽しく読めるエッセイで英語の基礎力を向上させましょう 〔英語基礎 A〕

火曜日 2 時限

開講単位 1 単位

担当者：八木 茂那子

◆**学修到達目標** 基礎的な英語の向上、特に初級・初中級レベルの方を対象に読解力を伸ばすこと、そのために効果的な学習方法を授業で体得し実践、英語の総合運用能力を向上させることを目的とします。

◆**授業方法** 平易な英語で書かれた色々なジャンルの、楽しい話題を取り扱ったエッセイを読み、練習問題で内容の把握と文法力の向上を図ります。授業では基礎力を養うのに効果的な様々なトレーニングを、個人で、あるいはペアで、また時にはグループで、と、色々なアクティビティを取り入れながら演習を行います。（受講者のレベルに応じ、シラバスの内容を変更することがあります。）

◆**準備学修** 授業で取り上げる各 Unit を① CD チェック ②語彙チェック ③ CD を流しながら同時に音読する。一回目は辞書を引かずに、2 度目は辞書や参考書を診ながら練習問題を解きます。指定された『English Grammar』を各 1 回につき 2 頁をやってくること。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	9 回目 Unit 16 / Chapter16
2 回目 Unit 11 / Chapter11	10 回目 Unit 17 / Chapter17
3 回目 Unit 12 / Chapter12	11 回目 Unit 18 / Chapter18
4 回目 Unit 13 / Chapter13	12 回目 Unit 19 / Chapter19
5 回目 Unit 14 / Chapter14	13 回目 Unit 20 / Chapter20
6 回目 Unit 15 / Chapter15	14 回目 期末試験
7 回目 Review Test	15 回目 試験の解答・解説
8 回目 解答・解説	

◆**教科書** 丸沼『It's Time to Read!』（楽しく読んで学ぶ基礎英語）八木 町田 S. Ryan 共著 南雲堂 1,404 円（税込）（送料 215 円）

丸沼『English Grammar（ビジュアル英文法）』黒川 裕一 著 南雲堂 1,296 円（税込）（送料 215 円）

◆**参考書** 丸沼『Forest』総合英語 Forest（フォレスト）石黒昭博 監修／奥タカユキ他 著・編著 桐原書店 1,641 円（税込）（送料 350 円）

◆**成績評価基準** 筆記試験 50%＋平常点（提出物、小テスト、発表、Oral Test 他）50%による総合評価（受講者のレベルにより調整を加えることがあります。）

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



## □債権総論の体系と論点

〔民法Ⅲ〕

火曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：根本 晋一

◆**学修到達目標** 民法学における債権法と債権総論の位置づけ、債権総論の意義と体系、主要な論点を理解することを目  
標といたします。

◆**授業方法** 1 受講者数が多いことから、担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用いたします。  
2 法改正や新判例の追加等により、シラバス（授業計画）どおりに進まないことがあります。

◆**準備学修** 前回講義時における板書事項を、しっかりと読み直してきてください。なお、本講義は板書事項が多いこと  
を、ご承知おきください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目（前期の続き）債権の効力③	9 回目 多数当事者の債権債務関係①
2 回目 同上④	10 回目 同上②
3 回目 同上⑤	11 回目 同上③
4 回目 同上⑥	12 回目 債権の消滅①
5 回目 債権譲渡①	13 回目 同上②
6 回目 同上②	14 回目 同上③
7 回目 同上③	15 回目 まとめ
8 回目 同上④	

◆**教科書** 指定いたしません。

◆**参考書** **通材**『民法Ⅲ K30200』通信教育教材（教材コード 000354）2,600 円（送料込）

◆**成績評価基準** 全回出席を原則として、筆記試験または、本講義終了後に提出していただくレポートの評価点 80%、  
その他授業態度など 20%

◆**授業相談（連絡先）：**

## □江戸時代初期の歴史的特質とは

〔日本史特講Ⅱ〕

火曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：鍋本 由徳

◆**学修到達目標** 江戸幕府が創設されてから当面の間は、閣僚個々の能力に依る政治が展開されますが、徐々に組織とし  
ての体裁を整えていくようになります。また外国人は江戸幕府をどうみたのでしょうか。本講義では、徳川家のもつ特  
質を家臣団、対外関係などから理解すること、史料の読解を通じて歴史を思考する能力を向上させることを目標とします。

◆**授業方法** 専門教育科目であることから、史学専攻生が主として日本史の研究を進めていくための視点の置き方に留意  
して講義を進めます。配布プリントを使い、その内容を中心に講義します。江戸時代の深い知識は問いませんが、基礎  
は必要です。準備学修は忘れないでください。授業終了直前に、理解度チェックを適宜おこないます（正誤問題）。

◆**準備学修** 講談社『日本の歴史』シリーズなど、織豊政権から江戸時代初期のことを記したものを事前に目を通してく  
ださい。下記シラバスのキーワードは調べておきましょう。日本史を学習する機会がなかった受講生は高校日本史を事  
前に勉強してから講義に臨んでください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 徳川秀忠・家光政権～講義の概要～	9 回目 戦国大名から近世大名へ
2 回目 徳川家の家臣団編成	10 回目 家光の目指した政治とは何か
3 回目 出頭人政治の特質	11 回目 大名の区分と問題点
4 回目 老中制形成と江戸幕府	12 回目 家綱・綱吉政権への橋渡し
5 回目 幕閣譜代藩の役割	13 回目 幕藩官僚制の確立・展開へ
6 回目 秀忠政権と外国人	14 回目 江戸幕府政治史研究の今後の展望
7 回目 家光政権と外国人	15 回目 まとめ
8 回目 武家女性の政治への関わり	

◆**教科書** **当日資料配布** 当日プリント配布。

◆**参考書** **丸沼**『日本近世の歴史 2 将軍権力の確立』杉田善雄 吉川弘文館 3,024 円（税込）（送料 300 円）  
**当日資料配布** その他、適宜プリントにて提示する。

◆**成績評価基準** レポート試験（授業内提出）（70%）、平常点（理解度チェック 30%）をベースにした総合評価。なお、  
講義に毎回出席した場合に 100%の評価対象となります。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ◆現代マーケティングの構成

〔マーケティング〕

火曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：佐藤 稔

◆学修到達目標 現代マーケティングの構成要素、マーケティング・ミックスの内容のちプロモーション、販売経路などについて理解する。

◆授業方法 テキスト及び参考資料を通した講義形式。

◆準備学修 テキストに目を通しておくこと。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 販売経路の役割	9 回目 販売員活動の重要性
2 回目 販売経路の形態	10 回目 販売員のあり方
3 回目 販売経路政策の基本	11 回目 販売促進（狭義）の意義
4 回目 店舗づくりのコンセプト	12 回目 販売促進（狭義）の対象
5 回目 店舗づくりの展開方向	13 回目 商品陳列の方法
6 回目 広告の役割・種類	14 回目 物流の意義と機能
7 回目 広告に対する社会の評価	15 回目 物流システム化・まとめ
8 回目 広告計画	

◆教科書 教材『マーケティング S30500』 通信教育教材（教材コード 000182） 2,200 円（送料込）

◆参考書 講義の中で必要に応じ指示。

◆成績評価基準 授業への参加、テストにより総合的に評価。

◆授業相談（連絡先）：

## ◆English Communication Skills

〔英語 A〕

火曜日 3 時限

開講単位 1 単位

担当者：アレックス ブラウン

◆学修到達目標 In this course we will study, comprehend and use natural English dialogue from scenes of a popular movie. Big Fish, starring Ewan McGregor.

◆授業方法 We will use the scenes from the movie for listening comprehension, vocabulary usage and expansion with further practice of idioms and expressions used in the dialogue of the movie.

◆準備学修 Prepare to discuss comprehension questions provided by the teacher in a group format.

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 Introduction, Movie viewing Scene 1 vocabulary study	9 回目 7&8 Continued
2 回目 Scenes 1&2 comprehension questions and role play	10 回目 Scenes 9&10 vocab,comprehension questions and role play
3 回目 Scene 3&4 vocabulary study	11 回目 9&10 Continued
4 回目 Scenes 3&4 comprehension questions and role play	12 回目 9&10 Continued
5 回目 Movie viewing Scenes 5&6 vocabulary study	13 回目 Vocabulary quiz #2
6 回目 Comprehension questions and role play	14 回目 Review for Final
7 回目 Vocabulary quiz	15 回目 Final Test
8 回目 Scenes 7&8 vocab,comprehension questions and role play	

◆教科書 No text will be required. Students will be provided with handouts. Students are expected to bring a notebook and a folder to keep handouts in.

◆参考書 None.

◆成績評価基準 Grades will be based on participation, two quizzes, and a final test.

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## 民法総則の体系と論点

〔民法Ⅰ〕

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：根本 晋一

◆**学修到達目標** 民法学における民法総則の位置づけ、民法総則の意義と体系、主要な論点を理解することを目標といたします。

◆**授業方法** 1 受講者数が多いことから、担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用いたします。  
2 法改正や新判例の追加等により、シラバス（授業計画）どおりに進まないことがあります。

◆**準備学修** 前回講義時における板書事項を、しっかりと読み直してきてください。なお、本講義は板書事項が多いことを、ご承知おきください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 法律行為①	9 回目 条件と期限・期間①
2 回目 同上②	10 回目 同上②
3 回目 同上③	11 回目 時効①
4 回目 同上④	12 回目 同上②
5 回目 同上⑤	13 回目 同上③
6 回目 同上⑥	14 回目 同上④
7 回目 同上⑦	15 回目 まとめ
8 回目 同上⑧	

◆**教科書** 指定いたしません。

◆**参考書** **通材**『民法Ⅰ K20200』通信教育教材（教材コード 000407）2,300 円（送料込）

◆**成績評価基準** 全回出席を原則として、筆記試験または、本講義終了後に提出していただくレポートの評価点 80%、その他授業態度など 20%

◆**授業相談（連絡先）：**

## 国際政治の基礎

〔国際政治学〕

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：大八木 時広

◆**学修到達目標** 後期の授業では、まず理論を取り上げる。古典的リアリズムからネオリアリズムに至る流れ、そして国際レジーム論や「民主主義による平和論」といったリベラリズム理論の流れを中心に取り上げる。また地域、グローバル・イシューの視点も検討する。

◆**授業方法** 基本的には講義主体。ただし一方的な講義ではなく、対話形式も試みる予定。また授業の中でまとめを兼ねた小テストを実施の予定。

◆**準備学修** 事前にテキストを読み概略を予習しておくことが望ましい（とくに 1、4、6～12 章）。なお予習の際、大きな流れを理解しておくことが重要である。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 国際政治理論の入門	9 回目 地域研究 ～ EU ①
2 回目 古典的リアリズム（1）	10 回目 地域研究 ～ EU ②
3 回目 古典的リアリズム（2）	11 回目 地域研究 ～ アジアの民主化①
4 回目 リベラリズムの理論	12 回目 地域研究 ～ アジアの民主化②
5 回目 ネオリアリズムの理論（1）	13 回目 地域研究 ～ アジアの地域協力
6 回目 ネオリアリズムの理論（2）	14 回目 グローバル・イシュー（1）
7 回目 相互依存論とレジーム論	15 回目 グローバル・イシュー（2）
8 回目 民主主義による平和論	

◆**教科書** **通材**『国際政治論 R32700／国際政治学 L30200／国際政治学概論 S33200』

通信教育教材（教材コード 000501）2,850 円（送料込）

〈この教材は市販の『NEXT 教科書シリーズ 国際関係論』佐渡友哲 信夫隆司共編（弘文堂）と同一です〉

◆**参考書** 授業内で紹介。

◆**成績評価基準** 筆記試験（70%）＋平常点（30%・小テストを含む）

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## 金融政策の基礎を学ぶ

〔金融論〕

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：谷川 孝美

◆**学修到達目標** この講義では、わが国の中央銀行である日本銀行の機能や役割を含めて、現在行われている異次元の金融緩和などの金融政策がどのようなものなのか、また、その理論的な背景にはどのようなものがあるのかなどを理解し、経済を考える基礎を養うことを目的とします。

◆**授業方法** 授業計画にしたがって、パワーポイントを利用した講義形式で行います。講義では基礎的な事柄を中心に、平易な解説をする予定です。講義の進行状況によっては授業計画が前後することもあります。なお、貨幣の定義や金利などの基本的な事柄は取り扱いませんので、昼間の前期、および春期スクーリングを履修しておくことがのぞましいでしょう。また、**夏期スクーリング受講者は同一内容となるので受講不可とします。注意してください。**

◆**準備学修** 金融政策の影響などを理解するためには、マクロ経済学の基礎が重要になります。事前準備として確認しておくとういでしょう。また、理解を深めるためにも、授業計画にあるトピックスについて、参考書などで予習をしておくとういでしょう。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	9 回目 伝統的な金融政策
2 回目 さまざまな金融市場	10 回目 現在の金融政策と金融調節
3 回目 直接金融、間接金融、市場型間接金融	11 回目 ゼロ金利政策、量的緩和政策
4 回目 銀行の役割と機能	12 回目 異次元の金融緩和政策
5 回目 中央銀行の役割	13 回目 金融政策の理論—貨幣数量説
6 回目 日本銀行の機能と業務—発券銀行	14 回目 金融政策の理論—IS-LM 分析
7 回目 日本銀行の機能と業務—銀行の銀行	15 回目 まとめ 試験
8 回目 日本銀行の機能と業務—政府の銀行	

◆**教科書** 指定しない。**〔当日資料配布〕** 当日プリントを配布します。

◆**参考書** 『現代の金融入門【新版】』池尾和人 筑摩書房  
〈上記の本は品切れのため図書館等を利用してください〉  
**〔丸沼〕**『はじめて学ぶ金融のしくみ』家森信善 中央経済社 2,592 円（税込）（送料 300 円）  
**〔丸沼〕**『日本銀行の機能と業務』日本銀行金融研究所編 有斐閣  
（日本銀行のホームページ <http://www.imes.boj.or.jp/japanese/pf.html> にあります）  
その他、授業時に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 最終（期末）試験を中心に、レポートや課題の提出、平常点などにより総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

## 商業政策と消費者問題

〔商業政策〕

火曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：佐藤

稔

◆学修到達目標 消費者取引における適正化のあり方について理解する。

◆授業方法 配布資料に基づく講義形式。

◆準備学修

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 消費の起源と消費者の概念	9 回目 消費者保護法の概要
2 回目 表紙者問題の発生	10 回目 消費者保護法から消費者基本法へ
3 回目 大衆消費社会の到来	11 回目 消費者取引の適正化
4 回目 消費者問題の背景	12 回目 契約締結過程の諸問題
5 回目 消費者被害の発生	13 回目 具体的取引の適正化
6 回目 消費者政策の意義	14 回目 安全対策の推進 (1)
7 回目 消費者保護の視点	15 回目 安全対策の推進 (2)・まとめ
8 回目 消費者保護法制定の背景	

◆教科書 〔当日資料配布〕必要な資料は配布。

◆参考書 講義の中で必要に応じ指示。

◆成績評価基準 授業への参加，テストにより総合的に評価。

◆授業相談（連絡先）：

## 法学入門

〔法学 A〕

火曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：根本

晋一

◆学修到達目標 大学に学び，学士の称号を取得する者に相応しい法的教養の涵養をめざします。

◆授業方法 1 受講者数が多いことから，担当教員がイニシアチブをとる講義形式を採用いたします。  
2 法改正や新判例の追加等により，シラバス（授業計画）どおりに進まないことがあります。

◆準備学修 前回講義時における板書事項を，しっかりと読み直してきてください。なお，本講義は板書事項が多いことを，ご承知おきください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 国家と法(公法・最高法規としての“憲法”)①	9 回目 財産関係と法(私法・財産法としての“民法”と“商法”)，家族関係と法(私法・身分関係・相続関係を規律する法としての“民法”)⑥
2 回目 同上②	10 回目 犯罪と法(公法・犯罪と刑罰に関する法としての“刑法”)①
3 回目 同上③	11 回目 同上②
4 回目 財産関係と法(私法・財産法としての“民法”と“商法”)，家族関係と法(私法・身分関係・相続関係を規律する法としての“民法”)①	12 回目 同上③
5 回目 同上②	13 回目 裁判と法(公法・裁判のプロセスを規律する“訴訟法”)①
6 回目 同上③	14 回目 同上②
7 回目 同上④	15 回目 まとめ
8 回目 同上⑤	

◆教科書 指定いたしません。

◆参考書 〔教材〕『法学 B11500』 通信教育教材（教材コード 000394） 1,700 円（送料込）

◆成績評価基準 全回出席を原則として，筆記試験または，本講義終了後に提出していただくレポートの評価点 80%，その他授業態度など 20%

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

## □漢字に頼らないリスニング力

〔中国語Ⅰ・Ⅱ〕

火曜日 4 時限

開講単位 1 単位

担当者：稲葉 明子

◆**学修到達目標** 漢字の意味がわかることは大きな強みでもあります。初期の関門を越えるためには足枷になります。対面式授業の利点を発揮して中国語の発音を完全に理解し、漢字に頼らない中国語吸収の素地を作ります。語順・時量・アスペクト等、中国語特有の独特な世界観を、実際の場面から把握し、文法的理解へ繋げていきます。

◆**授業方法** 前期に学習習慣が確立した人は、授業をペースメーカーにして毎週一定量の単語と言い回しを覚えていきましょう。あと一歩というひと、毎回発音記号から始めますので挽回する時間は十分にあります。朗読を意識した教材ですので、できれば本文を暗誦するくらいに読み込みます。

◆**準備学修** 授業で初見の場면을自力で把握する訓練をしますので、予習ではなく、復習と翌週の小テスト対策が毎回の家庭学習となります。教科書のさまざまな例文や「おんどくプラス」も、日本語に訳すのではなく、場面を想像しながら音が口をついてでてくるところまで練習してください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 第 9 課：「いつ」／年齢	9 回目 第 16 課：存現文／受身文
2 回目 第 10 課：「有点」「一点」	10 回目 まとめ
3 回目 第 11 課：時刻／連動文	11 回目 第 17 課：方向補語／持続相
4 回目 第 12 課：「了」／前置詞／助動詞	12 回目 第 18 課：比較文／助動詞
5 回目 まとめ	13 回目 第 19 課：可能補語／「是～的」
6 回目 第 13 課：進行相／使役	14 回目 第 20 課：処置文／程度補語／兼語文
7 回目 第 14 課：量詞／結果補語	15 回目 教場試験・まとめ
8 回目 第 15 課：様態補語／時量補語	

◆**教科書** 丸沼『音読中国語（入門編）』相原茂・蘇紅 朝日出版社 2,484 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** 教場で指示します。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み、小テストなどにより総合的に評価します。試験は、リスニングが中心となります。受講前に予想できる内容ではなく、柔軟な発想が必要ですが、指示通りに取り組めば、難しいものではありません

◆**授業相談（連絡先）：**

## □風土記の世界を楽しもう

〔国文学特殊講義〕

火曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：近藤 健史

◆**学修到達目標** 律令国家の完成をめざし、『古事記』『日本書紀』の編集を命じた朝廷は、諸国に『風土記』の提出を命じた。同時期に成立し、内容的にも重なる部分が少なくないのに、『風土記』は、あまり読まれない。今回、読むことで、当時の諸国の人々の生活や考え方などを知ることができる。また『風土記』の旅、ゆかりの地をめぐる楽しみも増す。

◆**授業方法** テキストを用いて、五つの国の『風土記』を読む。  
地名起源伝承、古老の伝説・伝承を中心に、地図などを見ながら楽しむ。

◆**準備学修** 五つの「風土記」が入っているテキストであれば、訳本でもよいので、「あらすじ」を読んでおいて欲しい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	9 回目 豊後国風土記を読む（1）
2 回目 『風土記』誕生の背景	10 回目 豊後国風土記を読む（2）
3 回目 成立事情	11 回目 肥前国風土記を読む（1）
4 回目 播磨国風土記を読む（1）	12 回目 肥前国風土記を読む（2）
5 回目 播磨国風土記を読む（2）	13 回目 常陸国風土記を読む（1）
6 回目 出雲国風土記を読む（1）	14 回目 常陸国風土記を読む（2）
7 回目 出雲国風土記を読む（2）	15 回目 『風土記』逸文を読む・まとめ
8 回目 出雲国風土記を読む（3）	

◆**教科書** 五つの国の「風土記」と「逸文」が入っているものであれば、何でも可。口語訳本、文庫でも可。

◆**参考書** 丸沼『風土記』新編日本古典文学全集 小学館 5,029 円（税込）（送料 460 円）

入門的には

丸沼『風土記 謎解き散歩』瀧音能之 新人物文庫 925 円（税込）（送料 300 円）

丸沼『図説 地図とあらすじでわかる風土記』坂本勝 青春出版社 1,223 円（税込）（送料 215 円）

◆**成績評価基準** 「最終試験」による。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## Speech Communication 1

## 〔スピーチコミュニケーションⅠ〕

火曜日 4 時限

開講単位 1 単位

担当者：アレックス ブラウン

◆**学修到達目標** This course will focus on communication skills, mainly speaking and listening. The emphasis will be on using English in an authentic context and developing fluency.

◆**授業方法** We will be using a topic-based syllabus where students will learn vocabulary, language structures and functions commonly used relating to the topics. Students will then perform activities that incorporate the language covered in the section such as group tasks or role-plays.

◆**準備学修** Be prepared to speak English each and every class.

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 Orientation, Ice breakers.	9 回目 Topic 8 Future
2 回目 Topic 5 Obligations	10 回目 Topic 8 continued
3 回目 Topic 5 continued	11 回目 Topic 9 International culture
4 回目 Topic 6 Suggestions	12 回目 Topic 9 continued
5 回目 Topic 6 continued	13 回目 Topic 9 continued
6 回目 Topic 7 Conditionals	14 回目 Prepare for testing
7 回目 Topic 7 continued	15 回目 Writing Test : Speaking test
8 回目 Group presentation	

◆**教科書** No text will be required. Students will be provided with handouts.

◆**参考書** Please bring a dictionary to class.

◆**成績評価基準** students will be graded on class participation, one group-presentation, quizzes, and a final test.

◆**授業相談（連絡先）：**

## 認識の構造に迫る

## 〔科学哲学〕

火曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：江川 晃

◆**学修到達目標** 人間の認識行動の機構を、理性論と経験論、实在論と観念論、という哲学的観点から把握し、さらに、認識を発展（動態）的にとらえる立場を考察することにより、新しい形而上学の可能性について考える。

◆**授業方法** 教科書 3・4 分冊を講義する。授業後に簡単な感想、質問等を書いていただき、次回はそれに対してコメントし対話・討論する。質問討論会予定。

◆**準備学修** 教科書の第 2 章を読んでおくとう理解しやすい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 科学哲学とは何か	9 回目 哲学的認識の素材と対象
2 回目 認識行動の機構	10 回目 哲学的認識的方法的特質
3 回目 理性論と経験論	11 回目 哲学的認識の基本的構造
4 回目 实在論と観念論	12 回目 哲学的認識の学問形態
5 回目 实在の模擬認識論	13 回目 新しい形而上学の理念
6 回目 質問・討論会	14 回目 まとめ
7 回目 認識の静態と動態	15 回目 質問・討論会
8 回目 哲学的認識論	

◆**教科書** 通材『科学哲学 P31300』 通信教育教材（教材コード 000142）1,750 円（送料込）  
〔当日資料配布〕プリント配布。

◆**参考書** 授業中に提示します。

◆**成績評価基準** レポート（80%）と平常点（20%）＊平常点とは、感想・質問ペーパー等による。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ■歴史学の論文を書くために

〔史学概論〕

火曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：高綱 博文

◆**学修到達目標** 歴史学という学問の性格及び目的を明らかにし、また歴史学を学んでいく上で必要不可欠な基礎的・技術的な知識を学習する。さらに激動する現代世界に対応するために現在進行しつつある歴史学の革新について学び、「新しい歴史学」のあり方について考える。

◆**授業方法** 歴史学の技法について論述し、授業中に配布した資料を解説しながら行う。受講生全員に卒業論文のテーマの概要と研究計画について報告してもらいます。

◆**準備学修** 参考書『歴史学入門』福井憲彦（岩波書店）を読んでおくことが望ましい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス及び前期の復習	9 回目 歴史学の技法 (5)
2 回目 歴史学の史資料とは何か (1)	10 回目 歴史学の技法 (6)
3 回目 歴史学の史資料とは何か (2)	11 回目 歴史論文の作法 (1)
4 回目 歴史学の史資料とは何か (3)	12 回目 歴史論文の作法 (2)
5 回目 歴史学の技法 (1)	13 回目 歴史論文の作法 (3)
6 回目 歴史学の技法 (2)	14 回目 卒論構想報告 (1)
7 回目 歴史学の技法 (3)	15 回目 卒論構想報告 (2)
8 回目 歴史学の技法 (4)	

◆**教科書** 当日資料配布 授業中に資料を配布します。

◆**参考書** 丸沼『歴史学ってなんだ?』小田中直樹 PHP 新書 734 円 (税込) (送料 215 円)

丸沼『歴史学入門』福井憲彦 岩波書店 1,836 円 (税込) (送料 300 円)

◆**成績評価基準** 試験 (50%)、レポート及び卒論構想報告 (50%)。毎回出席することを前提として評価します。

◆**授業相談 (連絡先) :**

## ■日本国憲法の基礎を学ぶ

〔法学 C〕

火曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：高澤 弘明

◆**学修到達目標** 日本国憲法に関する基礎知識の習得を達成目標とするが、最終的には憲法の本質的問題を追求し、自身の見解を述べられるような能力の習得をも目指す。

◆**授業方法** 講義形式で行う。また理解度を把握するために、簡単なレポートを 2 回提出してもらう。

◆**準備学修** 出席するにあたり、必ず日本国憲法の全条文が掲載されている資料（インターネットからプリントアウトしたものでも可）を用意し、初回の授業時の準備としてそれを読んでくること。他の回は前回の復習。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 憲法 の 概念・分類	9 回目 精神的自由 2 (表現の自由)
2 回目 日本国憲法成立の法理	10 回目 経済的自由
3 回目 天皇	11 回目 社会権・教育権
4 回目 平和主義	12 回目 統治機構 1 (国会)
5 回目 人権総論 1 (人権の制約)	13 回目 統治機構 2 (内閣)
6 回目 人権総論 2 (幸福追求権)	14 回目 統治機構 3 (裁判所)
7 回目 人権総論 3 (法の下での平等)	15 回目 まとめ
8 回目 精神的自由 1 (思想・良心の自由)	

◆**教科書** なし。

◆**参考書** 適宜指示する。

◆**成績評価基準** レポート (100%) で評価。

◆**授業相談 (連絡先) :**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



## 現在を生きる哲学

〔哲学 A〕

火曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：江川

晃

◆**学修到達目標** 現在、情報科学、生命科学、そして脳科学が目覚ましく発展し、その様子がマスコミ等で紹介されています。そこで、私たちがこのような現代を自律的に生きていくには、これらの科学技術から生じる問題に振り回されずに、深く考えていく力、哲学力を鍛える必要があります。

◆**授業方法** 講義形式で、教科書と配布プリントを中心に、パワーポイント、DVD や板書にて行う。授業終りに感想、質問等を書いていただき、次回はコメントし、対話・討論しましょう。

◆**準備学修** 教科書等を書いてあることを覚えるのではなく、考えたことを書く習慣を意識しよう。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 哲学とは（語源・歴史）	9 回目 言語行為論
2 回目 キルケゴールの実存主義	10 回目 心の哲学・心脳同一説
3 回目 パースの探究の理論	11 回目 ロボットの心
4 回目 パースの記号論	12 回目 脳科学と自由意志
5 回目 ヴァーチャル・リアリティーの哲学	13 回目 クローンはつくってはいけないのか
6 回目 分析哲学とは	14 回目 ES 細胞と iPS 細胞の哲学的問題
7 回目 ウィトゲンシュタインの哲学	15 回目 科学は何をもたらすか・まとめ
8 回目 論理実証主義	

◆**教科書** **【教材】**『哲学 B10700』 通信教育教材（教材コード 000404） 3,350 円（送料込）  
〈この教材は市販の『西洋思想の要諦周覧』 嘉吉純夫・齋藤隆編著（北樹出版）と同一です〉  
**【当日資料配布】** プリント配布。

◆**参考書** 授業中に提示します。

◆**成績評価基準** レポート（80%）と平常点（20%）

◆**授業相談（連絡先）：**

# ◆リーディング中心の総合的英語学習

〔英語 B〕

火曜日 5 時限

開講単位 1 単位

担当者：小山 誠子

◆**学修到達目標** イギリスと日本との比較について書かれた英文(400word／章, TOEIC450 程度)を音読(正確な発音, 一定の流暢さ)及び構文の理解(文法等)の確認を行い, 加えて語彙力の増強やトピックに関する意見を英語で表現(英作文)することで総合的な英語の習得及び英語圏の文化への理解を深めます。

◆**授業方法** 下記準備学修を前提とした演習形式(受講者分担による発表)にて(1)語彙の確認／(2)本文音読和訳／(3)理解を確認した後, 'GRAMMAR FOCUS' を使って英文法の基本事項の解説／確認を行います。さらに 'Free Writing' (テキスト)の質問への回答を英作文し, トピックに対する自分の意見を英語で表現できるようにします。加えて, 各章終了後に単語テストを実施し, 発表等授業への取り組みと併せ成績評価の一部とします。

◆**準備学修** ① テキスト添付の CD に従い 'READ and LEARN' の英文を正確に読めるまで発話・音読する。  
② 未習の語彙は辞書にあたり(1)発音記号(2)品詞(3)代表的定義／意味を記録する。(各章終了後の単語テストは成績評価の一部となります。) 構文に留意し, 本文の理解の確認作業として全文和訳を行う。(TOEIC 等英語検定試験の受験を視野に入れている人は, 上記①の前に 'COMPREHENSION QUESTION' を確認のこと。)

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 初回ガイダンス及びレベルチェック	9 回目 Chap. 10 単語テスト及び Chap. 11 文法
2 回目 Chapter 7 語彙チェック及び本文	10 回目 Chap. 11 単語テスト及び Chap. 12 本文
3 回目 Chapter 7 文法解説及び Chap. 8 語彙	11 回目 Chap. 12 解説及び Chap. 13 語彙／本文
4 回目 Chap. 7 単語テスト及び Chap. 8 本文	12 回目 Chap. 12 単語テスト及び Chap. 13 文法(分詞)解説
5 回目 Chap. 8 文法解説及び Chap. 9 本文	13 回目 Chap. 13 単語テスト及び Chap. 14 本文／解説
6 回目 Chap. 8 単語テスト及び Chap. 9 文法(仮定法)解説	14 回目 Chap. 14 単語テスト及び Chap. 15 文法(関係詞)解説
7 回目 Chap. 9 単語テスト及び Chap. 10 本文	15 回目 全体のまとめ及び試験
8 回目 Chap. 10 解説及び Chap. 11 語彙／本文	

◆**教科書** 丸沼『Cross-Cultural Views on Britain—比較文化で考えるイギリスと日本』南雲堂 2,160 円(税込)  
(送料 300 円)

◆**参考書** 大学／社会人レベルの英和／和英辞書(電子辞書可)を毎回携帯のこと。PC／タブレット／携帯の辞書替わりの授業中の使用は一切認めません。

◆**成績評価基準** ①平常評価(40%)：発表等授業への積極的取組及び単語テスト結果等学習効果の客観的評価  
②最終試験(60%)：※語彙問題を含む

◆**授業相談(連絡先)：**

## 

## 

火曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：瀧川 修吾

◆**学修到達目標** 本講義は、大正から昭和、平成に至るまでのいわばオーソドックスな政治史について学習することを目的とするものである。大正デモクラシーが如何にして軍国主義的な体制へと暗転し、第二次世界大戦を経て、現在の戦後デモクラシーが誕生したかについて学ぶことで、皆さんの「過去から現在を見る目」が涵養され、「温故知新」の引き出しが増えれば幸甚である。

◆**授業方法** 基本的には、教科書に沿って講述するスタイルを採るが、極力、受講生との対話を重視し、小テストやクイズを実施することで「皆さんの生の声」を反映させた「双方向性のある講義」にしたいと考えている。基礎知識の修得も重要であるが、折に触れ、「皆さんならどう決断するか」という、いわばキーパーソンの視点に立って歴史上の重要テーマにつき、主体的に考える楽しみも提供しつつ、講義を進めていきたい。

◆**準備学修** テキストの当該箇所を参照してくること、それから特に購入の必要はないが、電子辞書や用語集などを持参することをお勧めする。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス（講義のながれ）	9 回目 日米交渉とその決裂
2 回目 第一次憲政擁護運動と大正の政変	10 回目 アジア・太平洋戦争
3 回目 第一次世界大戦と対華二カ条要求	11 回目 GHQ の占領政策と日本の民主化
4 回目 平民宰相内閣と政党政治	12 回目 政党政治の復活と吉田長期政権
5 回目 政党政治の隆盛と国際的孤立	13 回目 55 年体制と高度経済成長
6 回目 戦争とファシズムへの道	14 回目 多党化時代
7 回目 軍部傀儡政権と日中戦争	15 回目 総 括
8 回目 第二次世界大戦と戦時体制の確立	

◆**教科書** 丸沼『近代日本政治史Ⅱ 大正・昭和・平成』黒川貢三郎・瀧川修吾著 【9 月に改訂版出版予定 価格未定】

◆**参考書** 講義の中で、適宜紹介する。

◆**成績評価基準** 試験結果と出席時の状況（小テスト及びクイズの得点、ノートの筆記具合等）を総合的に勘案して評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

## 

## 

火曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：猪野 恵也

◆**学修到達目標** 19 世紀末の英文学から James Joyce の文学までを学ぶ。

◆**授業方法** ハンドアウトを配布しそれらを読み上げてゆく。原文にも触れ、DVD を活用する。

◆**準備学修** 授業計画における作家、作品を参考にしてどの英文学史の本でもいいので予め読んでおくとよい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 Wilde <i>The Picture of Dorian Gray</i>	9 回目 20 世紀の作家
2 回目 E.M.Forster <i>Howards End</i>	10 回目 20 世紀の作家
3 回目 Lawrence <i>Lady Chatterley's Lover</i>	11 回目 20 世紀の作家
4 回目 George Orwell <i>1984</i>	12 回目 20 世紀の作家
5 回目 Virginia Woolf <i>Mrs Dalloway</i>	13 回目 20 世紀の作家
6 回目 James Joyce <i>Ulysses</i> など	14 回目 補足説明
7 回目 W.B.Yeats	15 回目 まとめ
8 回目 George Bernard Shaw <i>Pygmalion</i>	

◆**教科書** 〔当日資料配布〕当日ハンドアウトを配布する。

◆**参考書** 授業中指示する。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み・試験により総合的に評価します。毎回出席することを前提とする。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ■戦争と日本経済

〔日本経済史〕

火曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：飯島 正義

◆**学修到達目標** 日本資本主義の構造的特徴と問題点を踏まえながら第 1 次大戦から高度経済成長期前までの日本経済について理解を深めることを目標とする。

◆**授業方法** 講義形式。当日配布するプリントを中心に授業を進めていくが、授業時における理解を確認するために数回確認プリントを実施する予定である。

◆**準備学修** 通信教材で関係する部分（時代）について予め読んでおくこと。また、授業時に紹介する参考文献等も利用してほしい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 確立期日本資本主義の構造的特徴	9 回目 敗戦と占領統治
2 回目 第 1 次大戦と日本経済	10 回目 復興期における日本経済の課題
3 回目 1920 年代の日本経済―恐慌の時代	11 回目 生産復興―傾斜生産方式
4 回目 金解禁と井上財政	12 回目 ドッジ・ライン
5 回目 昭和恐慌と高橋財政	13 回目 サンフランシスコ体制
6 回目 日中戦争と戦時経済体制の構築	14 回目 高度経済成長へ
7 回目 戦時経済体制の崩壊（1）	15 回目 まとめ
8 回目 戦時経済体制の崩壊（2）	

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 授業時にプリントを配布します。

◆**参考書** **〔丸沼〕**『日本経済史』老川慶喜・仁木良和・渡邊恵一共著 税務経理協会 2002 年  
〈上記の本は品切れのため図書館等を利用してください〉

**〔丸沼〕**『概説日本経済史 近現代第 3 版』三和良一著 東京大学出版会 2012 年 2,700 円（税込）  
（送料 300 円）

◆**成績評価基準** 平常点（取組み・確認プリント等）：30%、筆記試験：70%

◆**授業相談（連絡先）：**

# 企業組織法入門～会社法の基礎から学ぶ～

〔商法Ⅱ〕

水曜日 1 時限

開講単位 2 単位

担当者：大久保 拓也

◆**学修到達目標** この講義では、現代社会で重要な役割を果たしている会社、特に株式会社に関する法知識の習得を目的とします。経済社会で重要な役割を担う企業組織（会社）について規律する会社法は、平成 26 年に重要な改正がなされました（平成 27 年 5 月 1 日施行予定）。実社会に与える影響も大きいので、会社に関する法規制を基本から理解を目的とした講義を行います。株式会社の機関構造（後半）、株式会社の設立、組織再編等を扱います。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、会社法制度の全体構造を理解し、会社法上の基本問題について、法的な解答を示すことのできる論理的思考力の習得ができることを目的とします。会社法には難解に思われる複雑な規律が設けられています。その理解のため、毎回出席をとります。また、ただ漫然と授業に出席しているだけでは知識が身につかないと思いますので、講義時に何度か小テストを行い理解度をチェックすることも予定します。そのため、予習・復習も必須となります。

◆**準備学修** 会社法は、経済活動に密接に結びついた法分野です。会社法に関する法分野を理解するためには、常に新しい経済の仕組みを理解していなければなりません。そのための最適の方法は、日刊新聞（日経新聞等）を読むことです。最近ではどのような経済問題があるのか、どのような新しい企業組織形態が誕生したのか、等について問題意識をもって毎日欠かさず読むことが必要です。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目	ガイダンス 株式会社の機関構造 4：役員の選任・解任手続	9 回目	株式会社の機関構造 12： 監査役、監査役会、会計監査人、会計参与
2 回目	株式会社の機関構造 5： 競業取引と利益相反取引	10 回目	資本制度と会社の計算
3 回目	株式会社の機関構造 6： 善管注意義務と忠実義務～経営判断と内部統制	11 回目	株式会社の設立 1： 設立手続の概要、発起人の権限
4 回目	株式会社の機関構造 7： 取締役会設置会社における取締役と取締役会の役割	12 回目	株式会社の設立 2： 払込の手続と仮払込
5 回目	株式会社の機関構造 8： 報酬規制	13 回目	持分会社の法規制
6 回目	株式会社の機関構造 9： 指名委員会等設置会社と監査等委員会設置会社の構造、検査役	14 回目	組織再編 1： 合併と分割、事業譲渡
7 回目	株式会社の機関構造 10： 取締役の対会社責任と株主代表訴訟	15 回目	組織再編 2： 株式交換と株式移転 講義のまとめ
8 回目	株式会社の機関構造 11： 取締役の対第三者責任		

◆**教科書** 丸沼『会社法講義 30 講』松嶋隆弘編著 中央経済社 3,780 円（税込）（送料 350 円）  
六法（最新版（2015（平成 27）年版）） 価格未定

◆**参考書** 丸沼『会社法判例百選（第 2 版）』江頭憲治郎ほか編 有斐閣 2011 年 2,344 円（税込）（送料 300 円）

◆**成績評価基準** ①平常点（授業中に行う「小テスト」も含みます）（20%）、②授業中にふれた重要な事項から出題する「試験」（80%）。毎回出席することを前提として評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## □ハイテク産業の経済地理 〔経済地理学〕

水曜日 1 時限

開講単位 2 単位

担当者：田村 和彦

◆**学修到達目標** ハイテク産業は、経済の情報化の重要な担い手になっていると同時にグローバル化を推進させている。そこから生じる諸問題に考えてみる。

◆**授業方法** 講義方式。

◆**準備学修** 教科書を読んで予習するだけでなく、マスメディアを通して経済状況についても考えること。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 経済のサービス化と情報化とは。	9 回目 企業の海外立地戦略。
2 回目 経済のソフト化について。	10 回目 日本企業の海外進出①。
3 回目 経済の情報化とハイテク産業とは。	11 回目 日本企業の海外進出②。
4 回目 ハイテク産業の定義。	12 回目 日本企業の多国籍企業化。
5 回目 情報ネットワーク化社会。	13 回目 農業の企業家・ハイテク化。
6 回目 サービス化社会の進展。	14 回目 農業と関連産業。
7 回目 ハイテク産業の立地の特徴。	15 回目 まとめ
8 回目 経済のグローバル化の進展。	

◆**教科書** 教材『経済地理 S32200 / 経済地理学 R32600』通信教育教材（教材コード 000233）  
2,050 円（送料込）

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** 最終筆記試験。

◆**授業相談（連絡先）：**

## □英文法再起 〔英語 K〕

水曜日 1 時限

開講単位 1 単位

担当者：小澤 賢司

◆**学修到達目標** 【前期講座の続きとなります】「再起」とは「悪い状態立ち直ること」を言います。本授業では、英文法をもう一度基礎から学び、その有用性に気づき、そして「良い状態にすること」を目標としています。淡々と学んでいくのではなく、一定量の英文を読みながら、それらがどう用いられているかも見ていきます。上記の内容のため、初級者向けの講座です。

◆**授業方法** 毎週 1 unit 進むことを目標とし、1 つ 1 つの文法項目を丁寧に解説します。そのため授業スピードは緩やかに設定しています。適宜、質疑応答の時間も設けます。また、英文の音読等もしてもらいます。

◆**準備学修** 以下のことを行ってください。

- ① Unit 冒頭の英文を訳してくる
- ② 見本の音声をもとに音読をしてくる
- ③ 学習した文法項目の復習（これらには時間をかけてください）

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 ガイダンス（前期の復習）	9 回目 接続詞（1）
2 回目 不定詞	10 回目 接続詞（2）
3 回目 動名詞	11 回目 関係詞（1）
4 回目 現在完了（1）	12 回目 関係詞（2）
5 回目 現在完了（2）	13 回目 5 文型
6 回目 受動態	14 回目 これまでの復習
7 回目 比較（1）	15 回目 まとめ（テスト）
8 回目 比較（2）	

◆**教科書** 丸沼『Reading Steps ステップアップ英文読解と基本文法』Robert Hickling・臼倉美里 金星堂  
2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** 英和辞典を必ず持参してください。

◆**成績評価基準** 試験 70%，平常点 30% ※毎回出席することを前提としています（出席点はありません）。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



## ◻書くためのドイツ語を学びましょう

〔ドイツ語Ⅰ・Ⅱ〕

水曜日 2 時限

開講単位 1 単位

担当者：中島 伸

◆**学修到達目標** 本講座では、書くためのドイツ語、すなわち「独作文」をする上で必要なドイツ語文法と語順の知識の習得、そして語彙力の強化を目標とします。ドイツ語は英語に比べると馴染みの薄い言語ですが、ドイツ語文における語順は日本語とよく似ているため、皆様にとってドイツ語は英語よりも取り付き易い言語です。英語を6年以上学んで身に付かなかった方は、これを機にドイツ語に転換しましょう。ドイツ語を学べば学ぶほど、英語にはない言語の奥深さがドイツ語にはあることをきくと理解できることでしょう。

◆**授業方法** 前期は独作文の土台となる文法事項の説明と語彙力の強化を行います。以下の授業計画で挙げられている項目の説明後、練習問題で定着させていきます。後期は前期に説明した文法事項の確認を行いながら、並べられた単語を使ってドイツ語文を完成させる練習(日本語文をいきなりドイツ語文にするのは余りにも負担が大きくなるので行いません)、そして前期に引き続き語彙力の強化を行います。また、前期と後期に2回ずつ小テストを行い、間違った箇所と確認のために個別に解説を添えて答案を返却致します。

◆**準備学修** 既習の文法事項の復習をするようにして下さい。特に、動詞の現在人称変化と名詞の性、そして冠詞の格変化の知識は、ほぼ全ての文法事項で必要となります。そのため、これら3つの項目に関する提出課題を解き、冠詞の格変化を紙に書いて覚えるようにして下さい。反復練習こそが言語習得への近道です。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 (不) 定冠詞を含む文の独作文	9 回目 現在完了形を含む文の独作文
2 回目 不規則な現在人称変化をする動詞を含む文の独作文	10 回目 zu 不定詞の用法と独作文
3 回目 命令文・冠詞類を含む文の独作文	11 回目 再帰動詞の用法と独作文
4 回目 前置詞を含む文の独作文	12 回目 形容詞の格変化と独作文
5 回目 分離・非分離動詞を含む文の独作文	13 回目 形容詞の比較表限と独作文
6 回目 話法の助動詞を含む文の独作文	14 回目 関係代名詞を含む文の独作文
7 回目 副文の用法と独作文	15 回目 接続法を含む文の独作文・まとめ
8 回目 過去形を含む文の独作文	

◆**教科書** 丸沼『CD 付き シュリット・フュア・シュリット [改訂版] たくさん練習して学ぶドイツ語』今井田 亜弓・前田 織絵著 三修社 2,916 円(税込)(送料 300 円)

◆**参考書** 独和辞典が必要となります。なお、推奨独和辞典は初回スクーリング時に紹介します。

◆**成績評価基準** 平常点(30%)・小テスト(30%)・試験(40%)。毎回出席することを前提として評価します。

◆**授業相談(連絡先)：**

## ◻憲法を考える

〔憲法〕

水曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：名雪 健二

◆**学修到達目標** 憲法は、国家の在り方を規定した基本法である。したがって、憲法を知することは、われわれが国家生活をしていく上で極めて重要である。

憲法を学ぶことで、憲法とは何かを知ることができ、また、憲法の判例をみることで、生きた憲法を理解することで、さらに、憲法の規範論理的構造を理解することで、現代の複雑な憲法現象を統一的に、かつ、原理的にとらえることができる。

◆**授業方法** 憲法の解釈論が中心となる。また、判例を取り上げるが、そのための資料として、授業に関連する判例を配布する。

本講義(後期)では、統治機構(国会、内閣、裁判所)をみていく。

◆**準備学修** 1) 後期における授業計画が記載されているので、授業を理解する前提として、教科書を読んでおくこと。  
2) 授業の範囲内における専門用語については、法学(法律学)辞典を引き、その意味を正確に理解しておくこと。  
3) 授業で聞いたこと、また、授業でノートしたことを確認し、整理するといった復習を必ずすること。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 国会の性格、国会の組織	9 回目 内閣の総辞職、内閣の権能
2 回目 国会議員の特典、国会の活動	10 回目 内閣の責任、裁判所の性格
3 回目 国会の活動、国会の権能	11 回目 最高裁判所
4 回目 国会の権能	12 回目 最高裁判所
5 回目 議院の権能	13 回目 下級裁判所、司法権の独立
6 回目 議院の権能	14 回目 財政、地方自治
7 回目 内閣の性格・組織	15 回目 後期の総括
8 回目 内閣総理大臣の地位・権能	

◆**教科書** 丸沼『日本国憲法』名雪健二 有信堂 3,780 円(税込)(送料 350 円)

◆**参考書** 丸沼『増補ゼミナール憲法』名雪健二他 南窓社 3,456 円(税込)(送料 350 円)  
丸沼『3訂日本国憲法要論』廣田健次 南窓社 3,497 円(税込)(送料 350 円)

◆**成績評価基準** 授業態度・小テスト(前期1回、後期1回)・スクーリングの最終試験により総合的に判断する。

◆**授業相談(連絡先)：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



## 英語の音声現象の基礎理解

## 〔英語音声学〕

水曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：森 晴代

- ◆**学修到達目標** 1. 日本語との違いを意識し、英語の発音の特徴及び発音記号を理解する。  
2. 英語のプロソディの学びを通して、英語らしい発音を追及する。

◆**授業方法** 英語音声学の観点から後期は子音、音声変化、イントネーションの説明を行います。毎週小テストを課して習得状況を確認します。必要に応じてプリントを配布し補足説明します。8 名から 10 名のグループを作り、発音練習への取り組みやプリント作成を行います。全員参加型の授業を目指します。

◆**準備学修** テキストには専門用語が数多くでてきますので、前もって読んでおきましょう。発声器官の名称は、子音の勉強につながります。理解しておきましょう。また、辞典を引く際発音記号を意識する習慣がついていると良いと思います。授業には必ず辞典を持参してください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 子音の分類説明	9 回目 音声変化：脱落現象の説明及びリスニング演習
2 回目 閉鎖音の説明及び発音練習	10 回目 音声変化：連結現象の説明及びリスニング演習
3 回目 摩擦音の説明及び発音練習	11 回目 音声変化：同化現象の説明及びリスニング演習
4 回目 破擦音の説明及び発音練習	12 回目 イントネーションの説明及び文の発音練習（長文）
5 回目 鼻音の説明及び発音練習	13 回目 文（長文）の発音練習及び練習問題 1
6 回目 流音、半母音の説明及び発音練習	14 回目 文（長文）の発音練習及び練習問題 2
7 回目 子音連続の発音練習	15 回目 発音テスト
8 回目 子音の演習問題配布及び解答	

◆**教科書** 丸沼『A Way to Better English Pronunciation - 英語の発音、リスニング、スピーキングへの近道』英潮社フェニックス 2009 年 池田紅玉、森晴代著 2,376 円（税別）（送料 215 円）

◆**参考書** 丸沼『英語の音声を科学する』大修館書店 新装版 CD 付 川越いつえ著 2,592 円（税込）（送料 300 円）  
\*授業では使用しません。

◆**成績評価基準** 平常点（20%）、小テスト（20%）、発音テスト（10%）、試験（50%）。

◆**授業相談（連絡先）：**

## 古墳時代・古代の社会を学びましょう

## 〔考古学概説〕

水曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：野中 和夫

◆**学修到達目標** 佐賀県吉野ヶ里遺跡や奈良県纏向遺跡の発掘によって、邪馬台国論争が再燃している。「魏志倭人伝」には何が記されているのか、発掘された資料との照合によって事実を知ることができる。さらに、古墳時代から古代にかけての主要な遺跡を取上げ、そこから発掘された遺物・遺構がどのように評価されているのか理解することを目標とする。

◆**授業方法** 講義形式、考古資料はもとより、史料も活用することによって、考古学と文献史学の接点についても触れる予定。

◆**準備学修** ノート、プリント、参考書等々を利用して復習すること。講義内で遺跡・博物館見学等々をすることができないので、遺跡の見方や注目される展示会を紹介するので、見学し、感想及び調べたことをレポートにし、提出すること。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 遺跡の理解	9 回目 武蔵国分寺の造営と国府
2 回目 「魏志倭人伝」と考古学（1）	10 回目 瓦の生産と供給
3 回目 「魏志倭人伝」と考古学（2）	11 回目 影向寺跡と橘郡街
4 回目 古墳時代の概要と代表的な古墳	12 回目 「无射志国荏原評」銘の古瓦
5 回目 埼玉古墳群と稲荷山古墳	13 回目 藤原京の発掘
6 回目 金象嵌鉄剣の銘文と文字史料	14 回目 平城京の造営
7 回目 豪族の居館と家形埴輪	15 回目 古墳時代と古代の社会・まとめ
8 回目 古墳時代のイエとムラ	

◆**教科書** 〔当日資料配布〕当日プリント配布。

◆**参考書** 丸沼『古墳時代の考古学』①～⑧巻 同成社 〈図書館等を利用してください〉  
丸沼『平城京の時代』坂上康俊 岩波書店 885 円（税込）（送料 215 円）

◆**成績評価基準** 平常点 15% レポート 20% 試験 65%

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ◻商業機能，機構，機関の捉え方

〔商学総論〕

水曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：佐藤 稔

◆学修到達目標 商学の中心的課題である機能観の変遷，商学の仕組み，仕組みを構成する機関について理解する。

◆授業方法 テキスト及び参考資料に基づく講義形式。

◆準備学修 テキストに目を通しておくこと

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 流通機能とは	9 回目 助成的機能
2 回目 アメリカにおける機能分析の展開	10 回目 収集，分散機構
3 回目 我が国における機能分析の展開	11 回目 卸売業及び卸売市場
4 回目 需給統一の意義	12 回目 小売業の意味と小売業の役割
5 回目 需給統一の方法（1）	13 回目 小売商圏の設定
6 回目 需給統一の方法（2）	14 回目 小売商業機関（1）
7 回目 物流とは	15 回目 小売商業機関（2）・まとめ
8 回目 物流の諸機能	

◆教科書 教材『商学総論 S20100』通信教育教材（教材コード 000356） 3,250 円（送料込）

◆参考書 講義の中で必要に応じ指示。

◆成績評価基準 授業への参加，テストにより総合的に評価。

◆授業相談（連絡先）：

## ◻近現代日中関係史を学ぶ

〔歴史学 A〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：堀井 弘一郎

◆学修到達目標 幕末から今日に到るまで近代日本は隣国中国と時に厳しく対峙し，時に友好を深めつつ，複雑な二国間関係を形成してきた。本講座ではそうした歴史的過程と，同時代を共に生きた日中両国民の足跡をたどりながら，確かな歴史的素養をもって日中関係を考え語れるようになることを目標とする（後期は日中戦争開始後～今日まで）。

◆授業方法 毎回レジメや資料プリントを用意し，それに沿って講義形式で授業をすすめる。その際，受講者からの質疑や意見発表等を取り入れていく。また，視聴覚教材を活用したり，史資料にも多く触れたりすることで，歴史への興味関心を深める。資料収集の方法，卒業論文等の作成方法についても解説する。

◆準備学修 「歴史とは現代と過去との対話である」（E・H・カー）。戦後 70 年を迎える今年にあってなお，日中関係は緊張を高めている。そんな今日こそ，日頃から日本・中国の近現代史，日中関係史に関する書物に親しんだり，日中関係の時事的問題に関する新聞・雑誌記事を読んで必要に応じて保存したりすることを心がけてほしい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 満州事変と日中戦争の諸相	9 回目 中国の国連代表権獲得と日本
2 回目 汪兆銘「対日協力政権」	10 回目 日中国交回復
3 回目 アジア太平洋戦争と中国	11 回目 改革開放路線と日本
4 回目 戦争と新聞メディア	12 回目 香港の盛衰
5 回目 終戦前後の東アジア	13 回目 領土問題・戦後補償・歴史認識
6 回目 国共内戦下の中国と日本	14 回目 後期の総括
7 回目 中国革命の衝撃	15 回目 まとめ
8 回目 文化大革命と日本	

◆教科書 当日資料配布 特に指定せず，レジメ及びプリント資料を当日配布する。

◆参考書 丸沼『シリーズ中国近現代史④ 社会主義への朝鮮』久保亨 岩波新書 864 円（税込）（送料 215 円）

丸沼『シリーズ中国近現代史⑤ 開発主義の時代へ』高原明生・前田宏子 岩波新書 842 円（税込）（送料 215 円）

丸沼『日中関係—戦後から新時代へ—』毛利和子 岩波新書 864 円（税込）（送料 215 円）

丸沼『新しい東アジアの近現代史（上・下）』日中韓 3 国共同歴史編纂委員会編 日本評論社

（上）2,700 円（税込）（送料 300 円），（下）2,700 円（税込）（送料 300 円）

（上）＋（下）（送料 350 円）

◆成績評価基準 前期・後期と合わせ，平常点 20%，試験 80%で評価する。毎回出席することを前提として評価する。

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは，必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては，授業終了後に質問を受け付けます。

## □行動を科学する

〔心理学 A〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：野村 康治

◆**学修到達目標** 「心」の理解はともすれば主観的なものになりがちであり、主観的理解は思い込みや誤解を生むことがある。この授業では「行動」をキーワードとして、心理学が「心」に関する問題にいかに取り組み、どのようなことを見出してきたかを学ぶ。そして、「心」に問題に対する思考力の育成を目指す。

◆**授業方法** 授業は主として講義形式で行う。講義内容を必ずノートにとること。また、授業中に教員から質問をしたり、意見を求めることもある。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、意見を求められたときは積極的に発言して欲しい。なお、出席は毎回確認する。

◆**準備学修** 科学は疑問を持つこと、つまり問題を見つけることから始まる。そして、心に関する問題は日常の生活場面に溢れている。日常場面での様々な心の問題を見つけ出し、そのことに疑問を持ちながら毎回の授業に臨んで欲しい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 行動の生起、動機づけについて学ぶ	9 回目 行動の獲得 2、発達とは何かを学ぶ
2 回目 欲求と欲求不満、葛藤について学ぶ	10 回目 発達の規定因に関する諸研究を学ぶ
3 回目 適応行動と不適応行動について学ぶ	11 回目 行動の個人差 1、知能とは何かを学ぶ
4 回目 人間成長を促す動機づけを学ぶ	12 回目 知能の測定と知能理論について学ぶ
5 回目 行動の獲得 1、学習とは何かを学ぶ	13 回目 行動の個人差 2、性格とは何かを学ぶ
6 回目 学習理論（連合説）について学ぶ	14 回目 性格理論と性格検査について学ぶ
7 回目 学習理論（認知説）について学ぶ	15 回目 後期授業まとめ
8 回目 社会的学習について学ぶ	

◆**教科書** **教材**『心理学 B12100』通信教育教材（教材コード 000483）2,850 円（送料込）  
〈この教材は市販の『新しい心理学ゼミナール』藤田主一編（福村出版）と同一です〉

◆**参考書** 必要に応じて授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 成績は試験結果を重視し、これに平常点（授業時の発言など）を鑑みて総合的に評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ■英文の基本構造を理解する

〔英語 D〕

水曜日 3 時限

開講単位 1 単位

担当者：北原 安治

◆**学修到達目標** 五文型に基づき、英文の構造を把握して初学者でも正しい訳ができるようになることを目標とする。

◆**授業方法** 予習段階で英文を 5 行ほどの間隔でノートに写す。その英文の下に S (主語), V (動詞) などを書いてもらい、訳を付ける。細かく板書するので訳が書き取れないということはない。予習の段階で必ず本文をノートに写してること。各色のマーカーなど持ってくると良い。受講者の速度に合わせるので、かならずしも授業計画どおりにはならない。本文のみやり練習問題はやらない。ノート検査は抜き打ちで行うのでかならずノートは書いておく。ノートはルーズリーフでもよいが、必ず書いた分は全てのページを毎回持って来ておくこと。ノート無きものは単位を与えない。および板書事項を正確にすべて写していないノートは不可とし単位を与えない。前期の続きから始める。

◆**準備学修** 予習段階で英文を 5 行ほどの間隔でノートに写す。板書のときは英文の下に訳を書くが、ノートの見開きの左のページに英文を写し、右のページに訳をつけても良い。単語を調べてくること。毎回和訳小テストをするので辞書を持ってくる。教科書を毎回持ってくる。ノート検査のときに教科書を持って来ているか調べる。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 第 2 章の英文構造と和訳	9 回目 第 3 章の英文構造と和訳
2 回目 第 2 章の英文構造と和訳	10 回目 第 3 章の英文構造と和訳
3 回目 第 2 章の英文構造と和訳	11 回目 第 3 章の英文構造と和訳
4 回目 第 2 章の英文構造と和訳	12 回目 第 3 章の英文構造と和訳
5 回目 第 2 章の英文構造と和訳	13 回目 第 3 章の英文構造と和訳
6 回目 第 3 章の英文構造と和訳	14 回目 第 3 章の英文構造と和訳
7 回目 第 3 章の英文構造と和訳	15 回目 まとめと試験 (辞書および参照物なし)
8 回目 第 3 章の英文構造と和訳	

◆**教科書** 〔丸沼〕『Major Countries in the World ～世界の主要国～』小泉和弘編、鳳書房 1,944 円 (税込)  
(送料 300 円) (Tel/Fax (03) 3483-3723)

◆**参考書** 〔丸沼〕『ロイヤル英文法』旺文社 1,944 円 (税込) (送料 350 円) この本は講義では使わない。辞書は毎回持ってくる。辞書を持って来ているか検査をする。

◆**成績評価基準** 試験、実力テストなどの総合評価。皆出席を望む。前期試験はなし。欠席 1 回で何点が引く。出席点とノート点は加算しない。出席してノートを取るのは当然のことだからである。30 回目に授業内試験を行う (辞書は参照不可)。抜き打ちの実力テストも何回か行う。板書事項を全部書いているかを調べるノート検査をして不備の者は不合格。

◆**授業相談 (連絡先) :**

## ◆古典文学作品から時代を読む

## 〔国文学基礎講義〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：木村

一

◆**学修到達目標** 本講義は基本的に「国文学基礎講義」（前期）の流れの中にあり、前期からの流れにおいて後期に継承される。後期においては、『源氏物語』を読む。対象とする巻々は、「桐壺」と「葵」である。物語世界の時代背景、当時の生活様式が当然認識されていることが理想的であり、その理解のもとにおいて物語を読む。物語ということの捉え方、『源氏物語』についての基本的捉え方ができるようになります。

◆**授業方法** 講義形式で授業を行います。指定テキストの解説と併せ、実際に文学作品を読んでいきます。ただし、ただ文学作品の内容を捉えることが目的なのではありません。受講生諸君に積極的に思考・考察してもらうために、授業時間内に複数回にわたって〈小課題〉を課すこととします。その課題は各セッションにおける各自の理解度・把握度を計る目安となるものです。その課題に対応するべく、各自積極的に講義ノートをとること。

◆**準備学修** 指定したテキストの内容と流れとを事前に把握しておくこと。授業範囲の専門用語を事前に把握しておくこと。毎回の授業後、各自の講義ノートと指定テキストを基とし、整理復習をしっかりとこなし、次の講義につなげる努力をすること。次回の予告を聞き逃さず、次回の展開に即した指定テキスト内容の把握と作品内容の読み込みを行うこと。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 導入 どう進めるか	9 回目 光源氏誕生
2 回目 『源氏物語』入門	10 回目 光源氏の結婚とタブー
3 回目 『源氏物語』とは何か	11 回目 桐壺巻以降、葵巻まで
4 回目 読み始めよう、桐壺巻	12 回目 葵と六条御息所と
5 回目 一夫多妻制と後宮ということ	13 回目 斎院御祓の日と車の所争い
6 回目 第二皇子の誕生	14 回目 苦悩と物の怪
7 回目 帝とその更衣の死	15 回目 まとめ
8 回目 第二皇子臣籍降下	

◆**教科書** 丸沼「Next 教科書シリーズ『日本古典文学』」弘文堂 2,376 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** 実際の作品については、必要に応じプリントを配布する。なお、電子辞書があると便利（電子端末不可）。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提とし、講義への取り組み・小課題の状況により総合的に評価します。  
受講状況（10%）・小課題（10%）・試験（80%）

◆**授業相談（連絡先）：**

## ◆英語学を基礎から学びましょう

## 〔英語学概説〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：青木 克憲

◆**学修到達目標** 英語学がどのような学問なのか、形態論、統語論、意味論の分野で必要な基礎知識を修得することを目的とします。

◆**授業方法** ①「英語についての 26 章」（英宝社）で本文を読んでもらい、その後で関係する箇所を②「英語学の基礎」（くろしお出版）で説明を加える形で授業を行なっていきます。[受講条件] 昼間スクーリング英語学演習 平成 26 年度（青木克憲）の受講者は一部内容が重複するので受講しないでください。

◆**準備学修** ①「英語についての 26 章」はシラバスを参照して、次回に行なう所をよく理解しておくこと。  
②「英語学の基礎」は事前に一通り読んでおいてから、次回に行なう箇所を読み返してみる。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ①のテキスト Language Variation	9 回目 ①のテキスト The Importance of Language
2 回目 // Meaning in words and Sentences	10 回目 // Language Learning
3 回目 ②のテキスト「認知意味論」について	11 回目 ①のテキスト Slang
4 回目 ①のテキスト Japanese English	12 回目 // Language and Computers
5 回目 // Word Formation in English	13 回目 // English in Scotland
6 回目 ②のテキスト「形態論」について	14 回目 // Pidgin English
7 回目 ①のテキスト Spelling and English Pronunciation	15 回目 まとめ
8 回目 ②のテキスト「音韻論」について	

◆**教科書** 丸沼『英語についての 26 章』英宝社 2,052（税込）（送料 300 円）

丸沼『日英対照英語学の基礎』くろしお出版 1,944（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** 授業中に必要に応じて紹介します。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（予習状況・練習問題）（30%）、試験（70%）で評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ◻日本人の美意識

〔日本思想史Ⅰ〕

水曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：島田 健太郎

◆**学修到達目標** 本年度は中世の芸道論を題材に、そこに見られる当時の人々の美意識について考えていきます。中世には、「幽玄」・「わび」・「さび」などの独自の美的価値を持つ語が現れ、それは現代の私たちの美意識にも影響を及ぼしています。後期では主に「わび」・「さび」について考えます。これらの美的価値の検討を通して、中世の人々のものの考え方を理解するとともに、日本文化をより深く考えるための視野を広げることを目標とします。

◆**授業方法** プリントとして配布する原典や史料を参考にしながら、講義形式で行います。中世の芸道論ということもあり、聞き慣れない言葉や難解な専門用語などがたくさんありますが、それらには適宜説明を加えます。またプリントには読みがなと現代語訳をつけるので、古文の読解に自信がなくても構いません。

◆**準備学修** 授業でも概要は説明しますが、まず扱われる芸道がどのようなものなのか、あらかじめ調べておくといと思います。また中世の出来事や、芸道の大まかな流れ（たとえば茶の湯が隆盛した時期や、松尾芭蕉や本居宣長はいつごろの人かなど）を頭に入れておくと、授業が聞きやすくなります。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 「わび」・「さび」―「冷えさび」―	9 回目 「わび」・「さび」―芭蕉―
2 回目 「わび」・「さび」―茶の湯―	10 回目 //
3 回目 //	11 回目 もののあはれ―本居宣長―
4 回目 //	12 回目 //
5 回目 //	13 回目 「いさ」―江戸町人の美意識―
6 回目 //	14 回目 //
7 回目 庭園論・花道論	15 回目 まとめ・試験
8 回目 「わび」・「さび」―芭蕉―	

◆**教科書** 特に使用しません。〔当日資料配布〕当日にプリントを配布します。

◆**参考書** 授業中に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 試験の成績を基準に、授業への取り組みなどを勘案して評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

## ◻とある日本の歴史学

〔歴史学 B〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：渡邊 浩史

◆**学修到達目標** 浮世絵が西洋絵画に影響を与えたように、アニメはグローバル文化に組み込まれている。そのアニメには日本の歴史的背景が多く組み込まれている。日本的歴史背景とは多くの海外文化を吸収し習合させたという意味で、この点こそが日本のマンガ・アニメが無国籍な空間を持ち、多くの国で違和感なく受け入れられた理由である。決して「アニメ顔」や「萌え」の要素のみではない。いくつかの作品を通して、日本の歴史がどのようにマンガ・アニメに反映されているかを再確認し、これを通じて日本の歴史への理解を深める。

◆**授業方法** 講義形式で行う。適宜 DVD などを利用する。なおシラバスはあくまで予定であり、最新の研究成果を反映させるなどの場合は変更する可能性もある。

◆**準備学修** 授業計画に挙げたマンガ・アニメ作品については、ある程度事前に見たり読んでいることが望ましい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 はじめに 日本の伝統文化系譜上に位置するマンガ・アニメ	9 回目 田辺イエロウのマンガ・アニメ『結界師』から見る日本歴史
2 回目 武梨えりのマンガ・アニメ『かんなぎ』から見る日本歴史	10 回目 田辺イエロウのマンガ・アニメ『結界師』から見る日本歴史
3 回目 武梨えりのマンガ・アニメ『かんなぎ』から見る日本歴史	11 回目 押井守のアニメ『攻殻機動隊』から見る日本歴史
4 回目 武梨えりのマンガ・アニメ『かんなぎ』から見る日本歴史	12 回目 押井守のアニメ『攻殻機動隊』から見る日本歴史
5 回目 武井宏之のマンガ『シャーマンキング』から見る日本歴史	13 回目 押井守のアニメ『攻殻機動隊』から見る日本歴史
6 回目 武井宏之のマンガ『シャーマンキング』から見る日本歴史	14 回目 マンガ・アニメから見る日本歴史とは
7 回目 武井宏之のマンガ『シャーマンキング』から見る日本歴史	15 回目 まとめ
8 回目 田辺イエロウのマンガ・アニメ『結界師』から見る日本歴史	

◆**教科書** 使用しない。〔当日資料配布〕適宜授業中に資料プリントを配布する。

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 平常点 20%、試験 80%

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## □私たちと法の関わりを知りましょう

〔法学 B〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：高須 則行

◆**学修到達目標** 現代社会における紛争解決で重要視されている法的思考の道具立てを理解し、それが現実の社会の中でどのように機能しているかを理解してもらうことを目的とする。

◆**授業方法** 講義形式で行いますが、その都度、受講生の皆さんに質問し、自らの考えを述べてもらいたいと思っています。そのような双方向の授業を心掛けていきたいと思います。

◆**準備学修** 新聞等で社会的な問題を意識しておいてください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 法の解釈 (I) 解釈の意義	9 回目 国家の組織と作用に関する法 (1)
2 回目 法の解釈 (II) 解釈の技法 (1)	10 回目 国家の組織と作用に関する法 (2)
3 回目 法の解釈 (III) 解釈の技法 (2)	11 回目 市民生活に関する法 (1)
4 回目 法の解釈 (IV) 解釈の技法 (3)	12 回目 市民生活に関する法 (2)
5 回目 法の解釈 (V) 解釈の技法 (4)	13 回目 現代資本主義社会の法
6 回目 法の種類 (IV) 不文法 (1)	14 回目 法の構造 (2)
7 回目 法の種類 (V) 不文法 (2)	15 回目 法の目的・まとめ
8 回目 法の種類 (VI) 不文法 (3)	

◆**教科書** 〔当日資料配布〕特定の教科書は使用せず、授業中にプリント (当日) を配布します。

◆**参考書** その都度、授業中に指示します。

◆**成績評価基準** 試験を実施し、得点によって評価します。3 分の 2 以上の出席を要します。

◆**授業相談 (連絡先) :**

## □行動を科学する

〔心理学 B〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：野村 康治

◆**学修到達目標** 「心」の理解はともすれば主観的なものになりがちであり、主観的理解は思い込みや誤解を生むことがある。この授業では「行動」をキーワードとして、心理学が「心」に関する問題にいかに関わり、どのようなことを見出し、きたかを学ぶ。そして、「心」に問題に対する思考力の育成を目指す。

◆**授業方法** 授業は主として講義形式で行う。講義内容を必ずノートにとること。また、授業中に教員から質問をしたり、意見を求めることもある。ただ漫然と授業を聴くのではなく、考えながら聴講し、意見を求められたときは積極的に発言して欲しい。なお、出席は毎回確認する。

◆**準備学修** 科学は疑問を持つこと、つまり問題を見つけることから始まる。そして、心に関する問題は日常の生活場面に溢れている。日常場面での様々な心の問題を見つけ出し、そのことに疑問を持ちながら毎回の授業に臨んで欲しい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 行動の生起、動機づけについて学ぶ	9 回目 行動の獲得 2、発達とは何かを学ぶ
2 回目 欲求と欲求不満、葛藤について学ぶ	10 回目 発達の規定因に関する諸研究を学ぶ
3 回目 適応行動と不適応行動について学ぶ	11 回目 行動の個人差 1、知能とは何かを学ぶ
4 回目 人間成長を促す動機づけを学ぶ	12 回目 知能の測定と知能理論について学ぶ
5 回目 行動の獲得 1、学習とは何かを学ぶ	13 回目 行動の個人差 2、性格とは何かを学ぶ
6 回目 学習理論 (連合説) について学ぶ	14 回目 性格理論と性格検査について学ぶ
7 回目 学習理論 (認知説) について学ぶ	15 回目 後期授業まとめ
8 回目 社会的学習について学ぶ	

◆**教科書** 〔教材〕『心理学 B12100』通信教育教材 (教材コード 000483) 2,850 円 (送料込)  
〈この教材は市販の『新しい心理学ゼミナール』藤田主一編 (福村出版) と同一です〉

◆**参考書** 必要に応じて授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 成績は試験結果を重視し、これに平常点 (授業時の発言など) を鑑みて総合的に評価する。

◆**授業相談 (連絡先) :**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ■日本近代文学の展開

## 〔国文学講義Ⅴ（近代）〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：永岡 健右

◆学修到達目標 明治 20 年代から大正期までの社会思潮、文芸思潮を作家と作品を具体的に把握しながら学習します。

◆授業方法 講義方式で指定テキストを読み進めます。後期では第 4 章以降が中心になります。

◆準備学修 具体的な作品を各自文庫本等で読み込むことが望まれます。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 後期授業の進め方	9 回目 森鷗外の文学
2 回目 正岡子規の文学	10 回目 荷風の文学
3 回目 浪漫主義文学（晶子）	11 回目 谷崎潤一郎の文学
4 回目 フランス自然主義について	12 回目 白樺派の文学
5 回目 島崎藤村の文学	13 回目 芥川文学の特性
6 回目 日本自然主義の文学	14 回目 プロレタリア文学
7 回目 無理理想無解決の文学	15 回目 まとめ
8 回目 夏目漱石の文学	

◆教科書 教材『国文学講義Ⅴ（近代） M30900』 通信教育教材（教材コード 000094） 2,750 円（送料込）  
〈この教材は市販の『現代日本文学のながれ』金沢近代文芸研究会編（おうふう）と同一です〉

◆参考書 各章巻末に参考文献をあげてあります。学習指導書で各章の内容を要約してあります。

◆成績評価基準 試験（80%）小テスト、レポート（各 10%）

◆授業相談（連絡先）：

## ■日本史（近世～近代）に関する基礎的事実の確認をしてみよう〔日本史概説〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：横山 則孝

◆学修到達目標 我が国の歴史的展開を世界的視野からとらえ、日本史（近世～近代）を政治・経済・社会・文化など、歴史を構成する諸要素を統合して幅広い見方で大きく把握することができるようにする。

◆授業方法 講義形式でおこなうが、テーマごとに高等学校の教科書でも言及されている基礎的事実を質問によって確認し、その上でその事実がもっている意味について考えてみる。

◆準備学修 毎回講義の終了時に次回の内容について簡単にのべることにするので、そのテーマに関連する部分について教科書と高等学校の教科書の記述がどうなっているのか予習しておくとい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 織豊政権の成立	9 回目 江戸幕府の三大改革
2 回目 太閤検地と刀狩（兵農分離）	10 回目 開国
3 回目 江戸幕府の成立	11 回目 幕末の政争と明治維新政府の成立
4 回目 近世の大名	12 回目 近世の文化
5 回目 旗本と御家人	13 回目 自由民権運動の展開
6 回目 近世の朝廷	14 回目 帝国憲法と初期議会
7 回目 近世の宗教統制	15 回目 まとめ
8 回目 幕府政治の展開	

◆教科書 教材『日本史概論 K32200 / 日本史概説 Q30200』 通信教育教材（教材コード 000382）  
2,500 円（送料込）  
〈この教材は市販の『概論 日本歴史』佐々木潤之介（吉川弘文館）と同一です〉

◆参考書 丸沼『日本史 B』 高等学校教科書 出版社は問わない。

◆成績評価基準 リポート 15%、ミニテスト 15%、試験 70%

◆授業相談（連絡先）：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



## ■家計と企業および市場の分析

〔経済原論〕

水曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：片平 光昭

◆**学修到達目標** 前期の講義に引き続き、家計（消費者）と企業（生産者）のそれぞれの行動を詳しく考察し、その両者の行動によって市場ではどのように均衡価格や均衡取引量が決定されるかを理解します。

◆**授業方法** 前期の講義と同様に、この講義では多くのグラフや簡単な数式が用いられますが、その使い方や意味をその都度簡単に説明します。またこれらの分析がわれわれの日常生活にどのように関連しているかを現実に即して説明していきます。

◆**準備学修** この講義は、経済学の基礎的知識を土台にしてミクロ経済分析を行います。そのために、この講義を受講する前に「経済学」あるいは「経済学概論」を受講しておく方が望ましいでしょう。また毎回の講義はその前回の講義を理解したものとして継続的に進められますので、欠席せずに必ず前回の講義内容を把握しておくことが重要です。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 平均費用と限界費用	9 回目 需要曲線のシフト要因
2 回目 総費用曲線と市場価格	10 回目 供給曲線のシフト要因
3 回目 総収入と総費用と利潤	11 回目 余剰分析と資源配分
4 回目 価格変化と利潤最大化	12 回目 不完全競争市場の形成要因
5 回目 短期と長期の供給曲線	13 回目 独占価格と寡占価格の決定理論
6 回目 市場の分類および完全競争市場の成立条件	14 回目 市場の失敗
7 回目 均衡取引量と均衡価格	15 回目 後期のまとめとテスト
8 回目 需給均衡への調整過程	

◆**教科書** **通材**『経済原論 R20100／経済学原論 L31300』 通信教育教材（教材コード 000159）  
2,350 円（送料込）

◆**参考書** 必要に応じて講義中に指示します。

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提に、中間テスト、小テスト、学年末テストにより総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

## ■サブカルなんていわせない！マンガもアニメも日本の伝統文化だ！〔文化史〕

水曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：渡邊 浩史

◆**学修到達目標** 現在の日本においてサブカルチャーと言われているマンガ・アニメだが、実はその表現方法や内容は日本の伝統文化の影響を脈々と受け継いでいる。日本の各時代の文化を考察する事によって、それが現在のマンガ・アニメにどのように反映しているのかを理解できるようにする。そして、一見過去と断絶しているかのように見える現代の我々の生活が、いかに過去と密接に関わっているかを理解できるようにする。

◆**授業方法** 授業の中では、出来るだけ多くの資料を提示したいと考えている。授業計画にあるように、それぞれの時代の文化についての概説を述べた後に各論を展開する。なお、計画は目安であり変更する場合もある。

◆**準備学修** 授業を受ける前に、最低限高校日本史教科書レベルの知識は付けておいて欲しい。その前提で授業を進める。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 はじめに	9 回目 能・狂言 2
2 回目 中世の文化	10 回目 中世の旅 1
3 回目 絵巻物 3	11 回目 中世の旅 2
4 回目 絵巻物 4	12 回目 近世の文化
5 回目 地獄 1	13 回目 近世の旅
6 回目 地獄 2	14 回目 近世の食文化
7 回目 一揆の芸能	15 回目 まとめ
8 回目 能・狂言 1	

◆**教科書** 使用しない。

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 試験（80%）、平常点（20%）

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

〔英語 E〕

水曜日 5 時限

開講単位 1 単位

担当者：石川 勝

- ◆**学修到達目標** テキストの読解を中心に、文法の説明やリスニングを行い、英語の力の底上げを図ることを目的とする。  
テキストは大学生がアメリカを旅行する内容で親しみやすいと思われる。
- ◆**授業方法** 事前にテキストの訳をやってきてもらい、授業中指名して発表してもらう形をとる。そのあとで英文の構造や背景の説明を行う。
- ◆**準備学修** 前の授業で指示された個所の予習を必ずしておくこと。2回予習していない場合は単位を認めない。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 unit 7	9 回目 unit 11
2 回目 続き	10 回目 続き
3 回目 unit 8	11 回目 unit 12
4 回目 続き	12 回目 続き
5 回目 unit 9	13 回目 unit 13
6 回目 続き	14 回目 続き
7 回目 unit 10	15 回目 まとめ
8 回目 続き	

- ◆教科書 丸沼『*Jiro Goes to America*』金星堂 1,566 円（税込）（送料 215 円）  
◆参考書 授業中に指示する。  
◆成績評価基準 数回行う小テストの結果で成績を判断する。  
◆授業相談（連絡先）：

## ◆法に関する常識を疑ってみませんか？

〔法哲学〕

水曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：高須 則行

- ◆**学修到達目標** 皆さんは法についての何らかのイメージを持っていることでしょう。そのイメージをちょっとばかり疑ってみませんか？ というのも、法哲学は「当たり前」と思われて、誰からも疑われてこなかった法的な事柄をひとまず疑ってみて、その上で、できる限りその根拠を探り当ててみようとする知的営みだからです。そのことによって、自分たちの拠って立つ知的基盤を反省し、より深い知識を習得してもらうことを目標としています。
- ◆**授業方法** 講義形式で行いますが、その都度、受講生の皆さんに質問し、自らの考えを述べてもらいたいと思っています。そのような双方向の授業を心掛けていきたいと思います。  
受講者の人数にもよりますが、ゼミ形式で授業を進めることも考えています。
- ◆**準備学修** 新聞等で社会的な問題を意識しておいてください。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目	法哲学へのいざない	9 回目	法価値論 (Ⅰ)：法と正義：正義の分類
2 回目	法的世界の概要 (刑事訴訟を前提に)	10 回目	法価値論 (Ⅱ)：ラードブルフの法理念論
3 回目	法規範の構造：行為規範・裁判規範・組織規範	11 回目	法価値論 (Ⅲ)：功利主義
4 回目	法規範の機能： 抑止＝保障機能・活動促進機能・紛争解決機能・資源配分機能	12 回目	法価値論 (Ⅳ)：ロールズの公正としての正義
5 回目	法律学方法論 (Ⅰ)：法的三段論法と法源論	13 回目	生命と法 (Ⅰ)：脳死・臓器移植
6 回目	法解釈方法論 (Ⅱ)：法解釈の技法 (1)： 文理解釈・拡張解釈・縮小解釈	14 回目	生命と法 (Ⅱ)：安楽死・尊厳死
7 回目	法解釈方法論 (Ⅲ)：法解釈の技法 (2)：反対解釈と類推適用	15 回目	法哲学の整理・まとめ
8 回目	法解釈方法論 (Ⅳ)：法解釈の技法 (3)：体系的解釈		

- ◆**教科書** 特定の教科書は使用せず、**〔当日資料配布〕** 授業中にプリント（当日）を配布します。
- ◆**参考書** その都度、授業中に指示します。
- ◆**成績評価基準** 試験を実施し、100%の得点によって総合的に評価します。3分の2以上の出席を必要します。
- ◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## 国語学がどういう学問かを知る

## 〔国語学概論〕

水曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：保科

恵

◆**学修到達目標** ひと口に「国語学」と言っても、様々な対象・方法があります。国語学がどういう学問なのかをひと通り見渡すことによって、国語学に対する知識を身につけることを目標とします。

◆**授業方法** 講義を中心として授業を進めますが、適宜指名してテキストを読んでもらったり、各項目について的小テストを行ったりします。

◆**準備学修** 特別なことは必要ありませんが、いろいろな国語の現象に対する興味を持っていることが前提です。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 文法（その 1）	9 回目 語彙（その 4）
2 回目 文法（その 2）	10 回目 語彙（その 5）
3 回目 文法（その 3）	11 回目 文体（その 1）
4 回目 文法（その 4）	12 回目 文体（その 2）
5 回目 文法（その 5）	13 回目 言語生活
6 回目 語彙（その 1）	14 回目 方言・系統
7 回目 語彙（その 2）	15 回目 まとめ
8 回目 語彙（その 3）	

◆**教科書** 丸沼『国語学要論』福島邦道 笠間書院 1,512 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** 特になし。

◆**成績評価基準** 試験 70%。平常点 30%。

◆**授業相談（連絡先）：**

## 古典文学の捉え方、その先へ

## 〔国文学基礎演習〕

水曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：木村

一

◆**学修到達目標** 本講座で対象とするのは、平安時代の文学作品である。そのジャンルは、漢詩集・和歌集・物語文学・随筆と多岐にわたる。そのジャンルに貫通する時代を体感すること、文学作品に描かれていることを通して、その時代に生きた人々の物の見方を知ることを主眼とする。本講座は「演習」である。次のステップの「〈本〉演習」への橋渡しとしたい。調査・研究の方法、古典文学の捉え方・見方ができるようになることを目標とする。

◆**授業方法** 本講座は「演習」である。受講生諸君が主体となり、〈調査〉・〈研究〉を経て口頭発表を行う。具体的には、指定テキストに対して担当者を決め、読み込んだ上で、どうしてそのような〈展開〉・〈結論〉になるのか、という論理展開をたどることを主眼とする。〈発表〉と〈質疑応答〉という討論形式で進めることになる。「国文学基礎講義」・「国文学概論」を履修し終えていることが望ましい。

◆**準備学修** 受講生各自、口頭発表をするという自覚を持つこと。指定テキストに対して、自身の担当箇所をしっかりと読み込むこと。その上で内容をしっかりと把握すること。さらに、執筆者の言いたいことは何か、問題点はどのようなことか、といったことを洗い出していくこと。口頭発表であるから、レジュメを作ること。発表担当ではない者も該当箇所を読み込んで、質問事項を用意しておくこと。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 後期導入 どう進めてきたか確認	9 回目 受講生による口頭発表（後期物語②）
2 回目 受講生による口頭発表（源氏①）	10 回目 受講生による口頭発表（暮らし①）
3 回目 受講生による口頭発表（源氏②）	11 回目 受講生による口頭発表（暮らし②）
4 回目 受講生による口頭発表（枕①）	12 回目 受講生による口頭発表（特定作品①）
5 回目 受講生による口頭発表（枕②）	13 回目 受講生による口頭発表（特定作品②）
6 回目 受講生による口頭発表（歌学①）	14 回目 受講生による口頭発表（特定作品③）
7 回目 受講生による口頭発表（歌学②）	15 回目 後期まとめ・総まとめ
8 回目 受講生による口頭発表（後期物語①）	

◆**教科書** 丸沼『中古文学研究』神作光一編 双文社出版 2,376 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** 電子辞書（電子端末不可）があると便利。〔当日資料配布〕発表レジュメは当日配布。その他必要に応じてプリントを当日配布する。

◆**成績評価基準** 発表内容 70%・質疑応答 10%・レポート 20%で総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ◆民衆動員から見た日中戦争・太平洋戦争史

〔東洋史特講Ⅱ〕

水曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：堀井 弘一郎

◆**学修到達目標** 日中戦争や太平洋戦争においては中国、台湾、朝鮮、東南アジア各地で対立勢力が民衆動員を競った。本講座では徴兵、移民、引揚げ、留用などを含めた民衆の動員という視点から日中戦争・太平洋戦争史を再構成し、民衆にとっての戦争の意味を考察する歴史的教養を培うことを目標とする。後期は太平洋戦争開始後が対象。

◆**授業方法** 毎回レジメや資料プリントを用意し、それに沿って講義形式で授業をすすめる。その際、受講者からの質疑や意見発表等を取り入れていく。また、視聴覚教材を活用したり、史資料にも多く触れたりすることで、歴史への興味関心を深める。資料収集の方法、卒業論文等の作成方法についても解説する。教科書も適宜活用する。

◆**準備学修** 戦後 70 年を迎える今年は、戦争を巡る話題や議論には事欠かないであろう。日頃から日中戦争や太平洋戦争に関する書物に親しんだり、戦争の史実や記憶、歴史認識を巡る新聞・雑誌記事を読んで必要に応じて保存したりすることを心がけてほしい。教科書指定図書も一読しておいてほしい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 太平洋戦争下の日本の民衆	9 回目 「留用」される日本人（1）
2 回目 植民地朝鮮の民衆	10 回目 「留用」される日本人（2）
3 回目 植民地台湾の民衆	11 回目 日本人の引揚げ
4 回目 日本軍占領下の東南アジア	12 回目 残留孤児と残留婦人
5 回目 慰安婦・戦時性暴力	13 回目 シベリア抑留
6 回目 太平洋戦争下の日系アメリカ人・ブラジル人	14 回目 後期の総括
7 回目 捕虜となった日本兵	15 回目 まとめ
8 回目 戦前・戦後の沖縄民衆	

◆**教科書** 丸沼『「満州」から集団連行された鉄道技術者』堀井弘一郎 創土社 1,512 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** 丸沼『シリーズ中国近現代史③ 革命とナショナリズム』石川禎浩 岩波新書 885 円（税込）（送料 215 円）  
丸沼『シリーズ日本近現代史⑥ アジア太平洋戦争』吉田裕 岩波新書 885 円（税込）（送料 215 円）

◆**成績評価基準** 前期・後期と合わせ、平常点 20%、試験 80%で評価する。毎回出席することを前提として評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

## ◆ Oscar Wilde の童話を読む

〔英語 F〕

木曜日 1 時限

開講単位 1 単位

担当者：鈴木 ふさ子

◆**学修到達目標** 英文の正確な把握力を高めることを目標とします。作品の文化や時代背景について理解し、作者の意図を汲むことで作品を深く、多面的に解釈できるようになること、童話にふさわしい表現を翻訳する技法とセンスを身につけることを目標とします。

◆**授業方法** イギリス 19 世紀末の童話を主なテキストとし、音読と翻訳を通して英語の文章を正確に読み取っていきます。単語ひとつの解釈をめぐるディスカッションすることもあります。毎回進んだ範囲から部分訳や作品解釈を確認するテストを行います。

◆**準備学修** 毎回次に進む範囲を、音読し、ひとつひとつの単語を丁寧に調べて、情景をイメージしながら自分なりの翻訳を作ってきて下さい。また、自分なりに作品の解釈をしてまとめた上で授業に臨んで下さい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス（授業の内容・進め方など）	9 回目 "The Star Child" 精読・確認テスト
2 回目 Wilde の童話をプリントで読む	10 回目 "The Star Child" 精読・確認テスト
3 回目 Wilde の童話をプリントで読む	11 回目 "The Star Child" 精読・確認テスト
4 回目 Wilde の童話をプリントで読む	12 回目 "The Star Child" 精読・確認テスト
5 回目 "The Nightingale and the Rose" 精読・確認テスト	13 回目 "The Star Child" 精読・ディスカッション
6 回目 "The Nightingale and the Rose" 精読・確認テスト	14 回目 期末試験
7 回目 "The Nightingale and the Rose" 精読・確認テスト	15 回目 試験の解説
8 回目 "The Nightingale and the Rose" 精読・ディスカッション	

◆**教科書** ⅨⅨ『*The Happy Prince & Other Tales*』Oscar Wilde 英光社 1,620 円（税込）（送料 215 円）

◆**参考書** ⅨⅨ『オスカー・ワイルドの曖昧性』鈴木ふさ子著 開文社 2,484 円（税込）（送料 300 円）

◆**成績評価基準** 毎回出席することを前提として、平常点（授業への参加・貢献、予習）30%、確認テスト 30%、最終（期末）試験 40%で評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

## ◆ 行政管理や行政統制を中心に学びましょう

〔行政学〕

木曜日 1 時限

開講単位 2 単位

担当者：関根 二三夫

◆**学修到達目標** 行政の実施過程において、行政の目標を明確に定め、公務に従事する職員の努力を通して、その目標を統一的に実現するためにはどのような事が必要なのか、また、その実施過程において、行政部全体を外部から、また内部においてどのように統制すべきなのかを目標に学びます。

◆**授業方法** 講義形式で行います。講義においては、行政に関する受講生の問題意識を高め、それに対する解決能力を啓発するように進めて行きます。講義で知る得た内容が、如何なる意義を有するのか、それが個人や社会や国家にとってどのように関係してくるのかを客観的に理解しなければなりません。受講に際しては、予習や復習が必要になります。

◆**準備学修** 政策の立案や決定もしくは執行がどのように行われるかを、メディアの情報等を通して考え、各単元、テキストを参考に 2 時間程度の予習と 2 時間程度の復習が必要になります。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 行政管理 ※原則を説明します。	9 回目 情報公開 ※意義や沿革を説明します。
2 回目 行政管理 ※機能を説明します。	10 回目 情報公開 ※プライバシーの保護について説明します。
3 回目 行政管理 ※コミュニケーションの機能を中心に説明します。	11 回目 オンブズマン制度 ※意義や沿革を説明します。
4 回目 行政管理 ※コミュニケーションの方向を中心に説明します。	12 回目 わが国の行政相談 ※意義や内容を説明します。
5 回目 行政管理 ※リーダーシップと指導者の役割を説明します。	13 回目 地方自治 ※沿革を中心に説明します。
6 回目 行政管理 ※稟議制について説明します。	14 回目 戦前の官吏制から戦後の公務員制への変遷と行政との関係
7 回目 行政統制 ※外在的統制を説明します。	15 回目 講義内容の総括
8 回目 行政統制 ※内在的統制を説明します。	

◆**教科書** ⅨⅨ『行政学 L30100』通信教育教材（教材コード 000084）2,700 円（送料込）

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** 試験 70%、平常点 30% ※試験同様、質問や小テストへの解答も重視しますので、受講に際しては欠席しないように注意して下さい。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## □東北アジアの民族と交流

〔東洋史入門〕

木曜日 1 時限

開講単位 2 単位

担当者：綿貫 哲郎

◆**学修到達目標** 東北アジアとくに黒龍江（アムール川）下流域の先住民社会は、平和で変化がないと思われてきたが、13 世紀以降にはダイナミックな動きと連動し日本を巻き込み変化に富む時代を経験する。この地域の歴史や文化そして日本と関係を学ぶことで、異文化との接触を考えることができるようになる。

◆**授業方法** 以下の授業計画（学生の理解度により変更あり）に沿って、講義形式でおこなう。講義の理解を深めるため、視覚教材を適宜併用する。必要に応じて、授業時間内外でレポートを課する予定である。

◆**準備学修** 高校までに学んだ通史やキーワードの理解を前提として講義を進める。復習は随時おこなってもらいたい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス、導入	9 回目 清朝と辺民社会（2）
2 回目 モンゴルの樺太遠征	10 回目 江戸幕府の北方政策（1）
3 回目 明朝のアムール・樺太統治（1）	11 回目 江戸幕府の北方政策（2）
4 回目 明朝のアムール・樺太統治（2）	12 回目 江戸幕府の北方政策（3）
5 回目 ヌルハチの女真統合	13 回目 サンタン交易（1）
6 回目 露清紛争とアムール下流域（1）	14 回目 サンタン交易（2）
7 回目 露清紛争とアムール下流域（2）	15 回目 まとめ、試験
8 回目 清朝と辺民社会（1）	

◆**教科書** なし。〔当日資料配布〕当日プリント資料を配付する。

◆**参考書** 授業中に適宜指示する。

◆**成績評価基準** 試験（60%）、平常点〔授業態度・レポートなど〕（40%）。毎回出席することを前提として総合的に評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

## □知的活動の道具としてのコンピュータ（2）

〔情報概論 A〕

木曜日 1 時限

開講単位 2 単位

担当者：中村 典裕

◆**学修到達目標** この講義では、単にマニュアル通りにコンピュータが操作出来るだけの人間を育成しようとは考えていない。コンピュータを知的活動の道具として使いこなさなければならない。特にオフィスソフト（文書作成、表計算、プレゼンテーション）が十分に活用できるだけの技術を習得する事を目標としている。

◆**授業方法** 本講義の中では、講義形式と演習の両方を行う。講義形式ではコンピュータの構造、歴史、情報倫理などについて学ぶ。演習ではコンピュータを実際に操作しながら、必要な技術の習得を目指す。ほぼ毎回課題を課し提出する。

◆**準備学修** 情報化社会と言われる現在、コンピュータやインターネットは非常に身近なものになっている。しかし、その原理や歴史的背景を理解している人はわずかであろう。本講義に望むにあたっては、テレビや新聞などの報道に関心を持つと同時に、身近な情報機器の操作方法を改めて確認するなどの態度が望まれる。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 表計算ソフトとは、Excel 入門	9 回目 Excel 演習 8、グループ化・串刺し集計
2 回目 Excel 演習 1、平均・四則演算	10 回目 Excel 演習 9、マクロとは何か
3 回目 Excel 演習 2、グラフの活用	11 回目 Excel 演習 10、VB 入門
4 回目 Excel 演習 3、書式、条件付書式	12 回目 HTML の基礎
5 回目 Excel 演習 4、関数入門	13 回目 ICT と 21 世紀の社会
6 回目 Excel 演習 5、IF・表参照関数	14 回目 総合演習
7 回目 Excel 演習 6、フィルタ/データベース	15 回目 最終課題
8 回目 Excel 演習 7、ピボットテーブル	

◆**教科書** 特に指定しない。プリントと講義専用ウェブサイト上で資料を提供する。（ウェブサイトのアドレスは授業中に指示する。）

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 平常点（30%）、平常課題（30%）、最終課題レポート（40%）。毎回出席する事を前提として評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



〔TOEIC A〕

木曜日 2 時限

開講単位 1 単位

担当者：鈴木 ふさ子

- ◆**学修到達目標** 演習問題を通して、日常生活やビジネスで必要とされる基本語彙や会話表現を身につけ、基礎的な文法事項を修得します。さらに、TOEIC の各 Part の特徴をつかみ、時間内で解く練習をすることで、試験の形式に慣れ本番で実力を発揮できるようにします。(※ TOEIC 初心者用クラスなので、500 点以上のスコアを持つ方には適さない)
- ◆**授業方法** 授業の冒頭(休憩後)にテキストの各 Unit のボキャブラリーの小テストを実施。その後、予習してきた文法事項と Listening と Reading の Warm Up の答え合わせと解説をし、指定時間内に Listening と Reading の演習問題を解いた後、答え合わせと解説をします。授業内で映像を聞き取り、Listening 力をつけます。
- ◆**準備学修** テキストの冒頭にあるボキャブラリーの CD を聞いて、単語を書き取ってきて下さい。何度も聞いてわからないものがあったら、単語の意味や各 Unit の内容からどの単語なのか推測した上で辞書で調べて下さい。また、各 Unit の文法事項の確認、穴埋め問題、Warm Up の問題を解いて、授業時に当てられた時に答えられるように準備すること。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 授業ガイダンス	9 回目 小テスト Unit 8 映像の聞き取り
2 回目 ミニ模擬テスト	10 回目 小テスト Unit 9 映像の聞き取り
3 回目 TOEIC の学習方法について	11 回目 小テスト Unit 9 映像の聞き取り
4 回目 小テスト Unit 6 映像の聞き取り	12 回目 小テスト Unit 10 映像の聞き取り
5 回目 小テスト Unit 6 映像の聞き取り	13 回目 小テスト Unit 10 映像の聞き取り
6 回目 小テスト Unit 7 映像の聞き取り	14 回目 実力テスト
7 回目 小テスト Unit 7 映像の聞き取り	15 回目 期末試験
8 回目 小テスト Unit 8 映像の聞き取り	

- ◆教科書 丸沼『Kick Off for the TOEIC Test』 金星堂 2,106 円（税込）（送料 300 円）  
◆参考書 授業時に適宜紹介します。  
◆成績評価基準 毎回出席することを前提とするので、欠席はしないようにしましょう。  
平常点（授業への貢献・貢献・予習）20%，小テスト 30%，最終試験 50%で評価します。  
◆授業相談（連絡先）：

## ◆宮沢賢治の「外国」を探る

## 〔国文学演習〕

木曜日 2 時限

開講単位 1 単位

担当者：近藤 健史

- ◆**学修到達目標** 賢治が「外国」をどのように受け入れていたのかを探ることにより、作家の感性や作品の本質を知ることができる。また、口頭発表することでプレゼンテーション能力も身につく。文献調査方法も身につくことで卒業論文に役立つ。
- ◆**授業方法** 各自テーマを決めて考察したものを、約 20 分ぐらいの時間で口頭発表してもらう。参加者は質問、意見を出し、発表者は応答するという形式である。人数分レジュメを用意して欲しい。
- ◆**準備学修** 「外国」とは、どんな国々なのか。辞典の索引などを利用し作品を読んでおいて欲しい。

◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	9 回目 学生の発表 7
2 回目 賢治と外国について	10 回目 学生の発表 8
3 回目 学生の発表 1	11 回目 学生の発表 9
4 回目 学生の発表 2	12 回目 学生の発表 10
5 回目 学生の発表 3	13 回目 学生の発表 11
6 回目 学生の発表 4	14 回目 学生の発表 12
7 回目 学生の発表 5	15 回目 まとめ
8 回目 学生の発表 6	

- ◆**教科書** 特になし。各自のテーマとかわかる作品。
- ◆**参考書** 丸沼『宮沢賢治イーハトーヴ学事典』天沢退二郎他編 弘文堂 15,120 円（税込）（送料 460 円）  
『新宮沢賢治語彙辞典』原子朗 東京書籍  
〈上記の本は品切れのため図書館等を利用してください〉
- ◆**成績評価基準** 発表内容（50%）、質疑応答（20%）、最終リポート（30%）
- ◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



## 英語の過去・現在そして未来は？

英語史

木曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：真野 一雄

◆**学修到達目標** 英文の読解力を高めるとともに、英語がどのような発達・変化を遂げて今日の姿になったか、歴史的な流れの基礎的な知識を修得する。過去の歴史を振り返り、英語の未来の姿を想像してみましょう。

◆**授業方法** テキストⅡ章「音韻論」・Ⅳ章「語形論」を、『学習指導書』を併用しながら、読む予定です。テキストは私達にとって必要な箇所を重点的に読みます。なお、試験は途中退出なしで実施します。

◆**準備学修** 毎回、テキスト（英文）を読み、『学習指導書』の問の解答を用意しておいてください。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回目 Ⅱ章・母音交替	9 回目 Ⅳ章・代名詞（1）
2 回目 Ⅱ章・グリムの法則（1）	10 回目 Ⅳ章・代名詞（2）
3 回目 Ⅱ章・グリムの法則（2）	11 回目 Ⅳ章・動詞（1）
4 回目 Ⅱ章・母音変異	12 回目 Ⅳ章・動詞（2）
5 回目 Ⅱ章・大母音推移（1）	13 回目 Ⅳ章・動詞（3）
6 回目 Ⅱ章・大母音推移（2）	14 回目 Ⅳ章・動詞（4）
7 回目 Ⅳ章・名詞（1）	15 回目 試験＋質疑応答
8 回目 Ⅳ章・名詞（2）	

◆**教科書** **通材**『英語史 N30300』 通信教育教材（教材コード 000117） 2,600 円（送料込）  
 〈この教材は市販の『詳注ブルック英語史』 G. L. Brook（南雲堂）と同一です〉

◆**参考書** **丸沼**『英語の歴史—過去から未来への物語』 寺澤盾著 中公新書 1971 842 円（税込）（送料 215 円）  
**丸沼**『英語の歴史』 中尾俊夫著 講談社現代新書 958 799 円（税込）（送料 215 円）  
 （※自学用で、授業中に参照することはありません。）

◆**成績評価基準** 受講状況（10%）、試験（90%）で評価の予定。6 回以上の欠席者は受験資格を失います。（試験は途中退出なしです）

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
 ※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ◆ 17 世紀フランスの哲学者が書いた教科書を通じて、 西洋近代の思考法と人間観を考察する

〔哲学基礎講読〕

木曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：瀧田 寧

◆**学修到達目標** 現代の私たちが受け入れている考え方の多くが、17 世紀以降の西洋で発展した学問に依拠していることを考えると、その学問の前提となる思考法や人間観を学ぶことは重要であると言える。

本講義では、17 世紀フランスの哲学者たちが執筆した教科書『論理学、別名思考の技法』（以下『思考の技法』と略記）を読解しながら、そこに見いだされる思考方法や人間観を考察し、それを自分なりに説明できるようになることを目標とする。

◆**授業方法** 講義形式で進めるが、講読の授業なので、まずは皆さんにテキストを順番に読んでいただく。

但し、テキストは一読して直ちに理解できるものではないので、講師の方でも同じ文章を繰り返し読みながら解説を加える。

また、講義後は毎回「コメント」を書いていただく（1～3、14、15 回目は除く）。

なお、講義形式なので、質問や意見等は授業後に受けるが、特に重要だと判断した講義後の「コメント」は、授業の中で紹介することもある。

◆**準備学修** 『思考の技法』については、テキストに収録されている解説部分を、よく読んでおきましょう。

また、本書の著者たちが影響を受けているデカルトの哲学を、『方法序説』などを通じて理解しておくことも重要です。

なお本科目は、哲学科以外の学生でも、下記①～③の意識を持つ人には馴染みやすいようです。

- ① 異なる時代の価値観にも寛容でいられる。
- ② すぐに答えを欲しがらない。
- ③ 自分の日常を少し掘り下げた視点から見直してみたい。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 本講義の方法・計画等の説明	9 回目 『思考の技法』第 1 部（4）
2 回目 17 世紀後半の西洋思想の流れを概観する	10 回目 『思考の技法』第 4 部（1）
3 回目 『思考の技法』の概略説明	11 回目 『思考の技法』第 4 部（2）
4 回目 『思考の技法』の第一序説～前文（1）	12 回目 『思考の技法』第 4 部（3）
5 回目 『思考の技法』の第一序説～前文（2）	13 回目 『思考の技法』第 4 部（4）
6 回目 『思考の技法』第 1 部（1）	14 回目 『思考の技法』以後の展開
7 回目 『思考の技法』第 1 部（2）	15 回目 まとめと試験
8 回目 『思考の技法』第 1 部（3）	

◆**教科書** 教材『哲学基礎講読 P20100』 通信教育教材（教材コード 000042） 3,650 円（送料込）

◆**参考書** 授業の中で紹介する。

◆**成績評価基準** 毎回（但し 1～3、14、15 回目は除く）の講義終了後に書いていただく「コメント」（50%）、試験（50%）

◆**授業相談（連絡先）：**

## ◆ *Dubliners* の *The Dead* を読む

〔英米文学演習〕

木曜日 3 時限

開講単位 1 単位

担当者：猪野 恵也

◆**学修到達目標** *Dubliners* の *The Dead* について知り、言葉に対する感覚を身に着ける。

◆**授業方法** 学生の発表を中心に進める。毎回 5 ページ程度読む予定。進め方は追って指示する。

◆**準備学修** 発表をしなくてもテキストに目を通し、必ず予習をすること。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回目 イントロダクション	9 回目 <i>The Dead</i> を読む
2 回目 <i>The Dead</i> を読む	10 回目 <i>The Dead</i> を読む
3 回目 <i>The Dead</i> を読む	11 回目 <i>The Dead</i> を読む
4 回目 <i>The Dead</i> を読む	12 回目 <i>The Dead</i> を読む
5 回目 <i>The Dead</i> を読む	13 回目 <i>The Dead</i> を読む
6 回目 <i>The Dead</i> を読む	14 回目 補足説明
7 回目 <i>The Dead</i> を読む	15 回目 まとめ
8 回目 <i>The Dead</i> を読む	

◆**教科書** **事前資料送付** 事前にハンドアウトを配布する。

◆**参考書** 授業中指示する。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み・試験により総合的に評価します。毎回出席することを前提とする。

◆**授業相談** (連絡先) :

## ◆ 中国の〈いま〉を読む

〔東洋史概説〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：菊池 敏夫

◆**学修到達目標** 辛亥革命から現在に至る約 100 年間の中国の歴史を「グローバル化」の視点から多面的に再検証し、それを土台として現代中国の当面する諸問題を洗い直すとともに、歴史のパースペクティブにおいて現代の中国が理解できるようにする。

◆**授業方法** 原則として教科書に沿って講義の形で進めるが、必要に応じて発表、討議の形をとる。具体的なイメージづくりのためフォト、動画、図像など「非文字資料」も多用して具象化を高める工夫をする。

◆**準備学修** 教科書を使用するので、シラバスの内容に即して当該授業の範囲を事前に熟読しておくこと。さらに、キーワードなども下調べをしておき、具体的に深みのある内容理解ができるようにしておくこと。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回目 中国とは何かーガイダンス	9 回目 共産党中国と冷戦 社会主義へ
2 回目 中華民国の誕生 20 世紀初めの中国	10 回目 共産党中国と冷戦 文革とその破綻
3 回目 中華民国の誕生 地方の時代	11 回目 共産党中国と冷戦 画一化された社会
4 回目 中華民国の誕生 民族運動の展開	12 回目 現代中国と世界 改革開放と天安門事件
5 回目 中華民国の誕生 革命政党の政治	13 回目 現代中国と世界 冷戦終結と経済成長
6 回目 国民党中国と抗日 自立への模索	14 回目 現代中国と世界 多様化の時代
7 回目 国民党中国と抗日 戦時体制と都市	15 回目 まとめ 中国の可能性と私たちの課題
8 回目 共産党中国と冷戦 国共内戦	

◆**教科書** **丸沼**『現代中国の歴史』久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士 東京大学出版会 3,024 円 (税込)  
(送料 300 円)

◆**参考書** 指定しない。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み (2000 字程度の課題レポート 1 回あり) とテストにより総合的に評価する。毎回出席することを前提として評価する。

◆**授業相談** (連絡先) :

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## □参考文献を読む技術の獲得をめざす

## 〔日本史演習〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：鍋本 由徳

◆**学修到達目標** 史学専攻生として身につける技術は、史料読解法と論文作成技術です。史料は読むだけではなく選択や読解が必要です。本演習では、特に参考文献（論文や概説）を使って、論文を執筆するために必要な技術の獲得をめざします。なお、本演習は、前期と合わせて受講すると学修効果がより高まりますが、後期のみ受講も可能です。

◆**授業方法** グループワークによる学修を基本とします。はじめの数回は講師による解説とし、以後、特定の課題作業を通して、ひとつの作品を作っていきます。グループ間での話し合いや情報交換、講師の解説から、典拠史料の探索・読解、先行研究チェック、注釈付けなどの方法を実践しながら学びます。なお、課題テキストは初日に配布します。

◆**準備学修** いわゆる「論文の書き方」に関する本を読んでおくこと。毎回の授業進行・グループワークの内容・進度にあわせ、グループごとで事前学修内容を決めます。全体として事前学修すべきことは、講師から伝えます。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 日本史演習の方法・課題提示	9 回目 文献講読とグループ作業
2 回目 文献の基礎的情報	10 回目 文献講読とグループ作業
3 回目 Web の活用と実践	11 回目 文献講読とグループ作業
4 回目 文献註記のパターン・方法	12 回目 文献講読とグループ作業
5 回目 文献講読とグループ作業	13 回目 グループ課題最終調整
6 回目 文献講読とグループ作業	14 回目 グループ課題完成
7 回目 文献講読とグループ作業	15 回目 日本史演習総括講評
8 回目 文献講読とグループ作業	

◆**教科書** 〔当日資料配布〕当日プリント配布。

◆**参考書** 適宜、授業のなかで紹介する。

◆**成績評価基準** 作業への積極度（60%）、理解度チェック（20%）、全体講読の評価（20%）で総合評価。なお、講義に毎回出席した場合に 100% の評価対象となります。

◆**授業相談（連絡先）：**

## □マクロ経済学入門

## 〔経済学概論〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：陸 亦群

◆**学修到達目標** この講義は体系的な学問としての経済学を初めて学ぶことを前提に、ミクロ経済学、マクロ経済学の 2 つの部分から構築されている。初歩的な説明を重視し無味乾燥な解説を避けて、できるだけ具体例から導入して分かりやすく講義するように心がけている。

◆**授業方法** 本講義は原則として板書で授業を進める。必要に応じてパワーポイントを使用して具体例や経済動向を解説し、そのプリント資料を配布する。

◆**準備学修** 講義終了後にノートを整理し演習問題を解き学習内容を復習すること。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 オリエンテーション	9 回目 貨幣需要と利子率
2 回目 マクロ経済学とは	10 回目 貨幣の供給
3 回目 マクロ経済分析の基本的枠組み	11 回目 資産市場の均衡と利子率の決定
4 回目 国民経済計算	12 回目 財市場・資産市場の均衡と IS・LM 曲線
5 回目 経済成長と物価	13 回目 IS・LM 分析と財政金融政策
6 回目 国民所得の決定	14 回目 財政赤字の経済学
7 回目 乗数と政府部門	15 回目 講義のまとめ
8 回目 資産市場と資産の特性	

◆**教科書** 〔丸沼〕『Next 教科書シリーズ経済学入門』山口正春・楠谷清編 弘文堂 2015 2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** 授業時に適宜指示する。

◆**成績評価基準** 筆記試験。基礎理論を身に付けているかを判定する。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ◆歴史の中に商業をみる

## 〔商業史〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：横山 則孝

◆**学修到達目標** 商業を学ぶにあたって、ひととおり商業の歴史にも通じておくことは必要であろう。そこで、商業の歴史的展開についての概要の理解を深める。

◆**授業方法** 講義形式が中心であるが、必要に応じて「史料」の読みもおこなうので、その際には各自に読んでもらうことも考えている。

◆**準備学修** 高等学校の教科書「日本史 B」の中に登場する商業関連の用語をひろっておいてほしい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 近世封建社会と商業	9 回目 問屋制の成立
2 回目 初期特権商人から新興商人へ	10 回目 近世前期の商業政策
3 回目 三井高利	11 回目 石門心学
4 回目 鴻池家	12 回目 近世中後期の商業
5 回目 住友家	13 回目 専売制の展開
6 回目 近江商人中井源佐衛門	14 回目 近世奉公人制度
7 回目 三井家の家訓	15 回目 まとめ
8 回目 三井家の歴史	

◆**教科書** **【教材】**『商業史 S32100』通信教育教材（教材コード 000197）3,950 円（送料込）  
〈この教材は市販の『日本商業史』藤田貞一郎他著（有斐閣）と同一です〉

◆**参考書**『体系日本史叢書 13 流通史 1』豊田武 児玉幸多編 山川出版者  
〈上記の本は品切れのため図書館等を利用してください〉

◆**成績評価基準** 平常点 30% 試験 70%

◆**授業相談（連絡先）：**

## ◆教師としての考え方

## 〔現代教職論〕

木曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：古賀 徹

◆**学修到達目標** 教職の意義、教員の資質、及び教員の役割、教員の職務内容（服務）、等に関する理解を深めることをねらいとする。自らの教職者としての適性を問いなおし、教員に必要なものとは何かを考え深めることとする。現代の教育の現実的問題に焦点をあてて考察していく。

◆**授業方法** 講義形式を中心とするが、グループワーク等の演習方式もとり入れる。活動・学習ごとにワークシート（ミニレポート）を書くこととそのフィードバックにより、さらに学習効果があがるよう試みる。

◆**準備学修** この授業は、教員養成の段階で学んでおくべき事項や学校現場で直面する課題を《題材（教材）》としてとりあげ学んでいくことで、諸々の問題に対して“教員としてどのように考えるのか”という意識・心得をつくりあげられるようにするのがねらいです。授業以外にも、様々な教育問題、教育に関する話題・情報について関心を持ち、のぞんでください。4・5 回目までに、各々過去に受けた教育から判断できる「教師に必要とされる能力」について考え、ノート等に記し、発言の準備をしておくこと。9 回目までの内容では「教師としてどのように動くべきか」という判断力について考えていくので、事前に様々なケースを想定してシミュレーションしておくこと。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 教職を履修する意味（教職の二本柱）	9 回目 学級運営・教師の対応
2 回目 教師の他者理解能力	10 回目 諸外国の教師養成のしくみ
3 回目 教師の一日・教師の成長	11 回目 教師観・教員養成の歴史的変遷（近代以降）
4 回目 理想の教師とは？（グループワーク）	12 回目 教師（教員）・教育に関する法規
5 回目 仮想・教職員会議（ロールプレイ）	13 回目 教員の研修（向上するための現職教育）
6 回目 最近の子ども事情（非行）	14 回目 現場で求められる力とは？
7 回目 最近の子ども事情（いじめ）	15 回目 教師としての考え方
8 回目 最近の子ども事情（不登校）	

◆**教科書** **【当日資料配布】** 資料・レジュメを配布する。

◆**参考書** **【当日資料配布】** 授業中に指示する。適宜に資料・レジュメを配布する。

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行なわない。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

〔英語 H〕

担当者：大住 有里子

◆授業計画〔各 90 分〕

◆授業相談（連絡先）：

〔英文法〕

担当者：真野 一雄

◆授業計画〔各 90 分〕

◆授業相談（連絡先）：

2015 年度 昼間・土曜スクーリング(後期)の手引

## ◆『現代の哲学』を読む

## 〔哲学演習〕

木曜日 4 時限

開講単位 1 単位

担当者：中澤 瞳

◆**学修到達目標** 木田元の『現代の哲学』は、『反哲学史』の続編として、20 世紀の思想を扱う著作である。本授業では、Ⅴ章からなるこの著作のうち、Ⅰ章「20 世紀初頭の知的状況」、Ⅱ章「人間存在の基礎構造」、Ⅲ章「身体の問題」を扱う。本授業は、『現代の哲学』の内容の理解はもちろん、哲学書を読み、まとめ、説明できるようになること、また討論相手の考えをよく聴き、理解し、さらに自分でも考えるという態度を身につけることも目的とする。

◆**授業方法** 初回と 2 回目は講義形式で行う。また、初回では 3 回目以降の、各回の担当者をそれぞれ決める。3 回目以降は、担当者になったものが、教科書の担当箇所のもとめ、発表を行う。担当者は、担当回では発表だけでなく、他の参加者と意見交換、議論などを含めた話し合いの中心になる。各回の担当者以外も、意見交換、議論に積極的に参加することが求められる。

◆**準備学修** 担当者は、予め割り振られた担当箇所のもとめと発表を行うための準備を行う。担当者は、一回の授業で、教科書とする著作『現代の哲学』の約 8 頁～10 頁を扱うことを予定している。担当者以外も、予め該当箇所を読んでおき、授業までに考えを整理しておく。進行具合によっては、授業計画の一部を変更する場合があるが、その際は、随時授業中に指示する。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス、序 (1)	9 回目 『現代の哲学』Ⅱ. 4
2 回目 序 (2)	10 回目 『現代の哲学』Ⅱ. 5 (1)
3 回目 『現代の哲学』Ⅰ. 1	11 回目 『現代の哲学』Ⅱ. 5 (2)
4 回目 『現代の哲学』Ⅰ. 2	12 回目 『現代の哲学』Ⅱ. 6
5 回目 『現代の哲学』Ⅰ. 3	13 回目 『現代の哲学』Ⅲ. 1
6 回目 『現代の哲学』Ⅱ. 1	14 回目 『現代の哲学』Ⅲ. 2
7 回目 『現代の哲学』Ⅱ. 2	15 回目 『現代の哲学』Ⅲ. 3・まとめ
8 回目 『現代の哲学』Ⅱ. 3	

◆**教科書** 丸沼『現代の哲学』木田元 講談社学術文庫 950 円 (税込) (送料 215 円)  
【授業で使いますので、各自で準備してください。】

◆**参考書** 授業中に随時紹介するが、たとえば 丸沼『KAWADE 道の手帖 木田元』河出書房新社 1,836 円 (税込) (送料 300 円) など。

◆**成績評価基準** 発表 (30%)、授業への参加、貢献、発言 (30%)、レポート (40%) により総合的に評価する。  
なお、毎回出席することを前提として評価する。

◆授業相談 (連絡先)：

## ◆近代から現代を中心に

## 〔西洋思想史Ⅱ〕

木曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：中澤 瞳

◆**学修到達目標** 本授業では、近代から現代の西洋に焦点を合わせ、哲学的な思想の展開をたどっていく。哲学者たちが生きた時代はどのような時代だったのか、そこで哲学者たちはなにを考えたのかについて理解することを目指す。さらに参加者それぞれが自分の視点を意識しながら、哲学に向き合うことができるようになることも目的とする。後期は『西洋哲学史』の 8 章から 14 章までの内容の理解を目指す。

◆**授業方法** 教科書とする著作『西洋哲学史』を、各章ごと、数回に分けて読み進めつつ、まとめていく。授業の進行具合によっては、予定は変更する場合がある。その際は、随時授業中に指示する。授業は、講義を基本としながら、グループ・ディスカッション、小レポートなども行う。

◆**準備学修** 参加者は、事前に各回の予定箇所を読み、内容の理解に努め、考えを整理しておく。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	9 回目 『西洋哲学史』11 章 (2)
2 回目 『西洋哲学史』8 章 (1)	10 回目 『西洋哲学史』12 章
3 回目 『西洋哲学史』8 章 (2)	11 回目 『西洋哲学史』13 章 (1)
4 回目 『西洋哲学史』8 章 (3)	12 回目 『西洋哲学史』14 章 (1)
5 回目 『西洋哲学史』9 章	13 回目 『西洋哲学史』14 章 (2)
6 回目 『西洋哲学史』10 章 (1)	14 回目 『西洋哲学史』14 章 (3)
7 回目 『西洋哲学史』10 章 (2)	15 回目 まとめ
8 回目 『西洋哲学史』11 章 (1)	

◆**教科書** 丸沼『西洋哲学史 近代から現代へ』熊野純彦、岩波新書 928 円 (税込) (送料 215 円)  
【授業で使いますので、各自で準備してください。】

◆**参考書** 授業中に随時紹介する。

◆**成績評価基準** 授業への参加、貢献 (30%)、小レポート (30%)、試験 (40%) により総合的に評価する。  
なお、毎回出席することを前提として評価する。

◆授業相談 (連絡先)：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ■史料に学ぶ「危機の時代」

## 【東洋史演習】

木曜日 5 時限

開講単位 1 単位

担当者：高綱 博文

◆**学修到達目標** 日中戦争から太平洋戦争に至る「危機の時代」について『尾崎秀実時評集』を講読しながら、史料批判・研究史整理など歴史研究のための基礎力を養成します。

◆**授業方法** テキスト史料・米谷匡史編『尾崎秀実時評集』（平凡社 東洋文庫）を講読しながら、受講生による研究発表と討論を中心としたゼミナール形式で行います。

◆**準備学修** 予めテキスト史料を学習し講読の準備を行う。また研究発表のために参考文献や史料を調べて準備する。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 講義「尾崎秀実とその時代」	9 回目 史料講読・報告・討論（7）
2 回目 史料講読・報告・討論（1）	10 回目 同上（8）
3 回目 国会図書館見学	11 回目 同上（9）
4 回目 同上（2）	12 回目 同上（10）
5 回目 同上（3）	13 回目 同上（11）
6 回目 同上（4）	14 回目 同上（12）
7 回目 同上（5）	15 回目 後期総括討論
8 回目 同上（6）	

◆**教科書** 丸沼『尾崎秀実時評集』米谷匡史編 平凡社（東洋文庫） 3,024 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** 授業時に適宜紹介します。

◆**成績評価基準** 講読・発表（60%）、平常点（20%）、レポート（20%）。毎回出席することを前提として評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

## ■オープンマクロと世界経済

## 【国際経済論】

木曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：陸 亦群

◆**学修到達目標** 戦後の国際経済の発展過程をたどり、国際経済学に関する基礎理論としての比較優位の理論や国際貿易に関する基礎的な理論、ならびに為替相場決定の理論や国際通貨制度等について解説し、グローバル経済の進展および国際経済問題に関する幅広い知識を提供する。

◆**授業方法** 本講義は教材の内容を中心に原則として板書で授業を進める。必要に応じてパワーポイントを使用して講義関連資料および国際経済関連の新聞・雑誌記事等を解説し、そのプリント資料を配布する。

◆**準備学修** 国際経済論は応用経済学分野の科目であることから、経済学概論、経済原論（経済学原論）、経済学の何れかの科目を履修済みの上、本講義を受講することをお勧めする。事前に経済学の基礎理論を温故し、講義終了後に教材内容に付き合わせてノートを整理し復習すること。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 オリエンテーション	9 回目 国際マクロ経済政策②
2 回目 国際収支統計	10 回目 外国為替相場の決定メカニズム①
3 回目 外国為替市場	11 回目 外国為替相場の決定メカニズム②
4 回目 対外収支と貯蓄投資バランス	12 回目 為替相場の変動と市場介入
5 回目 外国貿易乗数と弾力性アプローチ	13 回目 外国為替制度の選択と国際通貨制度
6 回目 マクロ経済分析の基礎	14 回目 市場化とグローバリゼーション
7 回目 IS-LM-BP 分析	15 回目 講義のまとめ
8 回目 国際マクロ経済政策①	

◆**教科書** 陸 亦群『国際経済論 R31100』通信教育教材（教材コード 000281） 1,950 円（送料込）

◆**参考書** 講義内容に応じて随時紹介する。

◆**成績評価基準** 筆記試験。国際経済学の基礎知識を身に付けているかを判定する。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



# 哲学・宗教・倫理の教材をつくる

# 〔社会科・公民科教育法Ⅰ〕

木曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：古賀

徹

◆**学修到達目標** 社会科・公民科教育の目的と教育内容について理解を深め、実践的な授業方法を身につけられるようにする。「現代社会」「倫理」「政治・経済」の各分野について必要とされる基礎知識を学び、適する教授方法を考えていく。特に「倫理」「哲学」「宗教」の課題を中心に授業づくりをしていきたい。

◆**授業方法** 教科内容及び授業法の講義を行うが、各自 1 回以上の模擬授業を実践する。学習指導案を作成しての模擬授業と、その批評検討を通して学びあう授業とする。

◆**準備学修** 中学校（社会科）・高等学校の公民科に関する教科書の記述内容について、事前に読んで理解しておく、実際にとりくむ授業づくりにおいて「授業」（生徒の学習活動）がイメージしやすくなります。授業中にも紹介しますが、学習指導要領（文部科学省ホームページからも確認可能）の記述に目を通しておくことも大事になります。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 公民科授業のねらい（学習指導要領）	9 回目 模擬授業（2）
2 回目 中学校「社会」の指導要領とねらい	10 回目 模擬授業（3）
3 回目 指導案作成の方法と授業の手法	11 回目 生徒参画型の授業設計
4 回目 「思考力」「言語活動」を含む授業計画	12 回目 模擬授業（生徒参画型の授業）
5 回目 「倫理」の授業づくり（古代の思想）	13 回目 観点別評価をマスターする
6 回目 「倫理」の授業づくり（中世の宗教観）	14 回目 公民科教員としての授業力とは
7 回目 「倫理」の授業づくり（近代の哲学）	15 回目 総括（教材・授業設計の確認）
8 回目 模擬授業（研究成果を授業に反映する）	

◆**教科書** **〔当日資料配布〕** 資料・レジュメを配布する。

◆**参考書** 授業中に指示する。**〔当日資料配布〕** 適宜に資料・レジュメを配布する。

◆**成績評価基準** 学習指導案を指定した分、作成して提出する。模擬授業を複数回行い、授業づくり（教材研究）への取り組み、グループワークへの参加度を加味して総合的に評価する。毎回出席を前提とする。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

<b>■市民に役立つ刑事訴訟法</b>	<b>【刑事訴訟法】</b>
金曜日 1 時限	開講単位 2 単位 担当者：船山 泰範

◆**学修到達目標** 市民の目で刑事訴訟法を見ることにするが、後期では、応用問題に取り組む。なお、刑事法のまとめを行う。

◆**授業方法** 講義を中心とするが、質問の時間を設けるので、遠慮なく質問し、できるだけ疑問を解消してほしい。刑務所参観（あるいは更生施設）を組み込むので、必ず参加すること。

◆**準備学修** 教科書ならびに参考書を予習して臨んでほしい。刑法総論・各論を復習しておいて頂きたい。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 刑法に見る刑事訴訟法	9 回目 少年法は刑訴法の究極か
2 回目 犯罪阻却理論のねらい	10 回目 違法収集証拠の排除法則
3 回目 規範としての刑事訴訟法	11 回目 疑わしきは被告人の利益に
4 回目 なぜ社会的弱者が起訴されるか	12 回目 死刑存廃論
5 回目 冤罪の責任は誰が負う	13 回目 なぜ刑事の模擬裁判でなければならないか
6 回目 量刑の判断基準	14 回目 法育をすすめる
7 回目 懲役刑は再犯防止に役立っているか	15 回目 刑務所参観（更生施設）・まとめ
8 回目 取り返しがつかない刑罰は許されるか	

◆**教科書** 丸沼『NEXT 教科書シリーズ 刑事訴訟法』関正晴編 弘文堂 2,592 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** 丸沼『NEXT 教科書シリーズ 刑事法入門』船山泰範編 弘文堂 2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆**成績評価基準** 期末試験 80%，平常点 20%。

◆**授業相談（連絡先）：**

<b>■中国古代の哲学思想</b>	<b>【東洋思想史Ⅰ】</b>
金曜日 1 時限	開講単位 2 単位 担当者：本間 直人

◆**学修到達目標** 中国古代の哲学思想を概観します。後期は荀子、老子、荘子の思想を中心に理解を深めます。中国古代の哲学者・思想家たちの言葉は国を超え、時代を超え、現代に生きる我々に、生きる上でのヒントを与えてくれることでしょう。

さらに、研究の意義、必要性などについても学びます。

◆**授業方法** 中国古代の哲学者・思想家たち、それぞれの哲学思想の特質をつかむことに留意しながら、発表形式で授業を行います。又、レポートのまとめ方についても指導します。授業は漢文の講読を含みますが、漢文に慣れ親しんでいない場合をも考慮し、無理のないように進めていきます。したがって、東洋思想に興味を持ちながら、漢文に対する抵抗感から、今まで本格的な学習を思いとどまっていた方の受講も歓迎します。

◆**準備学修** 授業で取り上げる哲学者・思想家についての参考書は、数多く出版されています。図書館、又は書店で実際に手に取り、気に入った本を読んでみて下さい。すんなりと頭に入る事柄もあれば、すぐには理解できない事柄もあることでしょう。しかしながら、そのことについて、じっくりと時間をかけ、自分の頭で考えることは、これからの学習に特に重要なことなのです。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 ガイダンス・荀子の思想について（人物・生涯）	9 回目 老子の思想について（〈道〉の体現）
2 回目 荀子の思想について（理論的思惟）	10 回目 老子の思想について（〈道〉の展開―市中の隠者―）
3 回目 荀子の思想について（定命論）	11 回目 老子の思想について（〈道〉の行為―〈無為〉―）
4 回目 荀子の思想について（礼）	12 回目 荘子の思想について（人物・生涯）
5 回目 荀子の思想について（定命論の礼理論と宿命論的現象）	13 回目 荘子の思想について（万物斉同）
6 回目 荀子の思想について（定命論の礼理論の限界）	14 回目 荘子の思想について（その人となり）
7 回目 老子の思想について（〈道〉―真理・カ―）	15 回目 学習内容のまとめ・試験
8 回目 老子の思想について（〈道〉への道程―修行―）	

◆**教科書** 通初『東洋思想史Ⅰ P20300』通信教育教材（教材コード 000392） 1,900 円（送料込）  
**【当日資料配布】** プリント配布（当日）。漢和辞典を用意してください。

◆**参考書** 使用しません。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（発表等）・レポート・テストにより総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
 ※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# 

〔哲学 B〕

金曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：中澤

瞳

◆**学修到達目標** 本授業は、前期に引き続き『反哲学史』を取りあげ、木田の目を通した哲学史について知り、さらに参加者それぞれが自分の視点を意識しながら、哲学に向き合うことができるようになることを目的とする。後期は『反哲学史』の 7 章から 10 章までの理解を目指す。

◆**授業方法** 教科書とする著作『反哲学史』を、一回の授業で約 8 頁を読み進めつつ、まとめていく。  
授業の進行具合によっては、予定は変更する場合がある。その際は、随時授業中に指示する。  
授業は、講義を基本としながら、グループ・ディスカッション、小レポートなども行う。

◆**準備学修** 参加者は、事前に各回の予定箇所を読み、内容の理解に努め、考えを整理しておく。

## ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	9 回目 『反哲学史』 9 章 (2)
2 回目 『反哲学史』 7 章 (1)	10 回目 『反哲学史』 10 章 (1)
3 回目 『反哲学史』 7 章 (2)	11 回目 『反哲学史』 10 章 (2)
4 回目 『反哲学史』 7 章 (3)	12 回目 『反哲学史』 10 章 (3)
5 回目 『反哲学史』 7 章 (4)	13 回目 『反哲学史』 10 章 (4)
6 回目 『反哲学史』 8 章 (1)	14 回目 『反哲学史』 10 章 (5)
7 回目 『反哲学史』 8 章 (2)	15 回目 まとめ
8 回目 『反哲学史』 9 章 (1)	

◆**教科書** 丸沼『反哲学史』木田元、講談社学術文庫 972 円（税込）（送料 215 円）  
【授業で使いますので、各自で準備してください。】

◆**参考書** 授業中に随時紹介する。

◆**成績評価基準** 授業への参加、貢献（30%）、小レポート（30%）、試験（40%）により総合的に評価する。  
なお、毎回出席することを前提として評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ◆中学英語を仏語に変換します

〔フランス語Ⅰ・Ⅱ〕

金曜日 2 時限

開講単位 1 単位

担当者：大庭 克夫

◆**学修到達目標** 英語にすれば中 1 ～中 2 レベルの内容が、フランス語で言えて・書けて・聴き取れるようにするのが目標です。また 11 月のフランス語検定試験 5 級（意欲のある人なら 4 級も可能）にもぜひチャレンジしていただきたいと思います。授業でも過去問を使ってそのための演習時間を割く予定です。

◆**授業方法** 後期は何といっても不規則動詞の活用（大切なもの 10 数種類）を身に付けるのがメインです。授業自体は前期同様＜ゼミ形式＞で進めていきます。1 回の業で最低 5 ～ 6 回は当てて答えてもらいます

◆**準備学修** 外国語の学習はレンガを 1 段ずつ積み上げていくのと同じです：2 段目のレンガは 1 段目の上にしか載せられないように、仏語も前週の内容をきちんと身につけない限り次週の内容を習得することは不可能です。その意味で、授業で習った事柄しっかり覚えてから次の授業に臨んでください。これが取りも直さず最大の予習です。

◆**授業計画〔各 90 分〕**

1 回目 数・曜日・月・季節の習得 1	9 回目 仏語検定試験演習 2
2 回目 数・曜日・月・季節の習得 2	10 回目 不規則動詞の活用と用例 4
3 回目 ＜第 2 規則動詞＞の活用と用例	11 回目 不規則動詞の活用と用例 5
4 回目 不規則動詞の活用と用例 1	12 回目 不規則動詞の活用と用例 6
5 回目 不規則動詞の活用と用例 2	13 回目 期末試験範囲まとめとヒヤリング演習
6 回目 不規則動詞の活用と用例 3	14 回目 後期期末試験
7 回目 後期中間試験	15 回目 期末試験の返却と解説、今後の課題
8 回目 仏語検定試験演習 1	

なお初めて習う外国語ですから授業への出席は必須ですが、覚える努力を伴わない出席は完全に無意味であることをお忘れなく。授業はあくまでもフランス語の仕組みを説明することしかできません：授業で習った事柄を時間と労力を割いて覚えることこそが履修です。

◆**教科書** 授業時で用いるプリントと CD はこちらで配布します。いずれも市販の教科書よりはるかに分かりやすく・丁寧にできているという自負はあります。

◆**参考書** **通材**『フランス語Ⅰ E10100』通信教育教材（教材コード 000372）2,650 円（送料込）

**通材**『フランス語Ⅱ E10200』通信教育教材（教材コード 000373）2,500 円（送料込）

週に 1 回の授業だけでは文法・語彙ともに扱えることは限られます。それを補う意味でこの 2 冊は最適です〔特に検定 4 級を目指すならば〕。

◆**成績評価基準** 試験は中間と期末の 2 回行い、成績はこの試験の結果＝努力の結果で判定します。なお試験は全問＜和文仏訳＞と＜ヒヤリング形式＞（原文を書き取ったのち和訳）で出題します。安直な和訳・択一等は一切出題しません。

◆**授業相談（連絡先）：**

## 東欧とロシアの歴史

## 〔西洋史特講Ⅰ〕

金曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：池本 今日子

◆**学修到達目標** ヨーロッパ諸国の国家や社会のあり方について、近世を中心に学びます。近世の統治体制といえば絶対主義ですが、絶対王政下において、君主は、かつてイメージされたような権力を実際には持っていませんでした。また、この時代、ヨーロッパ諸国における王権と貴族の関係はじつに様々でした。後期はロシアとポーランドを取り上げます。

◆**授業方法** 講義を行います。受講生にリアクション・ペーパーを任意に提出してもらい、授業の冒頭で復習をかねて、その中から質問に答えます。

◆**準備学修** それぞれの国の歴史の流れについて予習しておくこと。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 導入	9 回目 モスクワ大公国
2 回目 『法の精神』における共和政	10 回目 ピョートル大帝の改革
3 回目 ポーランド中世	11 回目 エカテリーナ 2 世の改革
4 回目 ポーランド貴族共和政	12 回目 19 世紀ロシア
5 回目 ヘンリク条項	13 回目 ロシア近代化とヨーロッパ
6 回目 ポーランド分割と 5 月 3 日憲法	14 回目 ポーランドとロシア
7 回目 分割後のポーランド	15 回目 まとめ
8 回目 『法の精神』におけるロシア	

◆**教科書** 〔当日資料配布〕当日プリント配布。

◆**参考書** 教場で紹介する。

◆**成績評価基準** 試験の成績で評価するが、リアクション・ペーパーの提出があれば、その内容を考慮する。

◆**授業相談（連絡先）：**

## 市場のコミュニケーション

## 〔広告論〕

金曜日 2 時限

開講単位 2 単位

担当者：樋口 紀男

◆**学修到達目標** マーケティングや広告は社会や市場の変化の兆しを読み、対応することが求められます。後期では前期の応用として、具体的に戦略立案を中心に進めます。戦略立案のポイントを習得できるようにします。

◆**授業方法** 基本的には、テキストとプリント配布によって講義中心に進めます。さらに、受講生の疑問や意見に答えるようにするために、授業の後リアクション・ペーパーを提出していただき翌週の授業で応えるようにします。

◆**準備学修** 講義で使われる言葉が多岐に渡りますので、事前にテキストに目を通すこと。さらに、事典辞書で言葉の意味を調べる癖をつけて下さい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンスと後期の授業コンセプト	9 回目 グローバル化とは何か
2 回目 商学と広告、マーケティング	10 回目 グローバル広告戦略
3 回目 マーケティングと広告	11 回目 インターネットの特性
4 回目 メディア・情報・メッセージ	12 回目 インターネット広告戦略
5 回目 マーケティングの変遷	13 回目 広告の新たな方向性
6 回目 統合型マーケティング	14 回目 広告のメタ構想力
7 回目 ブランドは何か	15 回目 まとめ（後期総括）
8 回目 ブランド広告戦略	

◆**教科書** 〔通材〕『広告論 S30900』通信教育教材（教材コード 000481）1,500 円（送料込）

◆**参考書** 〔汎用〕『高校生のための評論文キーワード』中山元 ちくま新書 842 円（税込）（送料 215 円）

◆**成績評価基準** リアクション・ペーパーに基づく平常点（30%）、小テストまたはレポート（20%）、学年末試験（50%）

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ■世の中の出来事を英語で読もう！2

〔英語 J〕

金曜日 3 時限

開講単位 1 単位

担当者：中村 則子

◆**学修到達目標** 英語で書かれた社会事象についての文章を読むことで、英文読解のスキルを向上させる。最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆**授業方法** テキストは reading の学習のみならず、その他の英語技能 (listening, speaking, writing) も学べるように構成されている。テキストに沿って、英文を読み、演習問題を行うことで、これらの4技能を習得していく。毎回、英文読解の発表をしてもらうことになる。小グループに分かれての活動も考えている。授業の進み具合により、シラバス通りにいかない場合があることをおことわりしておく。

◆**準備学修** 受講希望者はテキストを初回から持参すること。途中からの受講は原則として認められない。あらかじめ、テキストに目を通し、判らない単語を辞書で調べて、充分に予習しておくこと。また、日ごろから、テレビのニュースを、日本語放送で聞く、二か国語対応のニュースを英語で聞く、日本語の新聞を読む、やさしく解説してあるような英字新聞を読む等により、世界でおこっている出来事に興味をもち、まずは日本語で、そして英語でメディアから情報を入手する作業をしてほしい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	9 回目 Uni10 Sushi
2 回目 Unit7 Academy Awards	10 回目 Uni11 Living in a Ubiquitous Society
3 回目 Unit7 Academy Awards	11 回目 Uni11 Living in a Ubiquitous Society
4 回目 Unit8 California, Here I Come	12 回目 Unit12 The"Freeter"Phenomenon
5 回目 Unit8 California, Here I Come	13 回目 Unit12 The"Freeter"Phenomenon
6 回目 Uni9 Anyone for a Cup of Tea?	14 回目 復習
7 回目 Uni9 Anyone for a Cup of Tea?	15 回目 まとめ
8 回目 Uni10 Sushi	

◆**教科書** 〔丸沼〕『A Complete College English Program Book 1』 土屋武久他著 金星堂 1,890 円 (税込) (送料 215 円)

◆**参考書** ガイダンスにて指示。〔当日資料配布〕適宜プリント配布。中型辞書は毎回持参。

◆**成績評価基準** 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

◆**授業相談 (連絡先) :**

## ■政治を観る眼を養う

〔政治学原論〕

金曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：吉野 篤

◆**学修到達目標** 主として現代の政治過程のさまざまなアクター、中でも政党、選挙制度を中心に引き上げ、政治過程の諸側面について考察することで、政治の現実的な営みを理解すること。併せて 20 世紀の政治学の歩みを振り返ることで、学問としての政治学の概要を理解すること。

◆**授業方法** 基本的には講義形式で行い、時宜に応じて新聞報道を題材として配布し、現実の政治問題がどのように生じし、どのような解決を迫られているかを考える。

◆**準備学修** メディアの政治報道を注意深く観察して、興味を高めること。もちろん、テキストの該当箇所をよく読み、問題点を整理すること。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 政治過程論の概説	9 回目 政治過程論の概要
2 回目 大衆社会論	10 回目 シカゴ学派の生成と展開
3 回目 政党の概念と機能	11 回目 行動論政治学の特質
4 回目 政党システムの分析枠組み①	12 回目 政治システム論の概要
5 回目 政党システムの分析枠組み②	13 回目 脱行動論革命について
6 回目 選挙の意義と機能	14 回目 政治学の新展開①
7 回目 選挙制度の諸側面	15 回目 政治学の新展開②・まとめ
8 回目 アメリカ政治学の特質	

◆**教科書** 〔丸沼〕『政治学』山田光矢編著 弘文堂 2,160 円 (税込) (送料 300 円)

◆**参考書** 授業の中で指示する。

◆**成績評価基準** 基本的には期末試験で評価する。場合によっては出席点を加味する。

◆**授業相談 (連絡先) :**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## 世界、日本とのアメリカ経済の学修

## 〔アメリカ経済論〕

金曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：小林

通

◆**学修到達目標** 本講義の到達目標は、アメリカ経済の動向を時系列的経緯や経済理論との関連によって学修し、そこから現実のアメリカ経済が、世界・日本経済にどのような影響を与えているのかを理解することにあります。具体的には新聞・雑誌に掲載されているアメリカに関する経済記事や経済問題を世界との動向でそれを理解できることにあります。

◆**授業方法** 授業方法は、講義の内容が一方的にならないように注意し、その理解度を勘案して双方向的な関係で受講生の自主性や学習意欲を高めるように工夫します。具体的には受講生の質問を通じてその理解度を測ったり、単元ごとに講義の内容に沿った課題を授業中に課題し、受講生みんなでその問題について回答するように進めていきます。

◆**準備学修** 準備学修は、以下のような授業計画によって講義を進めていきますが、講義の内容や時間の都合によって思ったように実施できないこともあります。そのため受講生は、新聞などをできるだけ毎日読むようにしていただきたいと思います。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 1970 年代のアメリカ経済	9 回目 リーマン・ショック
2 回目 2 度のオイル・ショック	10 回目 サブプライムローン問題
3 回目 ニクソン・ショック	11 回目 アメリカ経済不況の影響
4 回目 スミソニアン合意	12 回目 北米自由貿易協定
5 回目 レーガノミクスの実施	13 回目 TPP とアメリカ経済
6 回目 G5 のブラザ合意	14 回目 TPP における米国の役割
7 回目 レーガノミクスの明暗	15 回目 今後のアメリカ経済・まとめ
8 回目 グローバル化時代の米国	

◆**教科書** 使用せず。

◆**参考書** 丸沼『国際政治経済学新論』川戸 円居 小林共編 時潮社 2013 年 3,024 円 (税込) (送料 300 円)

◆**成績評価基準** 受講生の出席を前提として、単位ごとの終了した後の課題、小テストおよび学期末試験の成績により評価します。

◆**授業相談 (連絡先) :**

## 分析手法の背景を理解する

## 〔市場調査論〕

金曜日 3 時限

開講単位 2 単位

担当者：最上

健児

◆**学修到達目標** 分析手法を前提とするデータの形式を理解する  
最小二乗法と非線形最小二乗法の違いを理解する。  
二項ロジットモデルとロジスティック回帰分析の違いを理解する

◆**授業方法** 各回の講義の前半の時間を使い、その日に使う数学的な質気を確認し、各種の統計モデルを詳細に説明する。

◆**準備学修** 毎回の授業では一回ごとに完結する話題となるよう配慮しているが、全講義を通じて大きな一つ的话题を取り扱っている。欠席した場合などは欠席したときの資料を熟読し、内容を把握しておくことが望ましい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 $x^p$ の微分と対数変換	9 回目 第一種極値分布
2 回目 需要の価格弾力性	10 回目 2 項ロジットモデルの確率的部分
3 回目 確率の推定方法	11 回目 2 項ロジットモデルの確定的部分
4 回目 ロジスティック曲線	12 回目 多変数化と選択肢固有の魅力度
5 回目 ロジスティック変換による推定	13 回目 多項ロジットモデル
6 回目 最尤推定によるタ推定	14 回目 無関係な選択肢からの独立性
7 回目 ロジスティック回帰分析の解釈	15 回目 まとめ
8 回目 2 項ロジットモデルと確率の公理	

◆**教科書** インターネットより配信する  
[http://www.geocities.jp/mogami\\_shiryoukan/](http://www.geocities.jp/mogami_shiryoukan/)

◆**参考書** 丸沼『リテラルデータ分析入門』上田 隆穂他 (株) 中央経済社 発行 3,024 円 (税込) (送料 300 円)

◆**成績評価基準** レポートにより評価する。(100%)

◆**授業相談 (連絡先) :**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談 (連絡先) に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ◆現代の国際社会

〔社会学 A〕

金曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：服部 慶巨

◆**学修到達目標** 今や、この地球において異文化や諸外国と接触せずに日常生活を送ることは不可能に近いと言える。本講義は、そんな現実を前提として、受講学生が社会的な視点から国際社会や異文化交流を多角的にとらえられるようになることを目的として開講される。

◆**授業方法** 教科書・プリント・板書（パワーポイント）などを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて視聴覚資料（CD、DVD、マンガ、その他）を多用する。また、学生に質問を投げかけ、対話とシミュレーションを展開しながら講義を進めていく。よって、講義を単に「聴く」のではなく、講義に「参加」する意欲が好成績につながるものと思われる。

◆**準備学修** 特別な予習は必要としないが、講義で紹介された事例・法則・理論・概念などを自分自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）した上で、次の講義にのぞんでほしいと思う。社会学を単なる「机上の学問」としてではなく、日常の（あるいは自分自身の）あらゆる場面と密接に関連した学問としてとらえてほしい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 講義目標・目的の確認	9 回目 代表的国家体制④ 国家の所有者
2 回目 国際社会とは？① 国家の定義	10 回目 国際関係と温度差① 歴史問題
3 回目 国際社会とは？② 国家と社会	11 回目 国際関係と温度差② 情報の循環過程
4 回目 国際社会とは？③ 宇宙船地球号	12 回目 国際社会と大衆文化① 大衆文化の定義
5 回目 国際社会とは？④ 国際空港	13 回目 国際社会と大衆文化② コンテンツ
6 回目 代表的国家体制① 思想的区分	14 回目 国際社会と大衆文化③ 韓流その前後
7 回目 代表的国家体制② 財産所有	15 回目 まとめ
8 回目 代表的国家体制③ 主権者	

◆**教科書** 前期の「社会学」で使用した教科書・参考書（のいずれか）を使用する予定（開講時に指示）。

◆**参考書** 現在出版準備中の文献を使用する予定のため、開講時に指示。

◆**成績評価基準** 最終試験（70%）、受講態度（20%）、レポート類（10%）で評価する。なお、全講義回数の3分の2以上の出席が原則（公欠などは申し出ること）。

◆**授業相談（連絡先）：**

## ◆楽しみながら学ぶ英語の基礎2

〔英語基礎 B〕

金曜日 4 時限

開講単位 1 単位

担当者：中村 則子

◆**学修到達目標** 英語の基本文法を易しい演習問題を解きながら楽しんで学んでいく。  
最終的な目標は英語の総合能力を養うことにある。

◆**授業方法** テキストに沿って、英文を読み、演習問題を行うことで、英語の4技能のうち主に reading のスキルを習得していく。毎回、発表をしてもらうことになる。進み具合により、シラバス通りにならない場合もあることをおことわりしておく。

◆**準備学修** 受講希望者はテキストを初回から持参すること。途中からの受講は原則として認められない。あらかじめ、テキストに目を通し、判らない単語を辞書で調べて演習問題を解き、十分に予習しておくこと。また、日ごろから、やさしく解説してあるような英字新聞を読んだり、英語の曲を聴いたり、洋画を見たりと、とにかく英語の世界に触れてほしい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	9 回目 Unit19 受動態, Unit20 5 文型
2 回目 Unit13 時の前置詞	10 回目 Unit20 5 文型, Unit21 比較
3 回目 Unit13 時の前置詞, Unit14 場所の前置詞	11 回目 Unit21 比較, Unit22 接続詞
4 回目 Unit14 場所前置詞, Unit15 不定詞動名詞	12 回目 Unit22 接続詞, Unit23 助動詞
5 回目 Unit15 不定詞動名詞, Unit16 現在完了	13 回目 Unit23 助動詞, Unit24 関係詞節
6 回目 Unit16 現在完了, Unit17 too / enough	14 回目 Unit24 関係詞節, 復習
7 回目 Unit17 too / enough, Unit18 句動詞他	15 回目 まとめ
8 回目 Unit18 句動詞他, Unit19 受動態	

◆**教科書** 〔丸〕『Reading Steps』Robert Hickling 他著 金星堂 2,160 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** ガイダンスにて指示。適宜プリント配布。中型辞書は毎回持参。

◆**成績評価基準** 発表を含めた授業への取り組み、試験による総合評価。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。



## ■日本政治の今を考える (2)

## 〔政治学特殊講義〕

金曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：秋山 和宏

◆**学修到達目標** 日本の政治を理解し、考える力を向上させる。本講においては、政治過程の観点から日本の政治の「現状」と「問題点」について学ぶ。

◆**授業方法** 主に講義のかたちで進めるが、質疑応答を交えたものにしたい。

◆**準備学修** 授業の性格上時事的な政治問題に強い関心を払ってほしい。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回目	日本政治の諸アクター (1) 概観	9 回目	日本政治過程 (1) 選挙過程
2 回目	// (2) 有権者< 1 >	10 回目	// (2) 立法過程
3 回目	// (2) 有権者< 2 >	11 回目	// (3) 予算編成過程
4 回目	// (3) 政治家と官僚< 1 >	12 回目	// (4) 中央・地方関係
5 回目	// (3) 政治家と官僚< 2 >	13 回目	わが国の政治の問題点と課題 (1) 問題の所在
6 回目	// (4) 政党	14 回目	// (2) 課題についての考察
7 回目	// (5) 圧力団体	15 回目	// (3) 展望・まとめ
8 回目	// (6) マスメディア		

◆**教科書** 指定しない。

◆**参考書** 丸沼『新版現代政治の理論と諸相』秋山和宏編著 三和書籍 3,240 円(税込)(送料 350 円)

◆**成績評価基準** 試験(70%)とレポート(30%)で評価。

◆**授業相談(連絡先)：**

## ■近世芸能の世界－演劇と音曲－

## 〔国文学概論〕

金曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：山崎 泉

◆**学修到達目標** 近世文学には多種多様なジャンルが存在しますが、本講義では芸能、その中でも特に演劇と音曲を取り上げます。

近世に花開いた演劇の二大種目である人形浄瑠璃と歌舞伎、さらには演劇と共に今日まで脈々と継承され続けてきた音曲の世界を概観することにより、生きた古典作品の魅力発見を目標とします。

◆**授業方法** 主に講義形式で行います。配布したプリントの内容に即した講義を行って各ジャンルの特色及び歴史を概観した後、文字資料及び視聴覚資料を活用した作品の鑑賞を行い、具体的な作品への理解を深めていきます。

◆**準備学修** 図書館にある文学史関連の文献を活用して、近世文学史を一通り予習しておいて下さい。また、『国文学概論』テキストの「浄瑠璃」「歌舞伎狂言」の項目にも目を通しておきましょう。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回目	三味線の伝来と人形浄瑠璃・歌舞伎	9 回目	作品鑑賞(江戸歌舞伎と所作事)①
2 回目	浄瑠璃の歴史とその作品①	10 回目	作品鑑賞(江戸歌舞伎と所作事)②
3 回目	浄瑠璃の歴史とその作品②	11 回目	音曲の歴史とそのジャンル①
4 回目	作品鑑賞(時代物と世話物)①	12 回目	音曲の歴史とそのジャンル②
5 回目	作品鑑賞(時代物と世話物)②	13 回目	作品鑑賞(江戸長唄・豊後系浄瑠璃)①
6 回目	歌舞伎の歴史とその作品①	14 回目	作品鑑賞(地歌・浄瑠璃・古曲)②
7 回目	歌舞伎の歴史とその作品②	15 回目	現代に生きる音曲・まとめ
8 回目	歌舞伎の歴史とその作品③		

◆**教科書** 〔当日資料配布〕当日、プリントを配布します。

◆**参考書** 授業時に紹介します。

◆**成績評価基準** 平常点(20%)、試験(80%)。毎回出席することを前提として採点します。

◆**授業相談(連絡先)：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## □世界の多様な宗教を理解する2

## 【宗教学概論】

金曜日 4 時限

開講単位 2 単位

担当者：合田 秀行

◆**学修到達目標** 世界の諸宗教に関する幅広い知識の習得を目的とする。特に後期は、日本とも関わりの深い仏教や神道を軸として、その歴史の変遷とともに現代におけるそれぞれの在り方についても確認する。最後に宗教学に特有な方法論とその意味を理解する。

◆**授業方法** 指定した教科書に基づいて、講義形式で進めますので、必ず下記のテキストを用意して下さい。第一章後半から第二章までは、テキストに従って進めていきますが、第三章・第四章の宗教学用語の解説と第五章の基本文献の紹介については、随時、具体的な宗教の概説と関連づけるなどして取り上げます。映像資料も活用して理解を深めます。

◆**準備学修** 予め指定した教科書の範囲に目を通して講義に臨んで下さい。特に講義の軸となる第一章「世界の諸宗教」の第 6 節から第 14 節の概説が軸になりますので重点的に予習しておくこと。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 インドの宗教 1 ヒンドゥー教	9 回目 神道・民俗信仰 1
2 回目 インドの宗教 2 映像資料鑑賞	10 回目 神道・民俗信仰 2
3 回目 インドの仏教 1	11 回目 新宗教・ニューエイジ
4 回目 インドの仏教 2 映像資料鑑賞	12 回目 宗教へのアプローチ
5 回目 中国・朝鮮半島の仏教	13 回目 宗教学の方法と意味の探究 1
6 回目 日本の仏教 1 南都仏教・平安仏教	14 回目 宗教学の方法と意味の探究 2
7 回目 日本の仏教 2 鎌倉仏教	15 回目 まとめ
8 回目 道教・儒教	

◆**教科書** 丸沼『宗教学入門』棚次正和・山中弘編著 ミネルヴァ書房 3,024 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** 講義内で指示します。また、教科書の各節の末尾にある「参考文献」も参照のこと。

◆**成績評価基準** 平常点（30%）、試験（70%）講義に取り組む姿勢と試験とで総合的に評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

## □言語と私たちの関わり

## 【英語学演習】

金曜日 5 時限

開講単位 1 単位

担当者：青木 克憲

◆**学修到達目標** 言語分類法、言語と方言の違い、言語の変遷、規範主義と記述主義等言語学に関する問題を扱ったテキストを使い、その理解を深める。

◆**授業方法** 受講生に発表してもらう形で授業を行なう。本文の英文は 5 行ぐらい和訳してもらいその後で説明・補足などを加えて内容を検討する。練習問題は解答を答えてもらう。

◆**準備学修** シラバスを参照して、次回に行なう箇所の中で辞書を引き、内容をまとめておくこと。問題は自分の解答を用意しておくこと。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 The Role of Teaching Methods	9 回目 言語の変遷について（補足説明）
2 回目 Ways of Organizing Languages	10 回目 Prescriptivism and Descriptivism
3 回目 Ryukyuan : Language or Dialect	11 回目 Loan words
4 回目 Official Languages : Harmful or Beneficial	12 回目 規範主義と記述主義、借用語について（補足説明）
5 回目 言語と方言について（補足説明）	13 回目 Why do Languages Disappear
6 回目 The English-Only Movements in the u.s.	14 回目 授業全体のまとめ
7 回目 Esperante	15 回目 試験
8 回目 Language Change	

◆**教科書** 丸沼『Language and Our World』三修社 1,944 円（税込）（送料 215 円）

◆**参考書** 授業中に必要に応じて紹介します。

◆**成績評価基準** 授業への取り組み（予習状況、練習問題）（30%）試験（70%）で評価します。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ◻歴史の論文を書く

## 〔西洋史演習〕

金曜日 5 時限

開講単位 1 単位

担当者：藤井 信行

◆**学修到達目標** 4年間の歴史学の勉強を卒業論文に集約させることが目的です。授業をとおして卒業論文のテーマ決定、文献目録の作成、研究史の整理、資料の収集、文献の読解などを指導し、歴史の論文を書くことを学びます。西洋史での卒業論文を予定している学生は、3年次・4年次と継続して受講することが望ましい。

◆**授業方法** 「第一次世界大戦の勃発とイギリス外交政策」をケーススタディとして、文献目録の作成、研究史の整理、文献の読解などをゼミナール形式の授業で行います。3年生は同じステップを各自の論文のテーマで行い、4年生はこうしたステップを各自のテーマでいま一度確認するとともに、二度の報告をとおして論文の章立て、実証方法、脚注の書き方などを学びます。

◆**準備学修** 3年生は卒業論文のテーマになるような出来事・人物などを考えておいてください。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 参考文献目録の提出	9 回目 研究史の整理④
2 回目 3年生の卒論テーマ決定①	10 回目 論文を読む①
3 回目 同②	11 回目 同②
4 回目 4年生の卒論最終報告①	12 回目 同③
5 回目 同②	13 回目 同④
6 回目 研究史の整理①	14 回目 3年生／卒論の章立て①
7 回目 同②	15 回目 同②／研究史整理の提出
8 回目 同③	

◆**教科書** 特に使用せず。〔当日資料配布〕プリントを配付する。

◆**参考書** 特になし。

◆**成績評価基準** レポート2回（前・後期）50%、報告内容 50%

◆**授業相談（連絡先）：**

## ◻情報検索・Web ページ作成法

## 〔情報概論 B〕

金曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：一島 力男

◆**学修到達目標** まず、Windows 8 の基本操作とネットワーク上でのパソコン利用について学ぶ。その上で、WWW による情報収集、HTML と CSS を利用した Web ページの作成について学ぶ。

◆**授業方法** 本講座では講義と演習の両方を行う。講義ではコンピュータネットワークの仕組みと歴史などについて学ぶ。演習では、Web ページを作成することができるように課題に取り組む。  
※授業は、Windows 8 の環境で実施する。

◆**準備学修** Windows 8 の環境でのパソコン操作を確認しておくこと。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス	9 回目 授業内テスト 1
2 回目 コンピュータネットワークについて	10 回目 CSS の基礎
3 回目 ネットワーク環境と Windows 8 の基本操作	11 回目 CSS の応用 1
4 回目 メモ帳とペイントの活用法	12 回目 CSS の応用 2
5 回目 HTML の基礎	13 回目 CSS の応用 3
6 回目 HTML の応用 1	14 回目 総合課題
7 回目 HTML の応用 2	15 回目 まとめ
8 回目 HTML の応用 3	

◆**教科書** 指定しない。

◆**参考書** 授業中に指示する。

◆**成績評価基準** 実習課題（30%）、提出課題（30%）、授業内テスト（60%）により総合評価する。

◆**成績評価基準** ※授業に毎回出席することを前提に評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ◆現代の国際社会

〔社会学 B〕

金曜日 5 時限

開講単位 2 単位

担当者：服部 慶亘

◆**学修到達目標** 今や、この地球において異文化や諸外国と接触せずに日常生活を送ることは不可能に近いと言える。本講義は、そんな現実を前提としつつ、受講学生が社会的な視点から国際社会や異文化交流を多角的にとらえられるようになることを目的として開講される。

◆**授業方法** 教科書・プリント・板書（パワーポイント）などを用い、受講生自身も陥りがちな問題点を指摘・解説する。必要に応じて視聴覚資料（CD、DVD、マンガ、その他）を多用する。また、学生に質問を投げかけ、対話とシミュレーションを展開しながら講義を進めていく。よって、講義を単に「聴く」のではなく、講義に「参加」する意欲が好成績につながるものと思われる。

◆**準備学修** 特別な予習は必要としないが、講義で紹介された事例・法則・理論・概念などを自分自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）した上で、次の講義にのぞんでほしいと思う。社会学を単なる「机上の学問」としてではなく、日常の（あるいは自分自身の）あらゆる場面と密接に関連した学問としてとらえてほしい。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 講義目標・目的の確認	9 回目 代表的国家体制④ 国家の所有者
2 回目 国際社会とは？① 国家の定義	10 回目 国際関係と温度差① 歴史問題
3 回目 国際社会とは？② 国家と社会	11 回目 国際関係と温度差② 情報の循環過程
4 回目 国際社会とは？③ 宇宙船地球号	12 回目 国際社会と大衆文化① 大衆文化の定義
5 回目 国際社会とは？④ 国際空港	13 回目 国際社会と大衆文化② コンテンツ
6 回目 代表的国家体制① 思想的区分	14 回目 国際社会と大衆文化③ 韓流その前後
7 回目 代表的国家体制② 財産所有	15 回目 まとめ
8 回目 代表的国家体制③ 主権者	

◆**教科書** 前期の「社会学」で使用した教科書・参考書（のいずれか）を使用する予定（開講時に指示）。

◆**参考書** 現在出版準備中の文献を使用する予定のため、開講時に指示。

◆**成績評価基準** 終講試験（70%）、受講態度（20%）、レポート類（10%）で評価する。なお、全講義回数の3分の2以上の出席が原則（公欠などは申し出ること）。

◆**授業相談（連絡先）：**

## ■マクロ経済学

〔経済学〕

土曜日 1・2 時限

開講単位 2 単位

担当者：田村 和彦

◆**学修到達目標** 経済諸問題についての理解力・思考力を高めてもらいたい。

◆**授業方法** 講義方式。

◆**準備学修** 各自教科書を読み、予習をすること。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回目 完全競争市場	9 回目 国民所得の計算①
2 回目 不完全競争市場	10 回目 国民所得の計算②
3 回目 貨幣経済①	11 回目 ケインズ型消費関数
4 回目 貨幣経済②	12 回目 国民所得の決定
5 回目 マクロ経済学の定義	13 回目 投資乗数・乗数効果・公共投資
6 回目 国民経済の構造と循環	14 回目 景気循環
7 回目 国民資本と国民所得	15 回目 経済の情報化とグローバル化・まとめ
8 回目 国民所得の定義	

◆**教科書** 教材『経済学 B11800』通信教育教材(教材コード 000450) 1,950 円(送料込)

〔丸〕『経済学』瀬川浩・田村和彦編著 桜門書房 3,024 円(税込)(送料 300 円)

◆**参考書** なし。

◆**成績評価基準** 最終試験。

◆**授業相談**(連絡先)：

## ■土曜日集中 TOEIC チャレンジ

〔TOEIC B〕

土曜日 1・2 時限

開講単位 1 単位

担当者：町田 純子

◆**学修到達目標** TOEIC の出題問題の傾向を探り慣れることで、戦略的に又実践的に、リーディングとリスニングの英語運用能力を養成する事を目的とします。又同時に最低限の基礎文法知識の定着を図り、語彙力増強も図ります。

◆**授業方法** 2 コマ連続の土曜日講座です。TOEIC のリスニング (Part1 ～ Part4) 及びリーディング (Part5 ～ Part7) の練習問題形式のテキストに沿い、発音練習、基礎文法、速読力、読解力増強を図ります。又、音声の基礎知識を整理し、話し言葉特有のリスニングに慣れます。全 7 回で中学生レベルの基礎英単語から TOEIC 頻出範囲までの単語熟語力チェックテストを行います。

◆**準備学修** ガイダンスでは、シラバス内容を確認の上、授業に臨み、授業計画を確認の上、予習、復習をしてください。単語の教材を使用した 7 回実施予定の英単語熟語確認テストの準備として、10 月の初回講義前に教材を購入して、準備を始めて定着を図ってください。

◆**授業計画**〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンスと Mini-Test 及び解説	9 回目 Unit 8 Working in the office 単語テスト 4
2 回目 Unit 1 Going overseas	10 回目 Unit 9 Paying the bills
3 回目 Unit 2 Going shopping 単語テスト 1	11 回目 Unit 10 Advertising a new product 単語テスト 5
4 回目 Unit 3 Talking about food and health	12 回目 Unit 11 Renting an apartment
5 回目 Unit 4 Sports & entertainment 単語テスト 2	13 回目 Unit 12 Troubleshooting 単語テスト 6
6 回目 Unit 5 Preserving nature	14 回目 Review Test 及び解説
7 回目 Unit 6 Giving directions 単語テスト 3	15 回目 まとめ
8 回目 Unit 7 Going job hunting	

◆**教科書** 〔丸〕『TOEIC TEST : On target Book1』大賀リエ William J. Benfield 他 南雲堂 2,160 円(税込)(送料 300 円)

〔丸〕『Word Builder』基礎から学ぶ TOEIC テスト英単語熟語 語学教育教材開発研究会 南雲堂 1,188 円(税込)(送料 300 円)

◆**参考書** 英和辞書(電子辞書でも可)は必携です。

◆**成績評価基準** 全出席を前提に平常点評価として総合的に致します。単語熟語小テスト 7 回(35%)と期末試験(50%) + 宿題等取り組み(15%)

◆**授業相談**(連絡先)：

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談(連絡先)に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## ◆『源氏物語』『賢木』『花散里』巻を読む

〔国文学講義Ⅱ（中古）〕

土曜日 1・2 時限

開講単位 2 単位

担当者：笹生 美貴子

◆**学修到達目標** 日本古典文学の極北とされる『源氏物語』を取り上げ、吟味することによって、物語の読みの広がりや解釈を学ぶ。また、周辺作品との関連にも触れながら、『源氏物語』の文学的位置についても考えていく。文学作品にふれることにより、心の豊かさや、物語作品に込められたメッセージを読み取る力を養うことを目標とする。

◆**授業方法** 作品の講読というスタイルをとる。文脈の一つ一つを丹念に追いかけて作品世界を読解し、その魅力を明らかにする。また、『源氏物語』に影響を与えた作品についても取り上げる。当時の文化・年中行事・俗信など、日本独自の伝統文化についても併せて勉強していく。また、最終日に小論文（授業内容を踏まえた上での論述）を書いてもらい、試験の代わりとする。

◆**準備学修** 事前に「賢木」「花散里」巻（教科書）全体に目を通し、内容を把握しておくこと。また、難解な語については古語辞典を用いて予習を行うことが望ましい。登場人物が多く複雑なため、教科書に載っている人物系図等を参考にしつつ把握しておくこと。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 ガイダンス 概説	9 回目 『源氏物語』『賢木』巻の読解⑦
2 回目 『源氏物語』の周辺作品について学ぶ	10 回目 『源氏物語』『花散里』巻の読解①
3 回目 『源氏物語』『賢木』巻の読解①	11 回目 『源氏物語』『花散里』巻の読解②
4 回目 『源氏物語』『賢木』巻の読解②	12 回目 『源氏物語』の現代語訳①（谷崎訳・与謝野訳を中心に）
5 回目 『源氏物語』『賢木』巻の読解③	13 回目 『源氏物語』の現代語訳②（谷崎訳・与謝野訳を中心に）
6 回目 『源氏物語』『賢木』巻の読解④	14 回目 『源氏物語』受容の多様性について学ぶ
7 回目 『源氏物語』『賢木』巻の読解⑤	15 回目 まとめ
8 回目 『源氏物語』『賢木』巻の読解⑥	

◆**教科書** 丸沼『古典セレクション 源氏物語③』阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男 小学館 1,728 円（税込）（送料 300 円）

◆**参考書** 多岐にわたるので、授業時に伝える。

◆**成績評価基準** 「授業後提出の意見・質問」40%、「試験（小論文）」60%  
毎回出席することを前提として評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

## ◆中国経済の実態を学びましょう

〔中国経済論〕

土曜日 1・2 時限

開講単位 2 単位

担当者：齊 中凌

◆**学修到達目標** 日本と中国の経済関係はこの 30 年間で大きく拡大したが、一方で近年は政治的な緊張関係も強まっている。我々は、中国という国の仕組みや経済建設の経緯が日本と大きく異なることを認識した上で、現在起きている事象の本質を理解し、直面する事態と向き合っていかなければならない。この講義では、中国経済の各部門の特徴について基礎となる知識を習得し、中国経済に対する理解を深めることを目指す。

◆**授業方法** 講義は、配布資料とパワーポイントに沿って進める。授業時間内に、出欠を兼ねて、筆記課題やクイズへの回答を提出してもらうこともある。中国を身近に感じられるように、可能な限り写真や映像なども取り入れて講義を進めたいと考えている。また、足下の中国の経済・社会動向や世界経済・国際金融情勢との関係など時事問題についても、講義の中で解説を加える。

◆**準備学修** テキストの第 2 部と第 3 部を事前に読んでおいていただきたい。なお、中国は変化のペースが非常に速いため、参考図書や資料は、講義の際にテーマに応じて適宜紹介する。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 世界経済における中国経済の位置づけ	9 回目 人民元の為替相場、金利と資本取引
2 回目 GDP 大国における人々の生活（1）	10 回目 一人っ子政策と労働力市場の変容
3 回目 GDP 大国における人々の生活（2）	11 回目 経済発展とともに強くなる財政力
4 回目 中国の GDP の構成と特徴（1）	12 回目 中国の土地政策と不動産バブル
5 回目 中国の GDP の構成と特徴（2）	13 回目 国進民退といわれている中国企業
6 回目 経済を支える対外貿易（1）	14 回目 「投機市場」の色彩が濃厚な株式市場
7 回目 経済を支える対外貿易（2）	15 回目 中国の環境問題とグリーン GDP・まとめ
8 回目 中国の銀行システムと金融政策の概要	

◆**教科書** 丸沼『現代中国経済論』加藤弘之・上原一慶 ミネルヴァ書房（2011 年 4 月）3,456 円（税込）（送料 350 円）

◆**参考書** 使用しない。

◆**成績評価基準** 期末テスト、出席の成績を総合して評価する。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

## 【簿記の基本を学びましょう】

## 【簿記論Ⅰ】

土曜日 1・2 時限

開講単位 2 単位

担当者：遠藤 洋介

◆**学修到達目標** 初めて簿記を勉強する方を対象に、簿記の一連の流れ（会社の成績表ができるまでの流れ）を学んで頂きます。『帳簿をつける』ということや『決算』というものはどういうものなのかを理解して頂き、会社の成績表をつくれるようになることを目標にしています。

◆**授業方法** まず、黒板を使って、テキストに書いている内容を簡単にまとめて解説をします。  
テキストには例題もありますので、黒板で解き方を解説し、イメージをもって頂きます。  
その後、テキストやワークブックにある練習問題を各自で解いて頂き、解説や補足説明等を行います。  
なお、後期の授業では、なるべく問題を解いて頂く時間を多めにしようと考えています。

◆**準備学修** 授業内容は毎回つながっていきますので、復習が大変重要になります。各回の授業で勉強したことは、次の授業までにもう一度復習するようにして下さい。また、授業では電卓が必要となります（最初の授業の際に説明します）。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 簿記の意義としくみ	9 回目 有価証券
2 回目 仕訳と転記	10 回目 固定資産
3 回目 決算（その 1）	11 回目 資本金と引出金
4 回目 現金と預金	12 回目 収益と費用
5 回目 商品売買	13 回目 伝票
6 回目 売掛金と買掛金	14 回目 決算（その 2）
7 回目 その他の債権と債務	15 回目 まとめ
8 回目 受取手形と支払手形	

◆**教科書** 〔丸沼〕『検定簿記講義 3 級商業簿記』 渡部裕恒・片山寛・北村敬子 中央経済社 756 円（税込）  
（送料 300 円）

〔丸沼〕『検定簿記ワークブック 3 級商業簿記』 渡部裕恒・片山寛・北村敬子 中央経済社 756 円（税込）  
（送料 300 円）

◆**参考書** 特になし。

◆**成績評価基準** 原則として、試験の結果により評価をしますが、授業中に小テストを実施した場合にはそれを加味することがあります。

◆**授業相談（連絡先）：**

## 【授業デザイン力をつける】

## 【教育の方法・技術論】

土曜日 1・2 時限

開講単位 2 単位

担当者：古賀 徹

◆**学修到達目標** この授業は、「教員としての授業実践力」を修得することを目的としています。そのために次のような順序で学びます。①「授業が成り立つ条件」を理解する。②様々な授業形態を歴史的に、あるいは諸外国と比較することでより深く理解する。③カリキュラム構成方法を修得することで、学習指導計画を組み立てられるようにする。④実際に作業することで教育方法のコツを修得する。①～④によって、授業づくりと実践力ををつけ（増し）ていきましょう。

◆**授業方法** 講義形式、ワークショップ形式、グループワーク、ロールプレイなどをとりいれる。

◆**準備学修** 方法論の理論やその種類・系統を理解するだけではなく、さらにその理解したことを実際に活用すること、生徒の理解を前提とする授業を構成することができるようになることが大事です。

他の各教科の指導法（教科教育法）の授業やテキストの記述からも（実施する）「授業」に関するイメージを具体的にあらわせるように学んでおくことをおすすめします。毎回、前回までの授業と必ず関連した内容になっていますので、復習をしっかりとしておくこと。それが最終回までの授業でつながっていきます。

### ◆授業計画〔各 90 分〕

1 回目 「教える」ことと「学ぶ」こと	9 回目 問題解決学習と系統学習
2 回目 「学習」観が問題となる現代社会	10 回目 カリキュラム構成の方法
3 回目 教育方法学の歴史（西洋教育方法史）	11 回目 カリキュラムづくりの実習
4 回目 教育方法学の歴史（日本の教育内容の変遷）	12 回目 学校カリキュラムを構成する
5 回目 「学習」概念（ヴィゴツキーの活動理論）	13 回目 学習指導案の種類とその構成
6 回目 授業形態の多様化（バズ学習、T.T 等）	14 回目 学習実践のロールプレイ
7 回目 「はなす」ことと「きく」こと	15 回目 教材研究・教育評価の方法
8 回目 「はなす・きく・かく・まとめる」	
16（最終）試験 ※1と2で1日目、3・4（2日目）、5・6（3日目）、7・8（4日目）、9・10（5日目）、11・12（6日目）、13・14（7日目）、15+16（8日目）	

◆**教科書** 〔当日資料配布〕資料・レジュメを配布する。

◆**参考書** 授業中に指示する。〔当日資料配布〕適宜に資料・レジュメを配布する。

◆**成績評価基準** この授業の評価は、授業への参加（グループ学習含む）、提出物・課題、試験成績の総合的評価とする。出席状況の悪いもの、課題未提出の場合は評価を行なわない。

◆**授業相談（連絡先）：**

E-mail を送るときは、必ず件名欄に「日本大学通信教育部」「学生番号」および「氏名」を記入のこと。例：「日本大学通信教育部 24151999 日大通子」  
※授業相談（連絡先）に記載のない講座においては、授業終了後に質問を受け付けます。

# VII 通学定期券の購入手続

通学定期券は、正科生がスクーリング受講を目的として通学する場合に限り購入できます。通学定期券購入の手続き等は、以下のとおりです。

## 1 学生証裏面学籍シールへの記入

- ① 「学生番号」、「氏名」、「現住所」を黒のボールペンで記入してください。
- ② 「通学区間」欄に対象区間及び経由（乗り換え駅）を記入してください。また、定期券が2枚に分かれる場合は2行に分けて記入してください。

## 2 購入手続

- ① 「学生証」及び「通学定期乗車券発行控」（※昼間スクーリング受講手続説明会にて配付）持参で事務取扱時間内に学生課窓口に来校し、所定の用紙に記入して「在籍確認」印の押印を受けてください。
- ② 通学定期券取扱い駅の窓口にて定期券購入用紙に必要事項を記入し、押印済の学生証を提示することで通学定期券が購入できます。

## 3 学生課窓口で記入する所定用紙について

- ① 通学定期乗車券発行控（全員必要）
- ② 滞在先届（スクーリング期間中に現住所以外から通学する場合に限り必要）
- ③ 通学証明書（都営地下鉄、都電、各路線バス等を利用する場合に必要）

## 4 対象区間

自宅（又は滞在先）の最寄り駅から以下「通信教育部最寄り駅」までの最短経路を対象とします。

【通信教育部最寄り駅】

鉄道会社	最寄り駅（市ヶ谷キャンパス）
JR 東日本	市ヶ谷駅
都営地下鉄	
東京メトロ	

※ 最短経路とは所要の時間が最短、交通費が最安、乗換が最少である等の合理的な経路のことをいいます。

※ 途中経路や迂回経路は一切認められません。

## 5 禁止事項

通学定期券を不正に使用してはいけません。不正使用したことが発覚すると、鉄道会社等の営業規則に基づき定期運賃の数倍の罰則金等が科せられます。

また、大学自体も通学定期券発行の指定から外され、他の学生に多大な迷惑をかけることになります。不正使用は絶対に行わないでください。

【不正使用一覧】

① 住所を偽って通学証明書の発行を受けること。	② 他人に譲渡・貸与すること。
③ 記名人以外が使用すること。	④ その他、不正に使用すること。

## 6 その他注意事項

- ① 通学区間が変更となった場合は、学生課に届け出てください。
- ② 年度内に「通学定期乗車券発行控」欄が不足となった場合は、学生課へ届け出てください。
- ③ 「在籍確認」印は、年度内に限り有効です。







- ・教材購入用紙（丸沼書店用）
- ・教材購入願（通信教育教材用）

## 「為替」送付時の注意事項

「証明書交付願」「教材購入願」等の各種手続において、手数料等を郵送にて「定額小為替証書」又は「普通為替証書」で納入する場合には、以下のことに注意してください。

なお、「定額小為替証書」又は「普通為替証書」をゆうちょ銀行又は郵便局窓口で購入する際は、手数料がかかります（詳細は郵便局窓口でご確認ください）。

### 注意事項①

「証書」と「払渡票」は切り離さないでください。

### 注意事項②

これらの欄には何も記入しないでください。

「普通為替証書」も同様に、何も記入しないでください。

### 注意事項④

この欄には何も記入しないでください。

### 見本 表

#### 定額小為替証書

01234-567890

指定受取人  
おなまえ

300円

おとこ

上記の金額を受け取りました。

おなまえ

裏面の注意書をごらんください。

#### 定額小為替払渡票

01234-567890

300円

この証書は機械で処理しますので、折り曲げたり、汚したりしないでください。

### 見本 裏

#### ご 注 意

- この証書をお受取人に送られる際は、表面の指定受取人欄にお受取人のおなまえをご記入下さい。なお、お受取人の指定がない証書については、証書の持参人に為替金をお支払いすることとし、これにより生じた損害については、当行及び郵便局株式会社（郵便局株式会社が発行した者を含みます。）は責任を負いません。
- この証書は、他の銀行その他の銀行の定める金融機関以外の者に譲渡することができません。
- 当行または当行と同一の手形交換所に参加している他の銀行その他の金融機関にお受取人のご名義の口座をお持ち等の場合、同口座の預金への入金等を行うことができます。なお、証書の発行の日から一定期間経過後は、このお取扱いができません。
- 為替金をお受け取りになる場合は、表面の所定の欄におとこ・おなまえを記入し、押印またはご署名をしてください。
- 為替金をお受け取りを代理の方に委任される場合は、委任欄に代理の方のおなまえと委任者（お受取人）のおとこ・おなまえを記入し、押印を押ししてください。
- 代理の方が為替金をお受け取りになるときは、表面の所定の欄に「〇〇〇〇代理人」のように肩書をつけて、代理の方のおとこ・おなまえを記入し、押印を押ししてください。
- ゆうちょ銀行または郵便局では、為替金をお支払いする際、お受取人ご本人であることを確認させていただくため、運転免許証または健康保険証等の書類のご提示をお願いすることがあります。なお、代理の方が為替金をお受け取りになる場合は、代理の方の書類のご提示をお願いすることや、お受取人と代理の方両方の書類のご提示をお願いすることがあります。
- 発行の日から6か月以内に為替金をお受け取りにならないときは、お申出により証書を再交付いたします。なお、発行の日から5年間そのままでしておきますが、証書の再交付を請求する権利及び為替金を受け取る権利がなくなります。

委任欄  
(代理人) おなまえ  
上記の者を代理人としてこの証書の金額を受け取ることを委任します。  
(委任者) おとこ 〇  
おなまえ

### 注意事項⑤

右「受領書」は送付せず、各自で保管してください。郵便事故等で「郵便小為替」が行方不明になった場合、この「受領書」が必要になりますので、各種手続が完了するまで大切に保管してください。

#### 定額小為替金受領証書

### 見本 表

01234-567890

300円

料金 100円

おとこ

発行日付印

(お客さま控)

(お客さま控)

## 市販教材（市販本）購入用

(送付先) 丸沼書店

平成27年度 昼間・土曜スクーリング			
申 込 日	平成 27 年                      月                      日		
科 目 名	書                      名	教材費（税込）	送                      料
小                      計		円	円
合                      計		円	
購入方法 (いずれかに○)	<input type="checkbox"/> ①代金引換 <input type="checkbox"/> ②定額小為替・郵便為替 <input type="checkbox"/> ③現金書留		

※下記の住所、氏名の欄は返信用に使用しますのではつきり書いてください。

送 り  先	住　　所	〒　　　－
	氏　　名	
	電　話　番　号	(　　　　　　　　　　　)

※この用紙で『通信教育教材』は購入できません。  
※不足する場合は複写の上、使用してください

購入方法は裏面を参照してください。

## 【購入方法】

(1) ～ (3) の方法で通信販売も可能です。

(1) 代金引換払（手数料 250 円が別途かかります）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」に必要事項を記入の上，以下宛に郵送又は FAX をしてください。

(2) 郵便為替（前納）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格＋送料の合計金額分の定額小為替又は郵便為替を同封して下記へ郵送してください。

(3) 現金書留（前納）

本紙「教材購入用紙（丸沼書店用）」と税込価格＋送料の合計金額を同封して下記へ郵送してください。

不明な場合は，丸沼書店に直接問い合わせてください。

### ※送料について

送料は書籍の総重量で変わります。それぞれの書籍の組み合わせにより送料が異なりますので，郵便為替・現金書留の場合，ご注文各書籍の送料の合計をお送りください。余った送料については，ご返金いたします。また，代金引換払の場合，書籍代＋送料（実費）＋手数料（250 円）を受取時にお支払いください。

（書 店 名）（株）丸沼書店  
（所 在 地）〒 101 - 0061  
東京都千代田区三崎町 2 - 8 - 12  
（電 話 ） 03 - 3261 - 4540  
（F A X） 03 - 3261 - 0118  
（営 業 時 間） 9：00 ～ 20：00（日曜日は休み）

# 通 材

平成 年 月 日

日本大学通信教育部 御中  
(提出先：会計課)

## 教材購入願 (通信教育教材用)

学 生 番 号						氏 名	フリガナ
連絡先電話番号 (携帯電話可)						- -	

(太線枠内にボールペンで記入してください)

	教材コード	科 目 名	金 額	スクーリング種別 講 座 名
1	0 0 0			
2	0 0 0			
3	0 0 0			
4	0 0 0			
5	0 0 0			
6	0 0 0			
合計科目数		合計金額		
		科目	円	

※ボールペンで記入してください。

※「教材コード・科目名・金額」は『部報』・『各種スクーリング手引』で確認し、必ず記入してください。

「教材コード (6桁)」と「科目コード (6桁)」は異なりますので、注意してください。

※「スクーリング種別・講座名」にはスクーリング・メディア授業において『通信教育部教材』を使用する場合にのみ記入してください。

※『スクーリングの手引』における各講座の「シラバスと使用教材」の教科書 (参考書) 欄で指定されているもの、例えば、「**通材**『政治学 B11700』通信教育教材 (教材コード 000279)」と記載されている教材を購入する場合は「政治学」を科目名として記入してください (受講科目ではなく指定された教材の科目名を記入)。

会計課領収印

--

## 「通信教育教材」の購入について

『通信教育教材』を購入する場合、「教材購入願」を使用し、以下の手続きにしたがって教材を入手してください。また「教材購入願」で購入できる教材は、『通信教育教材』のみです。スクーリング等で教科書・参考書に指定された『市販教材（市販本）』は丸沼書店又はお近くの書店で購入してください。

### 1 購入手続

#### ① 窓口手続

「教材購入願」に必要事項を記入し、現金を添えて会計課窓口（1号館2階）へ提出してください（なるべく釣り銭のないようにしてください）。

#### ② 郵送手続

現金書留又は為替が利用できます。

##### (1) 現金書留での購入

「教材購入願」と合計金額分の「現金」を現金書留封筒にて会計課あてに送付してください。**その際、必ず釣り銭のないようにしてください。**

注意：普通郵便の中に現金を封入することは、郵便法によって禁止されています。

また、郵便事故による補償ありませんので、必ず現金書留を利用してください。

##### (2) 為替での購入

「教材購入願」と合計金額分の「定額小為替証書」又は「普通為替証書」を会計課あてに送付してください。

注意：郵便事故防止のため、なるべく簡易書留や特定記録郵便を利用してください。

**為替には何も記入せず送付してください。**

### 2 教材購入対象者

- ① 面接授業（スクーリング）、メディア授業で『通信教育教材』を使用する場合
- ② 教材を紛失した場合
- ③ 学習する際に、参考として使用する場合
- ④ 教材が改訂された場合
- ⑤ 配本申請単位、回数をこえた場合
- ⑥ 科目履修生

### 3 注意事項

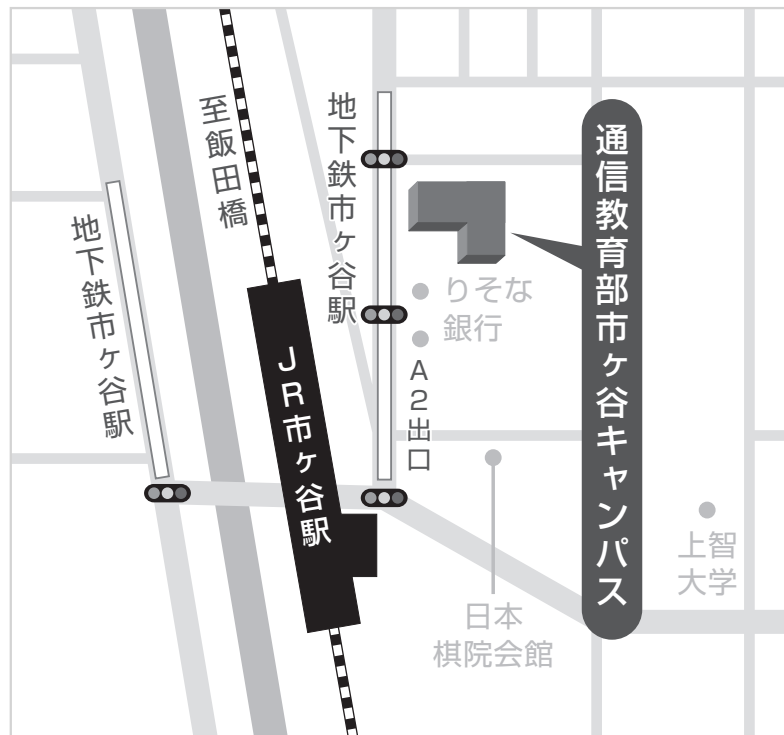
- ① 手続後の変更・取り消しはできません。また、返金もしませんので注意してください。
- ② 教材は大学に登録されている住所へ発送し、**窓口ではお渡ししません。**  
教材が手元に届くまでに約1週間要しますので、特にスクーリング、メディア授業で使用する場合は「受講許可通知書」を確認した後、速やかに購入手続きをしてください。
- ③ 「教材購入願」で入手した教材でレポート提出はできません。レポート+科目修得試験方式、スクーリング併用試験方式、メディア授業併用試験方式で単位修得する場合は、履修登録（履修届・追加科目履修届）で教材を入手してください。



## 校舎案内

### 市ヶ谷キャンパス

【所在地】〒102-8005 東京都千代田区九段南 4-8-28



JR 中央・総武線（各駅停車）市ヶ谷駅下車 徒歩 3 分

都営地下鉄新宿線，東京メトロ有楽町線・南北線 市ヶ谷駅 A2 出口から 徒歩 2 分

## 丸沼書店案内図



JR 中央・総武線（各駅停車），都営地下鉄三田線 水道橋駅東口から 徒歩 3 分

都営地下鉄三田線・新宿線，東京メトロ半蔵門線 神保町駅 A4 出口から 徒歩 5 分



**DISTANCE LEARNING DIVISION, NIHON UNIVERSITY**

編集兼発行人 福田弥夫 〒102-8005 東京都千代田区九段南4-8-28 日本大学通信教育部